



受診案内 (診療日、診療時間など)

24 時間対応

TEL. 03-5803-4131

セカンドオピニオン外来受付

受付時間 8:30 ~ 17:00

(土日祝日、年末年始 12 / 29 ~ 1 / 3 は除く)

TEL. 03-5803-4568

初診事前予約 (紹介状をお持ちの方のみの対応です)

受付時間 8:30 ~ 16:00

(土日祝日、年末年始 12 / 29 ~ 1 / 3 は除く)

TEL. 03-5803-4655

FAX. 03-5803-0119

(FAX 受信は 24 時間可能)

なお、時間外、休日等の FAX 受信分は
翌診療日の対応となります。



国立大学法人

東京医科歯科大学

東京医科歯科大学 医学部附属病院

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

総務課 / TEL 03-5803-5097 FAX 03-5803-0110

Medical Hospital, Tokyo Medical and Dental University

1-5-45 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8519, Japan

TEL:+81-3-5803-5097 FAX:+81-3-5803-0110

<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/index.html>

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

Cultivating Professionals with Knowledge and Humanity,
thereby Contributing to People's Well-being

MEDICAL HOSPITAL

Be the One and Only Hospital



国立大学法人

東京医科歯科大学

知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する

医学部附属病院

「ここにしかない最善の医療」を目指して

病院案内 2016



理念 安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院

- 目標
1. 患者中心の良質な全人的医療の提供
 2. 人間性豊かな医療人の育成
 3. 高度先進医療の開発と実践
 4. 国民のニーズに応える開かれた病院

心やすらぐ環境を提供しつつ、安全で優れた高度医療を実践します



当病院の理念は、「安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院」です。「病める」方々に、心やすらぐ環境を提供しつつ、安全で優れた高度医療を、自らも開発しながら実践しつづけることが当病院に求められている責務であると考えています。さらに、「社会に開かれていること」を常に念頭において、透明性の高い、かつ説明責任の果たせる病院でありたいと考えております。

この理念を基盤として、当病院は次の4つの目標を掲げております。

- 患者中心の良質な全人的医療の提供
- 人間性豊かな医療人の育成
- 高度先進医療の開発と実践
- 国民のニーズに応える開かれた病院

特定機能病院として、各診療科の緊密な連携のもとに、個々の患者さんに適した医療を統合して提供しつつ、新規医療技術を多様な分野との協力のもとに開発し、かつ、きめ細かな医療研修を行うことで、優れた医療人を育成することに、力を注いでおります。また、急性期病院として、救急を含めた急性期の医療を中心に展開しつつ、診療所あるいは療養型医療機関とも密接に連携して、長期にわたる広汎な医療システムの構築にも努めております。

当病院には41の診療科と28の中央診療施設があり、年間約58万人が外来を受診されています。難治疾患を対象とする各センターに加え、様々な診療センターを整え、対象疾患に関連する各エキスパートが力を合わせて診療に当たっております。当病院が、「病める」方々に対して「心のオアシス」になることができますよう、職員一同、心をこめて日々改善に努めております。

本院に対して皆様のご理解、ご支援を賜れましたら、誠に幸甚に存じます。

東京医科歯科大学医学部附属病院 病院長

大川 淳 (おおかわ・あつし)



Index

ごあいさつ 東京医科歯科大学医学部附属病院長 大川 淳	2
Index	3
Organization Chart (医学部附属病院機構図)	4
初診の方の事前予約について	5

難病治療部のご案内

難病治療部の紹介と予約方法	6
膠原病・リウマチ先端治療センター	7
潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター	8
神経難病先端治療センター	9
腎・膀胱・前立腺がん先端治療センター	10
頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター	11

各種センターのご案内

医療連携支援センター	13
臨床試験管理センター	14
MEセンター	15
細胞治療センター	16
不整脈センター	17
快眠センター	18
スポーツ医学診療センター	19
腫瘍センター	20
総合教育研修センター	21
長寿・健康人生推進センター	22
クオリティ・マネジメント・センター	23
周産期母子医療センター	24
脳卒中センター	25

診療科のご案内

血液内科	27	腫瘍化学療法外科	40	形成・美容外科	53
膠原病・リウマチ内科	28	乳腺外科	41	整形外科	54
糖尿病・内分泌・代謝内科	29	小児外科	42	小児科	55
腎臓内科	30	末梢血管外科	43	新生児集中治療室(NICU)	56
老年病内科	31	肝胆膵外科	44	周産・女性診療科	57
消化器内科	32	心臓血管外科	45	脳神経外科	58
循環器内科	33	呼吸器外科	46	神経内科	59
呼吸器内科	34	泌尿器科	47	血管内治療科	60
総合がん・緩和ケア科	35	頭頸部外科	48	精神科	61
遺伝子診療科	36	病理診断科(病理部)	49	心身医療科	62
食道外科	37	眼科	50	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	63
胃外科	38	耳鼻咽喉科	51	放射線治療科	64
大腸・肛門外科	39	皮膚科	52	放射線診断科	65

中央診療施設等のご案内

救命救急センター	67	リハビリテーション部	78
保険医療管理部	68	集中治療部	79
医療安全管理部	69	材料部	80
感染制御部	70	光学医療診療部	81
臨床研究監視室	71	医療情報部	82
看護部	72	血液浄化療法部	83
薬剤部	73	総合診療部	84
検査部	74	高気圧治療部	85
手術部	75	臨床栄養部	86
放射線部	76	事務部	87
輸血部	77		

病院データ

診療科別患者数	88
患者数の推移	89
救急患者数	89
地域別患者数	89
臨床検査件数	90
手術件数	91
放射線検査治療件数	92
分娩件数	92
処方枚数・件数・注射処方枚数	93
医療機関の指定状況等	93
建物配置図	94
所在地略図	95
各種窓口	96

Organization Chart (医学部附属病院機構図)



初診の方の事前予約について

※難病治療部の予約方法はP6をご参照ください

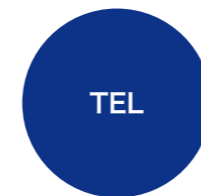
医療機関の方へ

■ 医療機関からの電話・FAX予約

東京医科歯科大学医学部附属病院では、患者さんの診療までの待ち時間短縮を図るため、電話・FAXでの予約を行っています。申込書・診療情報提供書のフォーマットは、以下のホームページアドレスよりダウンロードできます。なお、診療情報提供書は各医療機関の使用している書式でも結構です。

<http://www.tmd.ac.jp/renkei/renkei/yoyaku/iryuu.html>

(ご注意) 受診当日の予約は受付けていません。翌日分の予約受付は14:00までとなります。



下記の番号にお電話ください。

03-5803-4655

受付時間 8:30~16:00
(土日祝日、年末年始12/29~1/3は除く)



「東京医科歯科大学医学部附属病院 医療連携支援センター地域連携室」のホームページから「申込書」をダウンロードしていただき、必要事項を記載の上、FAXにてご送信ください。地域連携室から原則20分ほどで外来診療予約票をFAXにてお送りし、予約の決定となります。

03-5803-0119

受付時間 8:30~16:00 (FAX受信は24時間可能)
(土日祝日、年末年始12/29~1/3は除く)
時間外、休日等のFAX受信分は翌診療日にご連絡させていただきます。



患者さんの予約日前診療日の
正午までに

診療情報提供書

をFAXにてご送信ください。

FAX: 03-5803-0119

精神科・心身医療科の予約は精神科にお問い合わせ下さい。

精神科電話番号: 03-5803-5673

受付時間 14:00~17:00 (土日祝日、年末年始12/29~1/3は除く)

一般・個人の方へ

■ 紹介状 (診療情報提供書) をお持ちの患者さんからの初診予約

紹介状 (診療情報提供書) をお手元にご用意いただき、下記の番号にご連絡ください。

初診事前予約専用 TEL: 03-5803-4655

受付時間 12:00~16:00 (土日祝日、年末年始12/29~1/3は除く)

難病治療部 のご案内

難病治療部の紹介と予約方法	6
膠原病・リウマチ先端治療センター	7
潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター	8
神経難病先端治療センター	9
腎・膀胱・前立腺がん先端治療センター	10
頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター	11

難病治療部のご紹介

難病のトータルケアを行う難病治療部をご利用ください

東京医科歯科大学医学部附属病院では、従来から「難病」の治療に積極的に取り組み、多数のエキスパートが診療に当たっています。難病治療部では、そのノウハウを生かし、難病を持つ患者さん一人一人の心に寄り添い、苦しみや不安を少しでも和らげるように、複数のエキスパートがチームとなって診療をトータルに進めていきます。

難病治療部の 特徴

- 世界的に見ても高度な知識と技術を持った医師が難病治療を担当します。
- 「難病」に関わる全ての診療科の経験豊富な医師が集まり、患者さんの症状に合わせてきめ細かい治療を行います。
- それぞれの「難病」を専門とする「センター」を受診することで、最善の診療を受けることができます。

膠原病・リウマチ
先端治療センター

潰瘍性大腸炎・クローン病
先端治療センター

神経難病
先端治療センター

腎・膀胱・前立腺がん
先端治療センター

頭頸部・頭蓋底腫瘍
先端治療センター

医療機関からの難病治療部の初診事前予約方法（電話またはFAXにてスムーズに受診予約できます。）

① 電話・FAX	難病治療部の受診方法	次の番号に電話または申込書のFAXをお願いします。 (申込書はホームページからダウンロードできます。) 受付時間 8:30~16:00(土日祝日、年末年始12/29~1/3は除く) TEL: 03-5803-4655 FAX: 03-5803-0119 (FAX受信は24時間可能) ※時間外、休日等のFAX受信分は翌診療日にご連絡させていただきます。
② 予約日の決定	「外来診療予約票」を原則20分ほどでFAXにて返送いたします。	
③ 紹介状 (診療情報提供書)	予約日前診療日の正午までに紹介状をFAXにてご送付ください。	
④ 予約日に受診	当日の持ち物	●紹介状(原本) ●保険証 ●外来診療予約票
予約時間の30分前までに1階初診受付窓口(⑤番)にお越しください。		

※申込書・診療情報提供書のフォーマットは以下のホームページアドレスよりダウンロードできます。なお、診療情報提供書は各医療機関の使用している書式でも結構です。
<http://www.tmd.ac.jp/renkei/renkei/yoyaku/iryuu.html>

膠原病・リウマチ先端治療センター

Advanced Clinical Center for Rheumatic Diseases

Dial-in

● 03-5803-4770

http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_high/kougen.html

小児科が加わり、小児から大人まで膠原病やリウマチの患者さんに
先進的な治療、個々のニーズに合った治療を
ご提供できる体制となりました

●センターの概要

当センターは、膠原病・リウマチ内科、小児科、整形外科、リハビリテーション部が一体となって、子供から大人まで膠原病や関節リウマチの患者さんに各科の専門医が先進的な治療、個々の患者さんのニーズにあった治療を提供することを目的としています。特に、生物学的製剤などを含む最先端の薬物治療や、効果の高い関節機能再建術に力を注いでいます。

●おもな診断・治療法

小児も含めた膠原病・リウマチ性疾患の患者さんの診療は、熟練したリウマチ専門医が担当し、問診・診察・血液検査・画像検査を組み合わせて行います。整形外科では、関節鏡による滑膜診断や、人工関節による機能再建を積極的に行っています。

●高度な先進医療

関節リウマチに対する生物学的製剤の使用実績は全国トップレベルです。関節リウマチ、皮膚筋炎・多発性筋炎、全身性エリテマトーデス、血管炎症候群、強直性脊椎炎などを対象とする新薬の治験や、難治性の小児膠原病・リウマチ性疾患を対象とした新薬の治験も積極的に行っています。人工股関節・膝関節置換術や手・足の関節手術および術後リハビリテーションも数多く安全に実施しています。人工股関節・膝関節置換術の実施数は全国的にも有数で、特に両側同時手術は全国で1位、2位を争う実績を誇ります。

●その他

～センター連携病院・クリニックの募集～

当センターは、関連病院も含め広い地域の病院、クリニックと連携し、診療ネットワークを構築することにより、地域全体での難病診療のレベルアップを目指しています。このため、当センターとの連携にご興味がある先生は(tmd.rheu@tmd.ac.jp)までぜひご連絡ください。

具体的には、センター連携病院・クリニックからご紹介頂いた方は、病状の落ち着いた状態になった後は先生方に定期的に診察頂き、当センターでは1年に1回、経過を確認し、治療方針についてご相談させていただきます。

また、センター連携病院・クリニックの先生方やコメディカルの方と定期的に勉強会の機会を設け、ご紹介頂いた患者さんや最新の膠原病・リウマチ診療について情報共有をはからせて頂きます。



センター長
上阪 等 Hitoshi Kohsaka

専門医 ●日本内科学会認定
総合内科専門医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医
専門分野 ●膠原病内科学
研究領域 ●膠原病の病態解明と新治療法の開発



Message

膠原病や関節リウマチは、早期診断と早期治療によって健康な方に近い生活を送ることも可能になります。そのためには、正確な診断と的確な治療方針、経過中に出現するさまざまな合併症に対する対処が必要です。当センターではこのようなニーズにお応えするため、小児科を含めた3つの診療科と1つの中央診療部門が強い連携のもと、患者さんの診療を担当しております。



潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター

Advanced Clinical Center for Inflammatory Bowel Diseases

Dial-in

● 03-5803-4770

http://www.tmd.ac.jp/med/acid/inflammatory_bowel_diseases/index.html

「患者さんの腸の状態を適切に判断し治療を行うこと」
をモットーに専門診療を充実させていきます

センターの概要

当センターでは「患者さんの腸の状態を適切に判断し治療を行うこと」をモットーに、以下の4つの特長をもつ専門診療を更に充実させていきます。

1. きめ細かく専門性の高い診療を実践しています！
2. 身体に負担の少ない検査を心がけ、独自に開発も進めています！
3. 難しい患者さんも積極的に診療しています！
4. 高い治療のゴールを目指しています！

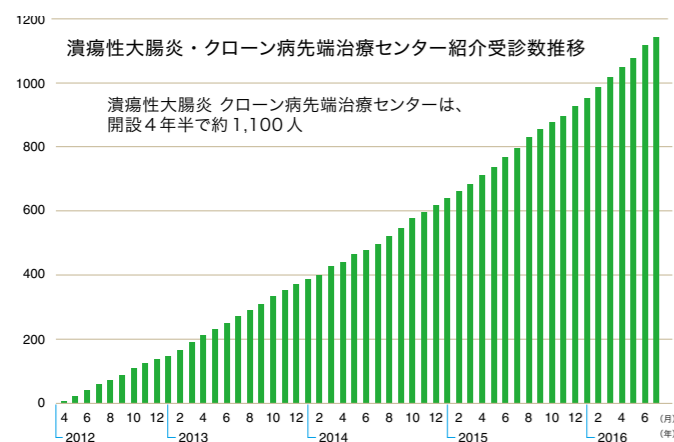
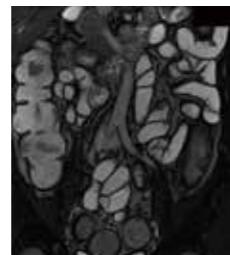
おもな診断・治療法

- (1) 診断法：消化管内視鏡検査（上部消化管内視鏡検査／大腸内視鏡検査／小腸バルーン内視鏡検査）／CT/MRI（MR エンテロコノグラフィ：MREC）消化管造影検査
- (2) 治療法：5アミノサリチル酸／副腎皮質ステロイド／免疫調節薬／白血球除去療法／生物学的製剤／内視鏡的狭窄拡張術／外科手術（腹腔鏡治療を含む）

高度な先進医療

診断：検査を苦痛なく受けられる工夫をし、新しい検査法としてMRIを利用した小腸・大腸検査（MREC）を独自に開発しました。

治療：治療法に関する最新の情報に基づいた、最先端の治療法及び薬剤の選択が可能です。



センター長

渡邊 守 Mamoru Watanabe

専門医 ● 日本消化器病学会認定

消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会認定

消化器内視鏡専門医

専門分野 ● 炎症性腸疾患

大腸内視鏡

小腸バルーン内視鏡（検査および治療）

研究領域 ● 炎症性腸疾患の発症機序解析と新治療法の開発

粘膜免疫と新治療法の開発

腸管の再生医療

腸管上皮分化機構

炎症を母地とする大腸癌発症機序

Message

本センターでは医師・職員が一体となって、一人一人の患者さんに応じて、きめ細かく、安全性に配慮しながらも積極的な診療を行っております。患者さんには、食事を含めた社会生活を健全な人と同様に送っていただくことを目指しております。是非、一人でも多くの患者さんに受診していただき、その方にとって最適な治療法を見つけていきたいと思っております。

神経難病先端治療センター

Advanced Clinical Center for Rare Neurological Diseases

Dial-in

● 03-5803-4770

http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_high/shinkei.html

神経難病に対して複数の診療科が連携し、最先端の治療、リハビリテーション、社会福祉までトータルなケアをします



センター長

横田 隆徳 Takatori Yokota

専門医 ● 日本内科学会 認定内科医

日本神経学会 神経内科専門医

日本臨床神経生理学会 認定医

（脳波分野、筋電図分野）

専門分野 ● 神経内科学

神経生理学的検査学

遺伝子治療学

研究領域 ● 神経内科学（特に筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病などの神経変性疾患

と多発性硬化症や自己免疫性ニューロ

パチーなどの神経免疫疾患）、核酸医薬

創薬

Message

神経難病は病気の原因がまだ十分にはわかっておらず、根本的な治療ができないことも多いのですが、最近の研究の進歩により、疾患によっては、かなり有効な治療法も出てきています。当院では、神経難病の中でもアプローチの可能な疾患の患者さんを対象に、複数の診療科が連携し、最先端の治療からリハビリテーション、社会福祉まで専門性の高いトータルなケアを目指しています。

センターの概要

1. これまでの専門施設とは違います！

完全予約制で、一人一人の患者さんにきめ細かな診療を行っています。

2. 治りにくい患者さんを診ています！

神経難病は根本的な治療法が無いのが現実ですが、新しい治療を工夫する臨床治験や機能向上を重視した安全・安心な手術により、日常生活動作や生活の質が変わります。

3. 治療のゴールが違います！

単に診療ガイドラインに従った標準的治療には留まらず、常に一歩先を行くベストの治療を試みています。

おもな診断・治療法

多発性硬化症／視神経脊髄炎、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性神経根症、多巣性運動ニューロパチーといった神経免疫疾患に対する新規の免疫治療および分子標的治療や、新薬の治験、多系統萎縮症の治験や表層シテローシスの手術、クローウ・フカセ症候群（POEMS 症候群）に対する自己末梢血幹細胞移植治療、もやもや病患者さんの遺伝子検査と治療、間脳下垂体腫瘍に対する内視鏡手術、迷走神経刺激を含めた難治性てんかんの外科手術、頸椎後縦靭帯骨化症に対する前方骨化浮上術、頸椎性脊髄症・平山病（頸椎性筋萎縮症）や成人脊柱変形、腰部脊柱管狭窄症や脊髄腫瘍に対する先進的な電気生理学的診断と手術技術を有しています。

高度な先進医療

神経内科、脳神経外科、整形外科で連携のうえ、丁寧な診察、PET/SPECT や3T-MRIなどの画像診断、電気生理学的検査や術中脊髄機能モニタリング、病理診断により的確な診断を行います。上述の対象疾患に可能な分子標的治療、自己末梢血幹細胞移植治療、臨床治験、世界最高レベルの脳脊髄外科手術など、最先端の治療を行っています。また、神経難病では内科的治療、手術のみならず放射線治療などの併用が必要になることは珍しくありません。小児科や他の内科、血管内治療科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、放射線診断科、放射線治療科などとの連携の中で、チームで総合的に治療することで、最先端の治療レベルを維持しています。



腎・膀胱・前立腺がん先端治療センター

Advanced Clinical Center for Urologic Cancers

Dial-in

● 03-5803-4770

http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_high/canser.html

泌尿器科の3大がんに関連する各領域が力を結集し、一人一人の患者さんに最適な先端医療を行います

● センターの概要

本センターは、泌尿器科（腎泌尿器外科学）、放射線診断科、放射線治療科、病理部、低侵襲医歯学研究センターで構成されており、前立腺がん、膀胱がん、腎臓がんに焦点を合わせて、最先端の診断、低侵襲治療、機能温存治療（臓器温存治療）を行っています。個々の患者さんに合わせて、最良の医療を提供するために、共同で治療にあたるエキスパートチームです。

● おもな診断・治療法

3大がんに3Dヘッドマウントディスプレイを用いた最先端型ミニマム創内視鏡下手術（ロボサージョン手術）、腎臓がんは無阻血腎部分切除、膀胱がんは膀胱温存（化学放射線+ミニマム創内視鏡下膀胱部分切除）、前立腺がんは全機能温存前立腺部分治療、進行腎臓がんはICCA療法など、独自の先進的治療を行っています。

● 高度な先進的医療

ガスレス・単孔・ロボサージョン手術（CO₂ガス不使用、単孔、術者のロボット化=ロボサージョン）を3大がん、腎機能を最大に保つ無阻血腎部分切除を腎臓がん、化学放射線療法+低侵襲膀胱部分切除を浸潤性膀胱がん、小線源を用いた全機能温存前立腺部分治療を前立腺がんに行っています。

● 取り扱うおもな疾患

前立腺がん、腎臓がん、膀胱がん、腎盂・尿管がん、精巣がん、副腎腫瘍、後腹膜腫瘍

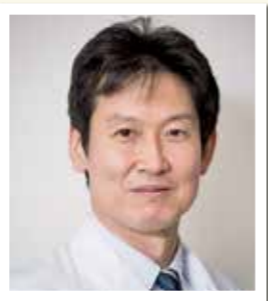
● 研究テーマ

泌尿器がんの最適な低侵襲治療法（ガスレス・単孔・ロボサージョン手術）の開発／浸潤性膀胱がんの膀胱温存療法／前立腺がんの前立腺部分治療法の開発／腎がん治療における至適腎機能温存療法の開発／予防的抗菌薬不使用の確立（病棟内耐性菌の除去）／泌尿器がんバイオマーカーの探索

● その他

泌尿器がん手術において普及しつつあるロボット支援手術が抱える課題（高額なコスト、CO₂ガスの使用、触覚の欠如、腹膜の損傷など）を克服すべく、国産技術を用いた、世界に先駆ける低侵襲なロボサージョン手術の開発を進めています。最近、内視鏡操作ロボットを導入しました。膀胱がん、前立腺がん、腎がんの臓器温存療法の開発にも注力しています。

3大泌尿器がんに対し、最小の傷、最小の痛み、短期入院を満たすロボット化手術、最大限の腎機能、膀胱機能、前立腺機能あるいは臓器を保つ治療法の開発と、耐性菌を抑えた病棟の整備を進めています。



センター長

藤井 靖久 Yasuhisa Fujii

専門医 ● 日本泌尿器科学会認定 泌尿器科専門医

専門分野 ● 泌尿器がん、泌尿器内分秘学

研究領域 ● 腎腫瘍の鑑別診断モデルの開発、腎癌手術後の腎機能変化および高血圧発症メカニズム、腎癌全身治療の開発、筋層非浸潤膀胱癌の再発・進展予測モデルの開発、合併症の少ない前立腺癌手術の開発、前立腺癌全身治療の開発

Message

前立腺がん、膀胱がん、腎臓がんは、日本で増加を続けている「がん」ですが、社会の超高齢化に伴い、今後より一層の増加が予想されています。腎・膀胱・前立腺がん先端治療センターは、この泌尿器科の3大がんに関連する領域がユニットを組んで、各領域の力を結集し、一人一人の患者さんに最適な先端医療を行うことを目的としています。



内視鏡操作ロボット（EMARO®）を用いたガスレス・シングルポート・ロボサージョン前立腺全摘除



頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター

Advanced Clinical Center for Head, Neck and Skull base Tumors

Dial-in

● 03-5803-4770

http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_high/toukeibu.html

頭頸部・頭蓋底腫瘍に対し手術・放射線・化学療法を組み合わせた先進的な集学的治療を行います

● センターの概要

本センターで行われている治療方針の概要です。

- ①集学的治療：個々の患者さんの病態に応じた、より有効かつ侵襲の少ない治療を行うため、治療方針を立てる段階から多くの診療科が緊密に連絡を取り合い、手術・放射線・化学療法を組み合わせた集学的治療を行っています。
- ②合同手術：手術に当たっては、機能・容貌の温存を目指し、さらにより難易度の高い手術を可能にするため、外科系各科のエキスパートがそれぞれの分野の豊富な経験と高度な技術を活かした合同手術を積極的に行っています。
- ③支持療法：頭頸部・頭蓋底腫瘍の治療の副作用を軽減させ、さらに治療後のQOLを向上させるために、多くの部門と協力しながら癌治療に対する支持療法にも積極的に取り組んでいます。

● おもな診断・治療法

NBIなど特殊内視鏡を用いた早期癌の診断

外来のベッドサイドですぐ行える超音波検査

口腔中咽頭の早期癌に対する小線源療法（放射線治療科担当）

咽喉頭表在癌の内視鏡手術（頭頸部外科と食道外科との共同手術）

頭頸部進行癌に対する再建をまじえた拡大手術（頭頸部外科と形成・美容外科の共同手術）

頭頸部進行癌に対する化学放射線治療（頭頸部外科と放射線治療科の共同治療）

頭頸部進行癌に対する超選択的動注療法（放射線診断科と放射線治療科と頭頸部外科の共同治療）

頭蓋底腫瘍に対する頭蓋底手術（頭頸部外科、脳神経外科、形成・美容外科の共同手術）

術後の嚥下機能のリハビリテーション（頭頸部外科とリハビリテーション部との共同治療）

● 高度な先進技術

口腔早期癌に対する小線源治療については経験豊富で高度な技術を有しています。

頭蓋底腫瘍に対する難易度の高い頭蓋底手術について多くの経験と高度かつ先進的な治療を行います。

咽喉頭表在癌に対する内視鏡的手術でも先進的な技術を有しています。



センター長

朝蔭 孝宏 Takahiro Asakage

専門医 ● 日本耳鼻咽喉科学会認定

耳鼻咽喉科専門医

日本気管食道学会認定

気管食道科専門医

専門分野 ● 頭頸部外科

研究領域 ● 低侵襲治療

機能温存治療

頭部郭清術

頭蓋底悪性腫瘍

Message

難治疾患である頭頸部や頭蓋底の腫瘍を治療するに当たり、治療成績の向上だけでなく、治療に伴うリスクを回避し、治療後の障害を軽減させることも大切な目標となります。そのため関連する多くの診療科の技術・知識・経験を集約させた総合力が重要です。頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センターでは積極的なチーム医療の導入で、その役割を果たします。



各種センター のご案内

医療連携支援センター	13
臨床試験管理センター	14
MEセンター	15
細胞治療センター	16
不整脈センター	17
快眠センター	18
スポーツ医学診療センター	19
腫瘍センター	20
総合教育研修センター	21
長寿・健康人生推進センター	22
クオリティ・マネジメント・センター	23
周産期母子医療センター	24
脳卒中センター	25

医療連携支援センター

Medical Welfare and Liaison Services Center

Dial-in

● 地域連携室 03-5803-4655

医療福祉支援室：
03-3813-6111 (代表) からおかけ下さい。
患者相談室：
03-3813-6111 (代表) からおかけ下さい。

<http://www.tmd.ac.jp/renkei/>

地域医療の連携強化と、患者さんが安心して療養できるためのサポートを行っております

● センターの概要

● 地域連携室

地域連携室では、ご紹介いただいた初診患者さんの事前予約、紹介状の返書管理、患者さんの逆紹介などの連携業務を通して地域医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、安心してご紹介いただける環境の構築に取り組んでおります。

● 患者相談室

患者相談室では、当院に入院あるいは通院されている患者さんやそのご家族から寄せられるご意見や、ご要望をお受けし、医療側との対話の橋渡しを行っております。患者さんに寄り添い真摯に対応するとともに当院の運営に適切に反映させるよう努めております。

● 医療福祉支援室

医療福祉支援室では、当院に入院あるいは通院されている患者さんやそのご家族が、適切でより良い療養と社会生活を営めるように医療・福祉相談などの総合的な医療サービスの援助を行っております。



センター長

泉山 肇 Hajime Izumiya

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本内科学会認定 内分泌代謝科専門医
日本糖尿病学会認定 糖尿病専門医
専門分野 ● 内分泌・代謝学
糖尿病学
研究領域 ● 神経内分泌腫瘍

Message

当センターは、患者対応窓口の一本化を目的に地域連携・患者相談・医療福祉支援の3部門を統合し開設されました。高度急性期病院として地域医療を支える多くの医療機関との機能分担に積極的に取り組み、患者中心の顔の見える連携とより良い医療の提供をしていきたいと考えております。何卒、ご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

臨床試験管理センター

Clinical Research Center

Dial-in

● 03-5803-4575

http://www.tmd.ac.jp/med/crc/

治験や臨床試験を通じて医学の進歩に貢献すべく、
国際的にも情報収集や発信を行っています

センターの概要

画期的な新薬の治験や臨床研究を積極的に受け入れ、参加いただいた患者さんの診療サポートを手厚く行います。また開発中の新薬の治験や、斬新な臨床研究の受け入れと支援も行います。13名の臨床研究コーディネーターが常駐し、治験に参加される患者さんへのご説明や受診のサポートから、世界で開発中の新薬や治験に関する最新の情報まで提供いたします。

おもな診断・治療法

企業治験・医師主導治験の受託と支援、医師主導臨床研究の計画作成および実施の支援。平成27年度受託治験66プロトコル、113症例。

高度な先進医療

膠原病・リウマチ性疾患、神経難病、炎症性腸疾患、ブドウ膜炎などの治験を積極的に受託しており、実施件数も多いのが特徴です。統計専門家が常駐し、医師主導の臨床研究計画策定について、統計解析相談を受託しています。

その他

関東甲信越の9国立大学病院とともに、大学病院臨床試験アライアンスを組織し、治験環境の改善や実施の効率化のために協調して活動を行っています。国内のみならず国際的にも情報収集や発信を行っており、2011年度にはアライアンス活動に対してISO 9001 認証を受けました。

大学病院臨床試験アライアンスを通じた広報活動の展開

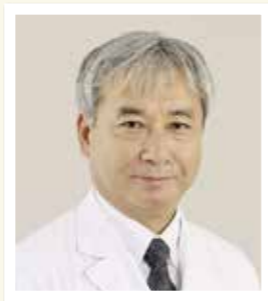
大学病院臨床試験アライアンスの加盟校として本センターは広報活動を担当しています。2011年から「学園祭」の場をお借りして、治験や同アライアンスの啓発・周知を目的とした講演会やブース展示などの広報を展開しました。本学のお茶の水祭では2015年で5回目となる講演会、タイトル「新薬誕生までの道のり～治験・臨床試験・臨床研究～」で小池センター長が講演し、新薬ができるまでのそれぞれの段階や、治験は倫理的原則に沿って実施されていることなどを紹介しました。高校生、在学生、一般市民の方々が熱心に耳を傾けており、臨床試験、治験について興味をもって聞いて下さいました。



東京医科歯科大学学園祭での講演会とブース展示の様子



筑波大学の学園祭における広報活動の様子



センター長

小池 竜司 Ryuji Koike

専門医 ● 日本内科学会認定
総合内科専門医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医
日本感染症学会認定
感染症専門医

専門分野 ● 内科学
膠原病内科学
感染症学
臨床薬理学

研究領域 ● リウマチ性疾患や感染症の診断と治療、
レギュラトリーサイエンス

Message

医学の進歩のためには臨床研究が必須であり、中でも治験は薬や医療器具の実用化に直結する最も重要な臨床研究です。治験という言葉は昔と比べれば普及しましたが、その具体的な内容や日本の現状についてはまだまだ理解されていません。私たちは治験や臨床試験を通じて医学の進歩に貢献すべく、様々な活動を行っています。「治験」「臨床研究」という言葉に興味をお持ちになったら、どうぞ遠慮なくお声をかけて下さい。

MEセンター

Medical Engineering Center

Dial-in

● 03-5803-5659

ME機器の操作及び技術提供に貢献します

センターの概要

現在、MEセンターには臨床工学技士25名が協力し業務を行っております。おもな業務は、血液浄化療法部・手術部・高気圧治療部・集中治療部・血管撮影室・ME機器管理部の6部門があります。また、定期的に院内勉強会を開催し、ME機器の操作指導や技術提供に貢献しています。

おもな診断・治療法

- 《血液浄化療法部》
 - ・透析療法
 - ・アフレスシ療法
- 《手術部》
 - ・人工心肺業務
 - ・手術室におけるME機器の管理・点検
- 《高気圧治療部》
 - ・スポーツ障害
 - ・減圧症
- 《集中治療部》
 - ・神経機能モニタリング
 - ・補助循環(PCPS,ECMO,IABP,VAD)
 - ・急性血液浄化
 - ・人工呼吸管理
- 《血管撮影室》
 - ・心臓カテーテル検査
 - ・アブレーション
 - ・ペースメーカー埋め込み
 - ・血管内治療
- 《ME機器管理部》
 - ・院内のME機器の管理・点検
 - ・院内使用中の人工呼吸器管理
- 高度な先進技術
 - ・埋め込み式補助人工心臓の管理
 - ・体外式補助人工心臓の管理
 - ・アクティブタグを用いたME機器の管理



センター長

荒井 裕国 Hirokuni Arai

専門医 ● 3学会構成心臓血管外科専門医認定
機構認定 心臓血管外科専門医
日本外科学会認定 外科専門医

専門分野 ● 成人心臓血管外科手術

Message

現在の医療は高度な医療技術の進歩により目覚ましい進化を遂げています。しかし、医療技術が進歩しているだけでは、安全で高度な診断や治療を提供することはできません。それらを提供するために、診断や治療に使用されている機器の管理や点検はとても重要です。医療工学の知識を持っている臨床工学技士は、安全な医療を提供するチーム医療の一員として必要不可欠です。当センターでは技師長を筆頭に、ME機器の保守管理における装置の安全性の確立やチーム医療の一員としての治療を行っています。

細胞治療センター

Center for Cell Therapy

Dial-in

● 03-3813-6111

http://www.tmd.ac.jp/grad/cct1/

難病に苦しむ患者さんのお役に立てる
安全・安心な先端医療を提供します

● センターの概要

当センターは、ヒトの細胞を安全に加工・処理し、再生医療・細胞治療に応用することを目的とした細胞培養加工施設（再生医療等安全確保法の下で届出：施設番号FC3150001）です。軟骨再生医療、血管再生医療、造血細胞処理、樹状細胞療法、などを実施しています。また国の基幹プロジェクトである再生医療実現拠点ネットワークプログラム事業の支援を受け、新規品質管理システムの開発にあたっています。

● おもな診断・治療法

- ・滑膜由来間葉系幹細胞による関節軟骨修復法（再生医療研究センター・運動器外科学分野・軟骨再生学分野）
- ・成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）に対する複合的ワクチン療法（ATL-DC-101/KW-0761）の第I相医師主導治験（免疫治療学分野・血液内科：九州がんセンター）
- ・末梢血幹細胞による血管再生治療（老年病内科）
- ・日和見感染症に対する多ウイルス特異的T細胞治療（臨床研究準備中）（小児科など）
- ・再生医療に供する細胞の先端的微生物検出法

● 高度な先進医療

滑膜由来間葉系幹細胞による軟骨再生医療は、文部科学省「再生医療実現化ハイウェイ」に唯一単独採択された再生医療です。腸管上皮再生医療についても、臨床研究に向けて開発が進んでいます（消化器内科）。

● 取り扱うおもな疾患

- ・膝関節軟骨欠損、半月板損傷・障害
- ・成人型T細胞白血病
- ・閉塞性動脈硬化症、パージャヤー病
（臨床研究、臨床試験として行われていますので、適応は各診療科までご相談ください）

● センターにおける研究テーマ

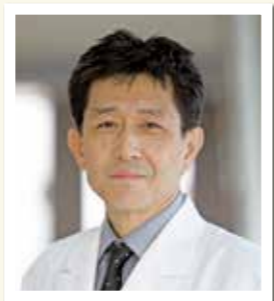
- ・新規再生医療・細胞治療技術の開発
- ・再生医療・細胞治療用細胞加工品の新規品質評価技術の開発
（少数の変異細胞の検出、広範な微生物の迅速かつ安価な解析など）

● 取り組み

- ・品質マネジメントシステムのもと、品質保証・安全管理された細胞培養・加工を行っています。
- ・調製された細胞に対して細菌真菌に加え10種類以上のウイルスを高感度に検出する技術を投入しています。

● その他

当センターは2015年に改修を行い、5つの細胞調製室（無菌培養室）で同時に6列の培養が可能な施設へリニューアルしました。今後ますます注目される再生医療・細胞治療において、製剤加工の核となる施設です。新規治療開発、難病治療開発に貢献すべく努力を続け、HP（http://www.tmd.ac.jp/grad/cct1/）で情報を公開してまいります。



センター長

森尾 友宏 Tomohiro Morio

● 専門医 ● 日本小児科学会認定 小児科専門医

日本血液学会認定 血液専門医

● 専門分野 ● 小児感染症

血液・免疫疾患

再生医療・細胞治療

● 研究領域 ● 小児難病（特に原発性免疫不全症などの希少難病）の遺伝的背景と病態解明
小児難病に対する先端的治療法の開発

Message

細胞治療センターは、2002年に開設されたセルプロセッシングセンターで、2015年に全面改装されました。清浄度の確保された施設で、様々な診療科・研究室が再生医療・細胞治療用の細胞を調製するために利用しています。研究開発された先端医療を実践に移す場でもあります。難病に苦しむ患者さんのお役に立てる安全・安心な先端医療を提供できるよう努力を続けてまいります。



不整脈センター

Heart Rhythm Center

Dial-in

● 03-5803-5670

http://www.tmd.ac.jp/hrc/index.html

不整脈の患者さん一人一人に対して治療効果が高く、
安全で最新の不整脈診療を親身になって実施します

● センターの概要

本センターは、不整脈で苦しむ方なかで薬が効かない、効果が不十分、生命の危機がある場合に、<カテーテル治療>やく植込み型デバイス治療>などの治療をより専門的、より効率的に行うためのものです。そのために、附属病院の循環器内科を中心に、小児科、心臓血管外科の3つの診療科の不整脈診療の専門家がセンターのスタッフとして協力して診療にあたります。

● おもな診断・治療法

<カテーテル焼灼術>

脈が異常に速くなる頻脈に対して、心臓の特定の部分にカテーテルを介して熱を加えることにより頻脈を根治する治療法です。当センターでは、放射線被ばくを減少させるための特殊なシステムを用いることにより、より低侵襲なカテーテル焼灼術を施行することも可能です。また、冷凍バルーンを用いた心房細動治療を行うことも可能です。

<植込み型デバイス治療>

脈が異常に遅くなった場合には、心臓を電気刺激して脈拍を正常化するペースメーカーを皮膚の下に植込みます。この他に2種類の植込み型デバイスがあり、それぞれ突然死（=心室細動が原因）、心不全の治療に威力を発揮します。

● 高度な先進技術

常勤する不整脈専門医により、脈が速くなる頻脈性不整脈に対しては薬物治療や、カテーテル焼灼術、植込み型除細動器を用いて全ての状況に対応できます。難治性の不整脈に対する心外膜アプローチを用いたカテーテル焼灼術、レーザーシステムによる感染したデバイスの除去などの先進技術も駆使しています。また臨床遺伝専門医と協同して先天性QT延長症候群など遺伝性不整脈疾患患者さんの診断・診療が可能です。

● 取り扱うおもな疾患

カテーテル焼灼術の適応となるのは心房細動、上室性頻拍、WPW症候群、心房粗動、心室頻拍（心室期外収縮を含む）などです。植込み型除細動器は突然死を来す種々の原因から発生する心室細動、ブルガダ症候群、QT延長症候群などが対象です。

● センターにおける研究テーマ

脳梗塞を引き起こす心房細動をできるだけ早期に発見、あるいは予見する「心房細動ドック」を見据えた遺伝的アプローチ（mRNAなど）、電気現象アプローチ（心磁図など）について取り組んでおります。

● その他

8名の専門医を中心に、薬物治療から侵襲的な治療まで患者さん毎に最適な治療を提供できます。これまで23年間、3000例の経験に基づいたカテーテル焼灼術は、心外膜アプローチという最新治療まで可能です。また日本では数施設しか実施できていない感染したデバイスの患者さんを、低侵襲で安全に治療できる専門医が常勤しています。



センター長

平尾 見三 Kenzo Hirao

● 専門医 ● 日本不整脈心電学会認定

不整脈専門医

日本循環器学会認定 循環器専門医

● 専門分野 ● 不整脈、循環器一般

● 研究領域 ● 不整脈病態生理解明と、それに基づく治療戦略の研究

Message

本センターは専門医師が高度先進技術を駆使することによって不整脈を治療させて、不整脈による症状の緩和、生命予後の改善、心不全の改善、生活の質の改善をもたらすことを目的として平成23年に新設されました。スタッフ一同、不整脈の患者さん一人一人に対して治療効果が高く、安全で、最新の不整脈診療を親身になって実施する所存です。



快眠センター

Clinical Center for Pleasant Sleep

Dial-in

● 03-5803-4587 (3階内科外来)

<http://www.tmd.ac.jp/med/slp/index.html>

睡眠障害について呼吸器内科医、精神科医、耳鼻科医、歯科医による総合的な医療が可能です

センターの概要

医学部附属病院、歯学部附属病院の医歯学連携のもとに運営される当センターでは、医学部附属病院を中心として、おもに睡眠時無呼吸症候群や不眠症などの睡眠障害の診断を行うとともに、CPAP(持続陽圧呼吸療法)等による睡眠時無呼吸症候群の治療、精神科医による不眠症の治療を行っております。また軽症の睡眠時無呼吸症候群でマウスピース療法が適応となる患者さんには、歯学部附属病院快眠歯科外来で専門歯科医による治療が提供されます。

おもな診断・治療法

【診断】

・睡眠時無呼吸症候群(SAS): 睡眠中の無呼吸(10秒以上呼吸が止まる)が1時間に5回以上、1晩に30回以上あることで診断されます。無呼吸の存在は自宅にて自身で装着し、睡眠中の呼吸や血中の酸素の状態を検査できる簡易型アプノモニターや、1泊の入院で睡眠中の呼吸運動のみでなく脳波を用いて眠りの深さや質を含めて判定することで、より精密に睡眠時無呼吸を判定できる終夜睡眠ポリグラフィ(PSG)により診断されます。

【おもな治療法】

・CPAP(持続陽圧呼吸療法):

自宅に専用の機器を設置し、主に鼻に装着したマスクを通して適切な圧力で空気を押し込むことにより、睡眠中に緩んだ喉の筋肉によって喉が塞がれてしまうのを防ぎ、呼吸をサポートします。CPAPを行うと日中の眠気の消失と同時に心疾患の予防や死亡率を減らすことができます。保険診療の適応であり自己負担は3割負担の方で月に約5,000円です。

・マウスピース療法:

いびき症や軽症の無呼吸症の方に有効です。スリープスプリントと呼ばれるマウスピースを睡眠中に歯に装着し、下顎を前方に数ミリ突き出して噛み合わせるようにすることで治療します(下あごを上あごより前に固定することで気道の面積を広げます)。

高度な先進技術

東京医科歯科大学は医学部と歯学部からなる全国でも特徴的な医療系大学です。私たち快眠センターは医学部附属病院と歯学部附属病院のスタッフで構成されており、二つの病院が密に連携して、きめ細かい診断と治療を可能にしています。



センター長(保健管理センター長兼務)
宮崎 泰成 Yasunari Miyazaki

専門医 ●日本呼吸器学会認定 呼吸器専門医

専門分野 ●呼吸器内科

研究領域 ●睡眠呼吸障害

呼吸器疾患全般

専門外来 ●不眠外来

睡眠時無呼吸外来

Message

近年、24時間社会となり社会構造が変化するにつれて睡眠障害は大きな社会問題となっています。睡眠障害の中でも睡眠時無呼吸症候群は成人の2~4%を占める疾病で、日中の激しい眠気のため、社会生活に大きな影響を及ぼす一方、無呼吸とそれに伴う低酸素血症は本人の健康や生命に大きな脅威を与え、さらに社会資源の損失となります。睡眠は「心と身体が出会う領域」であり循環器疾患や内分泌疾患など内科的疾患だけでなく、うつ病などの心身・精神疾患との関係も明らかになっています。

当センターでは、呼吸器内科医、精神科医、歯科および耳鼻科医師による総合的な医療が可能となっています。さらに私たちは、循環器内科や糖尿病・内分泌・代謝内科などの内科と協力して集学的な治療体制の確立と有効な治療法の開発を目指しています。

スポーツ医学診療センター

Sports Medicine Center

Dial-in

● 03-5803-4601

<http://www.tmd.ac.jp/med/spt/index.html>

スポーツに関わる外傷・障害・疾病について、本学の特徴的・先進的分野を活用して診断・治療する部門です

センターの概要

当センターには、3つの特徴があります。

①アスレティックリハビリテーション部門

早期の高いレベルへの競技復帰を目的としたリハビリテーションでスポーツ選手の種目やレベル、目標とする競技会に合わせたテーラーメイド復帰プログラムを提供します。

②全身的アプローチ「チームTMDUによるトータルケア」

全身にわたるスポーツ関連の外傷・障害・疾患の治療と予防を、各診療科のエキスパートとの連携にて行います。

③本学に特徴的な部門や治療を積極的に活用

おもな診断・治療法

スポーツによる急性外傷(靭帯損傷、捻挫、肉離れ、骨折、打撲、脳震盪など)、スポーツによる運動器慢性障害(ジャンパー膝、アキレス腱付着部炎、足底腱膜炎、シンスプリント、疲労骨折、野球肩、テニス肘、腰痛症など)、スポーツ関連内科的疾患の診断・治療を行います。

治療法

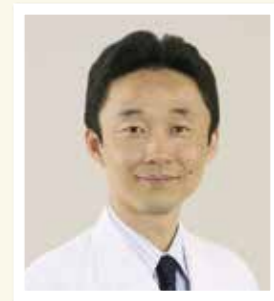
アスレティックリハビリテーション部門、高気圧酸素治療分野、スポーツ治療に実績のある整形外科、脳振盪を積極的に取り組む脳神経外科、本学歯学部スポーツ歯科など、本学に特徴的な部門・診療科との連携にて、先進的な治療を提供します。

高度な先進医療

- ・高気圧酸素治療(16名同時可能な日本最大級装置)にて治療
- ・整形外科における膝靭帯・半月板の手術件数は、年間100例以上(2015年)
- ・スポーツ歯科は、外傷予防のマウスピース、フェイスガードを迅速・テーラーメイドで作成

その他

- ・予約制ですので、事前のお問い合わせをお願い致します。
- ・紹介状がある場合は、ご持参ください。



センター長
柳下 和慶 Kazuyoshi Yagishita

専門医 ●日本整形外科学会認定

整形外科専門医

専門分野 ●スポーツ膝足

高気圧酸素

研究領域 ●スポーツ外傷に対する高気圧酸素治療

専門外来 ●シンスプリント外来

Message

スポーツ医学診療センターは、スポーツ選手の靭帯損傷、肉離れ、捻挫等の「ケガ」や、いわゆる使いすぎのオーバーユースによる腱付着部炎等の運動障害、スポーツに関連する内科的疾患・病気など、スポーツに関わる外傷・障害・疾病を、本学の特徴的・先進的分野を活用して診断・治療する部門です。「より早く、より高い」スポーツ競技復帰を目指し、「チームTMDUによるトータルケア」にて総合的な診療を行います。



腫瘍センター

Cancer center

Dial-in

● 03-5803-4886

<http://www.tmd.ac.jp/canc/center/index.html>

がん診療の拠点として院内各診療科や各部署、歯学部附属病院、地域との連携の基点となるべく活動を活性化します

センターの概要

腫瘍センターは化学療法、緩和ケア、がん相談支援、がん診療連携、がん登録の5部門からなり、レジメン審査、緩和ケアチーム、カンサーボードなどがん診療を横断的に調整する部門です。ピアサポートにも力を入れており、がんサロンなどの運営も行っています。

おもな診断・治療法

化学療法における診療は主科によって行われています。緩和ケアチームでは、症状の緩和だけでなく、必要に応じて腫瘍内科的な診断法や治療法の提案も行っています。特に、放射線治療科、ペインクリニック、骨転移外来との密な連携を行っています。

高度な先進技術

外来化学療法・注射センターでは、最先端の分子標的治療薬を含むがん薬物療法を行っています。緩和ケアチームでは、主科からのコンサルテーションを受けて、身体および精神的な苦痛の緩和を行っています。

取り扱うおもな疾患

腫瘍センターで取り扱うほとんどの患者さんは悪性腫瘍（癌、肉腫、白血病・悪性リンパ腫など）です。これら以外にも緩和ケアチームでは、非がん疾患（心不全、腎不全、慢性呼吸器疾患、神経難病）などの症状緩和にも取り組んでいます。

センターにおける研究テーマ

頭頸部・食道領域のがん患者に対する早期からの緩和ケアの導入の効果

取り組み

同一敷地内にあり、口腔がん患者数では日本有数の歯学部附属病院と緊密な連携を行い、口腔がん患者に対する早期からの緩和ケアや相談支援を実践しています。

その他

今度当院では、がんの遺伝子診断に基づく、プレジジョン・メディスン（ゲノム医療）に積極的に取り組んでいきます。新着情報については、随時HPでお知らせします。



センター長
三宅 智 Satoshi Miyake

専門医 ●日本緩和医療学会 暫定指導医
専門分野 ●緩和医療学
研究領域 ●臨床腫瘍学
臨床倫理学

Message

腫瘍センターが発足して4年目になります。緩和ケアチーム活動、がん化学療法のレジメン管理体制、カンサーボードの活性化などが実現し、今後の当院におけるがん診療の拠点として院内各診療科、各部署そして歯学部附属病院や地域の皆様との連携の場として機能するように活動を継続していきます。何卒よろしく願いいたします。

総合教育研修センター

Professional Development Center

Dial-in

● 03-5803-4581

<http://www.tmd.ac.jp/med/cpe/>

全国でも人気の高い臨床研修教育で、安全高度な医療と先端的研究を担う医療人を育成します



センター長
高橋 誠 Makoto Takahashi

専門医 ●日本整形外科学会認定
整形外科専門医
専門分野 ●医学教育
整形外科
脊椎外科
研究領域 ●臨床医学教育 脊椎外科

Message

総合教育研修センターは、当院の若手医師ならびに病院職員の教育研修を担当しています。2004年に開始された医師臨床研修（いわゆる初期研修）では、これまで多くの意見を反映させ、プログラムの改善を図ってきました。新たな専門医制度へも対応した全国的にも人気の高い研修プログラムと、病院職員研修の企画実施を通じて、当院の医療水準のさらなる向上を目指しています。



センターの概要

総合教育研修センターは、当院の卒業臨床研修プログラム（初期研修）の企画運営、後期研修プログラム（専門研修）の管理を行っています。2017年度に開始する初期研修では、右記の3つのプログラムを提供します。

取り組み

総合教育研修センターでは6月と12月の年2回、総勢200名を超える学内外の全研修医が一堂に会し、今後の医師としてのキャリアデザイン等を考える“ホームカミングデー”を実施しています。各地の病院で日々研修に励む同期との再会は、研修生活にメリハリをつける良いリフレッシュの機会となっています。

その他

医学生が卒業後に研修を行う場として大学病院離れが進んでおり、全国の大学病院の研修マッチング率は低下してきていますが、その中で当院の卒業臨床研修プログラムは、毎年120名近くがマッチしている人気プログラムとなっています。さらに修了者の8割が引き続き当院の後期研修プログラムで専門研修を続けています。



東京医科歯科大学医学部附属病院 2017年度 臨床研修プログラム



長寿・健康人生推進センター

Center for Personalized Medicine for Healthy Aging

Dial-in

● 03-5803-4194

<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/chouju/index.html>

予防医療、疾患の早期発見・早期治療で
長寿と健康維持に貢献します

センターの概要

当センターは会員制となっており、登録していただいた会員様には、東京医科歯科大学が一丸となって診療を提供させていただきます。企業等と連携して健康維持をサポートする法人会員制と、個人会員制をご用意し、様々な健康相談に応じます。高度・先端医療を担う東京医科歯科大学の医学部・歯学部との両附属病院がベースとなっており、病気の予防と健康維持をトータルにサポートするために設置された施設です。大学病院ならではの豊富な先端的検診メニューを組み合わせて、個人ごとに最適な検診プログラムを提供します。健康管理ゲノム情報や検診結果に基づき、医師と専門スタッフが重大疾患のリスク予測から生活習慣指導までを徹底サポートします。もし検査結果に異常が見つければ、院内の専門診療科をご紹介します。さらに詳しい検査や疾患の治療を提供します。企業等と連携して社員の健康維持をサポートする法人会員制と、一般個人会員制をご用意し、様々な健康相談に応じます。法人会員の方には、海外赴任前後の健康チェック電話相談、ご家族の健康診断などにも応じます。

1. 高度・先端医療を担う東京医科歯科大学の医学部・歯学部との両附属病院がベースとなっており、病気の予防と健康維持をトータルにサポートするために設置された施設です。
2. 大学病院ならではの豊富な先端的検診メニューを組み合わせて、個人ごとに最適な検診プログラムを提供します。
3. 健康管理ゲノム情報や検診結果に基づき、医師と専門スタッフが重大疾患のリスク予測から生活習慣指導までを徹底サポートします。
4. もし検査結果に異常が見つければ、院内の専門診療科をご紹介します。さらに詳しい検査や疾患の治療を提供します。
5. 企業等と連携して社員の健康維持をサポートする法人会員制と、一般個人会員制をご用意し、様々な健康相談に応じます。
6. 法人会員の方には、海外赴任前後の健康チェック、ご家族の健康診断などにも応じます。

おもな検診・診療

- 心臓ドック：心エコー／ホルター心電図など
- 全身がん検診：PET-CT、重点領域のMRI検査など
- 肺がん検診：胸部X線／胸部CT／喀痰細胞診など
- 食道・胃検診：上部消化管内視鏡（経口細径、経鼻など）、ABC検診など
- 大腸検診：便潜血／下部消化管内視鏡／カプセル大腸内視鏡など
- 泌尿器がん検診：骨盤MRIなど
- 女性専用がん検診：乳がん検診（視触診／マンモグラフィ／乳腺エコーなど）
婦人科検診（婦人科系診察、子宮頸部細胞診／経膈エコーなど）
- 脳ドック：頭部MRI・脳血管MRA、頸動脈MRAまたはエコー、メモリーチェックなど
- 視覚・聴覚検診：視覚（視力／眼圧／眼底／光干渉断層計など）、聴覚（標準純音聴力／歪成分耳音響放射など）
- 睡眠検診：睡眠の質と睡眠時無呼吸スクリーニング
- 運動器検診：ロコモティブシンドローム（ロコモ）やバランス
- 歯科ドック：歯周病検診、口腔粘膜診査など

高度な医療

健康管理ゲノム情報の提供プログラム

がんや生活習慣病など、あなたがどのような病気に罹りやすい体質なのかを個人のゲノム情報にもとづいて推定する血液検査です。東京医科歯科大学疾患バイオリソースセンターと当センターが中心になって開発した本学独自のプログラムです。医師、看護師、栄養師、遺伝カウンセラーなどが、あなたとご一緒に病気の予防を目指します。

疾患バイオリソースセンター

疾患バイオリソースセンターは、血液、組織、各種データを分析して、病気の原因解明や診断法・治療法の開発、予防医学研究などを行っています。その研究成果を活用して完成したのが「健康管理ゲノム情報の提供プログラム」です。



センター長

石川 欽也 Kinya Ishikawa

- 専門医 ● 日本神経学会認定
神経内科専門医
日本内科学会認定医
- 専門分野 ● 内科学
神経内科学
人類遺伝学
- 研究領域 ● 遺伝情報に基づいた個別化先制医療

Message

当センターの目的は、個人が持つ病気になる要因を遺伝子解析などで予測して、可能な限り回避するという「予防医療」と、早期に疾患を発見して治療するという「早期発見・早期治療」を実現し、皆様の長寿と健康維持に貢献することです。



クオリティ・マネジメント・センター

Quality Management Center

Dial-in

● 03-5803-4191

<http://www.tmd.ac.jp/qmc/index.html>

医療と経営の質の確保のために、
診療関連情報を一元的に収集・分析・評価しています

センターの概要

院内の診療関連情報を集約し、医療の質保証と病院マネジメント改革のためのエビデンスの提供を目指しています。院内各部門からの情報を収集、分析して、臨床指標などを用いた評価を行い、各診療科、医療安全、感染制御部門等と連携して、PDCA（計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Act））による医療の質の継続的な改善を実施していきます。

その他

平成26年度から文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「PDCA医療クオリティマネージャー養成」を開設しています。このプログラムでは、医療の質保証プログラムであるPDCAの実行、管理に必要なデータ分析力、実行力を持つとともに、これらの質保証プログラムの実践を病院機能の更なる高度化及び機能的な組織間連携の増強につなげて、病院組織マネジメント改革を実現するリーダーシップを発揮できる人材の養成を行っています。

詳細は http://www.tmd.ac.jp/koudoiryou_med/index.html をご参照ください。



Message

医療の質の確保と病院組織マネジメントは表裏一体です。自分たちが提供している医療の質を自ら評価するとともに、それを継続的に向上させていくとする組織文化の醸成が大切と考えられています。私たちは、ビッグデータともいわれる医療電子データの分析を充実させながら、当院を受診される患者さんに、よりよい医療を確実に提供できる病院の発展に貢献したいと考えています。



センター長

伏見 清秀 Kiyohide Fushimi

- 専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
- 専門分野 ● 医療政策学
医療管理学
医療情報学
- 研究領域 ● 本邦の医療提供体制に即した診断群分類の開発
医療機関の機能分化と分担連携のあり方について
医療の標準化と医療情報共有のための情報技術について

周産期母子医療センター

Perinatal Medicine Center

Dial-in

- 03-5803-5684 (周産・女性診療科外来)
- 03-5803-5674 (小児科外来)

新しい生命を安心・安全に育み、
ハイレベルな周産期医療を実践しています

センターの概要

産科病床20床、個室分娩室2、分娩室1、陣痛室2、NICU 6床、GCU 6床

取り扱うおもな疾患

合併症妊娠・分娩、ハイリスク妊娠・分娩、胎児異常、早産児（未熟児）分娩、病的新生児、早産児（在胎28週以上）

おもな診断・治療法

総合病院の特色を生かし、合併症を有する女性の妊娠分娩管理を積極的に行っております。特に、高安病、もやもや病、精神疾患、血液疾患、免疫疾患、膠原病、炎症性腸疾患などを合併した妊娠の管理経験が豊富です。

NICUでは、24時間体制で早産児や合併症のある新生児の診断、治療を行っています。小児科内各分野専門医師および関連他科の医師と連携して、人工呼吸器管理、一酸化窒素吸入療法、低酸素療法、交換輸血、低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法、腹膜透析などの高度医療を専門的アプローチにより行います。



センター長

森尾 友宏 Tomohiro Morio

専門医 ●日本小児科学会認定 小児科専門医

日本血液学会認定 血液専門医

専門分野 ●小児感染症

血液・免疫疾患

再生医療・細胞治療

研究領域 ●小児難病（特に原発性免疫不全症などの希少難病）の遺伝的背景と病態解明
小児難病に対する先端的治療法の開発

Message

平成27年4月より、当施設が地域周産期センターに承認されたため、分娩部から周産期母子医療センターと改称しました。正常妊娠・分娩はもとより合併症妊娠や異常分娩、早産児分娩や、早産児・病的新生児に対して、より質の高い管理・治療を実現します。当院での分娩数は毎年増加し2014年には年間500件を越え、周産期医療スタッフやコメディカルスタッフの医療レベルは高く、LDRやNICUなども充実しております。産科（周産期）医、新生児専門の小児科医、助産師や新生児専門の看護師、臨床心理士、臨床遺伝専門医などがチームを組み、手術部・麻酔科の協力で、ハイレベルな周産期医療を実践します。

脳卒中センター

Stroke Center

Dial-in

- 03-5803-5102

<http://www.tmd.ac.jp/med/evs/Stroke Center HP>

フットワークとチームワークの良さと
最高の医療手段を駆使して最良の転帰を目指します

センターの概要

1. 当脳卒中センターは救急科、神経内科、脳神経外科、血管内治療科で構成されています。これらの専門医が合同治療チームを形成し、ひとつのチームとなって治療にあたります。
2. 個々の患者さんの病状に応じ、有効かつ侵襲の少ない方法で高度な急性期治療を行います。
3. 内科治療・開頭手術・血管内手術・内視鏡手術など、各科のエキスパートがそれぞれの豊富な経験と高度な技術を集約して治療を行います。
4. 手術部、麻酔科、放射線科、リハビリテーション部、医療福祉支援センターなどの関連部門と緊密に連携し、急性期から回復期まで、滞ることなく脳卒中の専門治療を行います。
5. 当院の専門医数

救急専門医	13名
神経内科専門医	10名
脳神経外科専門医	17名（指導医8名）
脳神経血管内治療専門医	6名（指導医2名）
脳卒中専門医	12名
6. 当院は東京都脳卒中急性期医療機関に認定されています。

センターの特徴

- ・24時間365日、急性期脳卒中患者さんの救急搬送を受け入れ、高度な専門性をもつスタッフが治療に当たります。
- ・常時MRI、CT、超音波、脳血管造影等の緊急画像診断が可能です。
- ・常時急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法及び血管内治療（血行再建術）が可能です。
- ・出血性脳卒中（くも膜下出血、脳出血）に対して、全身麻酔による手術治療が可能です。
- ・高い診断能力をもつ神経内科医が病状を解析し、再発予防に向けて最良の治療プロトコールを作成します。
- ・本センターが備える高度かつ多岐にわたる治療法から、患者さんの病状に合った最善の治療を提供します。
- ・急性期の治療のみならず、早期の専門的リハビリテーションが可能で、高いレベルの機能予後を目指します。

おもな診断機器・治療法

- ⇒MRI（3テスラ2台、1.5テスラ2台）
- ⇒マルチスライスCT（ERセンター1台、放射線部3台、手術室1台）
- ⇒超音波診断装置
- ⇒経頭蓋ドップラー診断装置
- ⇒血管内超音波診断装置血管造影装置（4台：パイプレン3台、IVR CT 1台）
- ⇒簡易血小板凝集能測定装置

高度な先進医療

- ⇒血栓溶解療法
- ⇒開頭手術（クリッピング術、EC-ICバイパス術、ハイフローバイパス術、頸動脈内膜切除術）
- ⇒血管内手術（コイル塞栓術、脳血管血栓回収術、頸動脈ステント留置術、頭蓋内脳血管形成術）
- ⇒神経内視鏡手術（脳内・脳室内血腫除去術、第三脳室底開窓術）

当センターでは発症数時間以内の急性期脳卒中およびこれを疑う救急搬送患者さんを24時間体制で受け入れています。また専門治療を目的とした医療機関からの転院搬送も積極的に受け入れています。急性期脳卒中が疑われる場合は、当院救命救急センター（03-5803-5102）へお問い合わせの上、救急車で搬送して下さい。

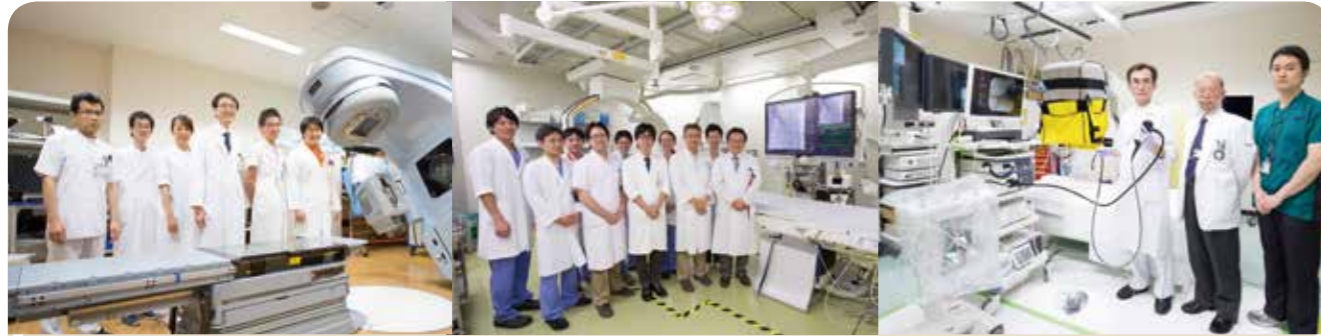


Message

脳卒中は我が国3大疾病の一つであり、死亡原因の第4位で、患者数は悪性新生物、心疾患より多くなっています。また介護度の高い重度障害患者の半数が脳卒中であり、寝たきりや認知症の原因として最も多く、社会復帰を阻害する主要な原因疾患です。ひとたび罹患すると患者のみならず、介護者である家族の人生にも大きな影響を生じるので、社会的影響の大きな疾患といえます。

脳卒中は、発症後の一刻も早く適切な治療が症状の回復の程度を決定付けます。近年、脳卒中の急性期に対する治療は、内科的な血栓溶解療法や、カテーテル再開通療法、内視鏡的脳内血腫除去術など、急激に進歩しています。さらに、脳卒中は再発が多い疾患ですが、その予防にも内科的、外科的に多くの専門医療が有効です。これらの脳卒中の先端治療は、高度な専門性に加え複数の診療科によるチーム医療が達成されることによって、高い治療効果が得られます。当センターは、救急科、神経内科、脳神経外科、血管内治療科の診療科から構成され、それぞれの診療科の密接な協力体制が確立しており、全ての急性期脳卒中の患者さんに迅速かつ高度の治療を提供して後遺症を最小限に留め、その後の再発をできる限り予防する先端医療を実践していきます。





診療科 のご案内

血液内科	27	泌尿器科	47
膠原病・リウマチ内科	28	頭頸部外科	48
糖尿病・内分泌・代謝内科	29	病理診断科(病理部)	49
腎臓内科	30	眼科	50
老年病内科	31	耳鼻咽喉科	51
消化器内科	32	皮膚科	52
循環器内科	33	形成・美容外科	53
呼吸器内科	34	整形外科	54
総合がん・緩和ケア科	35	小児科	55
遺伝子診療科	36	新生児集中治療室(NICU)	56
食道外科	37	周産・女性診療科	57
胃外科	38	脳神経外科	58
大腸・肛門外科	39	神経内科	59
腫瘍化学療法外科	40	血管内治療科	60
乳腺外科	41	精神科	61
小児外科	42	心身医療科	62
末梢血管外科	43	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	63
肝胆膵外科	44	放射線治療科	64
心臓血管外科	45	放射線診断科	65
呼吸器外科	46		

血液内科

Hematology

Dial-in

● 03-5803-5670

<http://www.tmd.ac.jp/grad/hema/index.html>

幅広い血液疾患に関して、
患者さんとの意思の疎通を第一に心掛けながら
治療を行っています

● 診療科の概要

代表的な病気には、造血器腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など)やその他の貧血・血小板減少症をきたす疾患があります。入院治療は主に造血器腫瘍が中心ですが、その他の幅広い血液疾患に関して、患者さんとの意思の疎通を第一に心掛けながら、毎日、血液内科の専門医が外来治療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

- ・造血器腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、骨髄増殖腫瘍、多発性骨髄腫など)
- ・貧血疾患(再生不良性貧血、悪性貧血、溶血性貧血、発作性夜間血色素尿症など)
- ・出血性疾患(特発性血小板減少性紫斑病、血友病、その他の先天性・後天性凝固異常症)
- ・その他(慢性活動性EBウイルス感染症、免疫不全症など)

● おもな診断・治療法

染色体、遺伝子検査および細胞表面形質検査を含めた骨髄検査やリンパ節生検検査にておもに診断し、PET-CT 検査などで病変の広がりを検査し、抗癌剤治療、分子標的療法、造血幹細胞移植療法等にて治療を行います。

● 診療科における研究テーマ

治療が困難な血液疾患に対する有効な治療法の開発に向けた基礎的、臨床的研究を行っています。おもな研究テーマは、

- 1) 種々の白血病におけるチロシンキナーゼ変異体による細胞増殖シグナル伝達機構の破綻に基づく、化学療法薬および分子標的薬への耐性獲得機構とその克服法の開発
 - 2) リンパ系腫瘍に対する免疫応答調節機構の解析とその治療応用
 - 3) 慢性活動性EBウイルス感染症の発症機構の解明と治療法の開発などです。
- その他に、種々の造血器腫瘍に対する臨床治療研究を行っています。

● 高度な先進医療

放射線標識抗CD20抗体(ゼパリン)治療、慢性活動性EBウイルス感染症に対する造血幹細胞移植療法、移植後の網羅的血中ウイルスDNA量測定による早期診断治療など。



科長

三浦 修 Osamu Miura

専門医 ● 日本血液学会認定 血液専門医

専門分野 ● 白血病

悪性リンパ腫

多発性骨髄腫

骨髄増殖腫瘍

貧血

研究領域 ● 造血器腫瘍・骨髄不全症・貧血・出血性疾患の病態生理、診断、治療に関する幅広い臨床研究

専門外来 ● 造血幹細胞移植外来

Message

当科では、

- 1) 安全で質の高い医療の提供
 - 2) 高度先進医療の開発
 - 3) 優秀な医師の養成
- の3つの目標の達成に向けて、スタッフ一同、一致協力して活動しています。特に、一人でも多くの患者さんが、治癒して日常生活に戻れるよう、安全で最も質の高い医療を提供することを心掛けて診療に当たっています。

膠原病・リウマチ内科

Rheumatology

Dial-in

● 03-5803-4587

http://www.tmd.ac.jp/grad/rheu/rheu-J.htm

関節リウマチをはじめとする膠原病やそれに類した病気の診療を行います

診療科の概要

当科は多数の膠原病・リウマチ専門医を有しており、きわめて良好な治療成績を上げています。また、膠原病・リウマチ先端治療センターを有しており、他科との綿密な協力体制によるトータルケアに取り組んでいます。

取り扱うおもな疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎症候群、強皮症、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、成人発症スティル病など。

おもな診断・治療法

関節リウマチの早期診断とメトトレキサート・生物学的製剤などを用いた早期治療。難治性膠原病に対する免疫抑制療法

高度な先進医療

難治性高安動脈炎・成人発症スティル病に対する生物学的製剤による治療。難治性ANCA関連血管炎・全身性エリテマトーデス・関節リウマチに対するリツキシマブを用いた治療

診療科における研究テーマ

- 1) 関節リウマチの新規治療法の開発
- 2) 多発性筋炎・皮膚筋炎の原因解明と新治療法の開発
- 3) 生物学的製剤を中心とした薬剤の副作用に関する疫学研究



多発性筋炎・皮膚筋炎の治験にご協力ください

当科では多発性筋炎・皮膚筋炎初発の患者さんを対象とした医師主導治験を行っています。従来のステロイドや免疫抑制剤に加え、分岐鎖アミノ酸 (BCAA) が患者さんの筋力回復に有効かを調べる治験です。筋炎患者さんの筋力回復を願い、「BTOUGH 試験」と名付けました。筋力低下、筋肉痛などの症状があり、検査で筋原性酵素の上昇を認める患者さんがいらしたら、ぜひ当科にご紹介ください。



科長

上阪 等 Hitoshi Kohsaka

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本リウマチ学会認定 リウマチ専門医
専門分野 ● 膠原病内科学
研究領域 ● 膠原病の病態解明と新治療法の開発

Message

私たちは、関節リウマチをはじめとする膠原病やそれに類した病気の方を拝見しています。膠原病には、他に全身性エリテマトーデスや多発性筋炎・皮膚筋炎、強皮症などがあります。この病気の原因は、細菌などから身を守るはずの免疫力が自分を攻撃してしまうことです。同じ様な原因の病気に、ベーチェット病、血管炎、シェーグレン症候群などがあります。これらの病気では身体のおちこちに不具合を生じることがあります。従って、私たちは、患者さんの全身を診ることを心掛け、必要に応じて他科の協力を仰いでいます。また、膠原病は長い治療が必要です。そのために、私たちは患者さんが精神的にくじけてしまわぬように心掛けています。これからも、膠原病やその疑いのある方々を医療でお力添えできるよう願っております。

糖尿病・内分泌・代謝内科

Diabetes, Endocrinology and Metabolism

Dial-in

● 03-5803-5216

http://www.tmd.ac.jp/grad/cme/index.html

「全身を診る」という医療の原点を心掛け患者さんの身近に寄り添う優しい全人的医療を提供します

診療科の概要

メタボリックシンドロームあるいは糖尿病を中心とする生活習慣病、肥満症、難治性高血圧、ホルモン異常により多彩な症状を呈する視床下部・下垂体疾患、副腎疾患、膵・消化管ホルモン産生腫瘍などの難治性内分泌疾患を対象として、最新知識に基づいた論理的な診断と病態生理および生活環境を踏まえた全人的治療を実践しています。

取り扱うおもな疾患

糖尿病 (1型、2型、二次性)、高血圧 (本態性、二次性)、肥満症、視床下部・下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患、カルシウム代謝異常、膵ホルモン産生腫瘍、性腺機能異常

おもな診断・治療法

合併症に対する集約的対応、薬物・インスリン療法、持続血糖測定 (CGM) システム、持続皮下インスリン注入療法 (CSII) などによる個別の病態に応じた糖尿病治療。各種内分泌検査および画像診断による内分泌疾患の正確な診断と治療など。

高度な先進医療

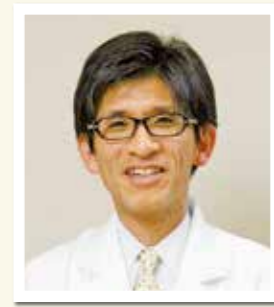
当科と泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、病理部が連携して副腎腫瘍治療ユニットを形成しています。泌尿器科にて開発された先進医療「ミニマム創内視鏡下手術」に基づき、当科では副腎腫瘍の術前診断・術後フォローを担当しています。

診療科における研究テーマ

「慢性炎症」「エビゲノム」「異所性脂肪蓄積」をキーワードとした生活習慣病の成因の解明と新しい診断法・治療法の開発を目指した基礎・臨床研究。ホルモン産生腫瘍を中心とする内分泌疾患の新しい検査法・診断法の開発を目指した分子医学的研究など。

その他

糖尿病診療においては、臨床栄養部、看護部、薬剤部、眼科、腎臓内科、歯周病学分野などと連携して糖尿病教室を行うなど、チーム医療による全人的な治療に取り組んでいます。また、診断・治療に難渋する糖尿病や内分泌疾患、二次性高血圧など疑い例も含めて気軽にご紹介下さい。



科長

小川 佳宏 Yoshihiro Ogawa

専門医 ● 日本内分泌学会認定
内分泌代謝科専門医
日本糖尿病学会認定 糖尿病専門医
日本肥満学会認定 肥満症専門医
日本高血圧学会認定 高血圧専門医

専門分野

糖尿病
肥満症
内分泌・代謝疾患
高血圧症

研究領域 ● 内分泌疾患と生活習慣病の病態解明と新しい治療戦略の開発

Message

当科では視床下部・下垂体疾患や副腎疾患などの特有の臨床症状を呈する内分泌疾患と糖尿病や肥満症を中心とする生活習慣病の診療を担当しており、高い専門性に立脚した先進的な医療を展開しています。「全身を診る」という医療の原点を常に心掛けて患者さんの身近に寄り添う優しい全人的医療を提供するとともに、地域の診療所や関連病院の先生方との医療連携を大切にして、地域医療の向上に貢献したいと考えています。



腎臓内科

Nephrology

Dial-in

● 03-5803-5670 (内科外来) ● 03-5803-5214 (教室)

<http://www.tmd.ac.jp/grad/kid/index.html>

実績と伝統を兼ね備えた腎疾患診療を行います

● 診療科の概要

蛋白尿・血尿から末期腎不全に至るまでの腎臓病全般の診断・治療を行っております。患者さんとコミュニケーションを充分にとり、一人一人の患者さんにとって最も適した治療を行っていくことを目指しております。

● 取り扱うおもな疾患

蛋白尿・血尿、ネフローゼ症候群をはじめとする糸球体腎炎や間質性腎炎、水・電解質代謝異常、急性腎障害(急性腎不全)、慢性腎臓病(慢性腎不全)、本態性高血圧・二次性高血圧、糖尿病性腎症、自己免疫性疾患による腎障害、多発性嚢胞腎などの遺伝性腎疾患、そして血液透析や腹膜透析の様々な合併症についても加療を行っております。

● おもな診断・治療法

エコー下腎生検による診断、腎炎や自己免疫性腎疾患に対するステロイドや免疫抑制薬を用いた的確な治療、急性腎障害や慢性腎臓病に対する治療(慢性腎臓病に対する教育プログラムで腎臓病進展遅延の効果もあげております)、そして急性血液浄化療法を含む血液浄化療法の導入・管理も行っております。また透析管理に必要な内シャント造設術・シャントPTA・腹膜透析カテーテル留置術についても腎臓内科で施行しております。

● 高度な先進医療

分子生物学的手法を用いた遺伝性腎疾患の遺伝子解析を行っており、全国からの遺伝子解析の依頼を受け付け、発症メカニズムの解明や治療法の開発を目指しております。また、急性腎障害や多臓器不全などに対する様々な血液浄化療法(持続的血液透析濾過(CHDF)、エンドトキシン吸着(PMX)、血漿交換、LDL吸着、白血球吸着療法など)も行っております。

● 診療科における研究テーマ

研究の大きなテーマは、“体液恒常性維持や慢性腎臓病に関わる腎臓の機能を明らかにし、新しい病態生理の発見と治療戦略の構築を目指す”ことにあります。また、多発性嚢胞腎などの遺伝性腎疾患の遺伝学的解析から、新規の診断法と治療法の発見を目指します。

● その他

腎疾患は全身疾患の合併症として出現することも多く、数多くの診療科がある大学病院ならではの特性を活かし、全人的な医療を行っております。また腎臓内科専門医・透析専門医が毎日外来を担当しておりますので、腎疾患についてお気軽にご相談ください。



科長

内田 信一 Shimichi Uchida

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本腎臓学会認定 腎臓専門医
日本透析医学会認定 透析専門医
専門分野 ● 腎臓内科
透析医療
水電解質疾患
研究領域 ● 慢性腎臓病
水電解質代謝
遺伝性腎疾患

Message

腎臓内科は「信頼される医療」と「優秀な医師の養成」を目標として診療・教育・研究の活動を行っております。腎臓病治療には長年の実績があり、多くの腎臓専門医を育成してきています。多くの医療機関とも緊密な連携を維持し、共同して医療の質の向上に努めています。また最新の技術を駆使して遺伝性腎疾患の遺伝子解析を行い、国内外から解析の依頼を受け付けています。遺伝子異常から発病に至るメカニズムを調べ、その成果を基に革新的治療法の開発も目指しています。現在、社会の高齢化と生活習慣の変化により慢性腎臓病の患者数が著増し、腎臓専門医への期待は高まるばかりです。スタッフ一同、患者さん、そして医療関係者から信頼される医療を目指して日々研鑽に努め、診療に当たっています。



老年病内科

Geriatrics

Dial-in

● 03-5803-5670 (内科外来) ● 03-5803-5229 (教室)

<http://www.tmd.ac.jp/grad/vasc/vasc-J/index.html>

高齢者総合外来、認知症外来、高齢者糖尿病、脂質異常症、動脈硬化予防、下肢の閉塞性動脈硬化症、漢方の専門外来を開設しています

● 診療科の概要

概ね65歳以上を対象とした高齢者総合外来のほか、認知症外来、高齢者糖尿病、脂質異常症、動脈硬化予防、下肢の閉塞性動脈硬化症、漢方の専門外来を開設しています。下肢の動脈硬化症に対しては、末梢血管外科、皮膚科、形成・美容外科と連携して、先進医療に指定されている末梢血管単核移植を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

疾患が特定できない高齢者の体の不調、認知症、高齢者糖尿病、脂質異常症、高血圧、下肢の閉塞性動脈硬化症、漢方治療の対象疾患など。

● おもな診断・治療

一般内科的な診断治療の他、高齢者総合機能評価、認知機能検査、下肢の動脈硬化の治療を行っています。

● 高度な先進医療

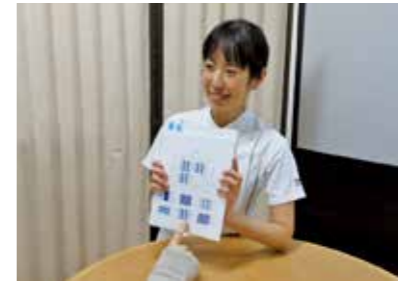
下肢の動脈硬化症に対する末梢血管単核移植

● 診療科における研究テーマ

動脈硬化の成因に関する研究、末梢動脈の閉塞性疾患に関する臨床的研究、医学生および研修医に対する老年医学教育に関する研究

● その他

・全身管理には、疾患そのもののほかに、体力・認知機能・栄養状態・介護状態・口腔条件等が関連する場合があります。全身状態のより良い管理のために多職種との連携を大切にします。
・外来患者さん向けの生活習慣病教室やもの忘れ予防教室を開催しています。



科長

下門 顕太郎 Kentaro Shimokado

専門医 ● 日本老年医学会認定 老年病専門医
日本内科学会認定 総合内科専門医
日本循環器学会認定 循環器専門医
研究領域 ● 老年病
動脈硬化
末梢動脈疾患
高齢者糖尿病
専門外来 ● 漢方外来
高齢者糖尿病外来
脂質異常症外来
動脈硬化外来
認知症外来
もの忘れ外来

Message

高齢者は様々な臓器の機能や認知機能が低下しており、ひとつの病気だけを治療しても元氣になれないことがあります。このような高齢者を、院内の各科や高齢者福祉関係者と連携して総合的に診療します。高齢者糖尿病、脂質異常症、高血圧、動脈硬化予防の外来や、下肢の閉塞性動脈硬化症に対する高度先進医療も行っています。



消化器内科

Gastroenterology and Hepatology

Dial-in

● 03-5803-5670

<http://www.tmd.ac.jp/grad/gast/index.html>

炎症性腸疾患、ウイルス性肝炎・肝癌、
小腸内視鏡では日本でも有数の技術力を誇ります

診療科の概要

専門性を必要とする高度先端医療を診療の場で実践するために、疾患別に責任者を置き、診療の先進性を高めるとともに、専門外来（「潰瘍性大腸炎・クローン病」、「ウイルス性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）・肝癌」、「胃癌・膵癌の化学療法」「内視鏡治療・小腸内視鏡」）をしております。患者さん一人一人に時間をかけて丁寧に診察し、患者さんのご希望を叶える最善の治療法を高度先端医療を含めてご提供しております。

取り扱うおもな疾患

- 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
- ウイルス性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）・肝癌
- 特殊内視鏡（小腸バルーン内視鏡、カプセル内視鏡）
- 食道・胃・膵癌化学療法

上記についてはそれぞれの専門外来にて、その分野に精通する経験ある医師が、患者さんに十分な説明を心掛け、患者さんのご希望を叶える最善の治療法の提供を心がけております。

おもな診断・治療法

消化器病学は消化管および肝臓、胆道、膵臓など、臓器として多くの領域をカバーするだけでなく、解剖、生理、病理学を基礎として、免疫学（炎症、感染症、自己免疫など）、腫瘍学、遺伝学、栄養学などの幅広い病態学におよびます。また、診断学においても内視鏡検査などの画像診断の進歩は目覚ましく、治療学の進歩も華々しいものがあります。

高度な先進医療

既に、炎症性腸疾患、ウイルス性肝炎・肝癌、小腸内視鏡では日本でも有数の大学病院である事は知られていますが、4年前に開設された「潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター」では未だ治療が困難な炎症性腸疾患に対して最先端の知識と治療技術に精通する多数のエキスパートが各科連携して診療に当たっています。

診療科における研究テーマ

当科では一人一人が臨床も研究も共に一流である事をモットーとしています。この15年で英文243報、その内48報がImpact Factor 5以上のいわゆる一流誌です。よりよい医療実践を心がけ、臨床情報に基づいた我々臨床医にしかできない疾患病態の解明と新規治療法の開発を目指しています。



科長

渡邊 守 Mamoru Watanabe

専門医 ●日本消化器病学会認定
消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医

専門分野 ●炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
ウイルス性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）・肝癌
特殊内視鏡（小腸バルーン内視鏡、カプセル内視鏡）
食道・胃・膵癌化学療法

研究領域 ●炎症性腸疾患の病態と粘膜免疫
腸管の再生医療
ウイルス性肝炎・肝癌

専門外来 ●胃・大腸内視鏡治療外来
潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター
肝炎・肝がん撲滅外来
小腸外来
消化器癌化学療法
腸管エコー外来

Message

2001年に東京医科歯科大学に初めての消化器内科ができて16年目を迎えました。この間、日本一医局員の平均年齢が低い「医科歯科初」消化器内科の全医局員は300名を超えました。炎症性腸疾患、ウイルス性肝炎・肝癌、小腸内視鏡では日本でも有数の大学病院として知られていますが、今後も日本のみならず世界における臨床、研究の拠点となるべく、今後も一人一人を引き締めて邁進しなければならないと強く思っています。

循環器内科

Cardiovascular Medicine

Dial-in 緊急症例に対しては循環器内科の救急当番が24時間体制で対応します

平日 ●内科外来 03-5803-5670 ●地域連携室 03-5803-4655

夜間休日 ●病院代表 03-3813-6111から救急外来へお問い合わせ下さい

<http://www.tmd.ac.jp/med/med3/cvm/>

心臓および血管の病気の最先端診療を行います
「患者さんに満足いただける」診療を心がけています

診療科の概要

あらゆる循環器疾患に対応して患者さんを中心とした高度で良質な診療を提供しています。不整脈センターは世界をリードする成果をあげています。大動脈や血管病、血管炎の治療に対しても専門のチームで診療に当たっています

取り扱うおもな疾患

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、不整脈（頻脈性不整脈・徐脈性不整脈）、後天性心臓弁膜症、心筋症（心サルコイドーシスなどの二次性心筋症を含む）、高安静脈炎（国内で最も多くの患者さんを診療しています）、先天性心疾患、肺高血圧症、高血圧症・血圧調節異常（神経調節性失神）など

おもな診断・治療法

2015年診療実績 経皮的冠動脈インターベンション255例、経皮的カテーテル心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）393例、ペースメーカー93例、植え込み型除細動器31例、両心室ペースティング12例、感染リード除去術49例、心筋生検18例、人工心臓治療（心臓血管外科と共同、2015年12月までの累積）：対外式17例、植え込み型9例、心臓移植適応判定17例（2015年12月までの累積）

高度な先進医療

冠動脈複雑病変に対するカテーテル治療、エキシマレーザー冠動脈形成術、難治性不整脈に対するカテーテルアブレーション、感染ペースメーカー除去、高安静脈炎に対する診断・治療（磯部光章科長は厚生省血管炎研究班大型血管炎分科会長）、心臓移植を必要とする重症心不全に対する補助人工心臓治療、心臓移植適応検討（磯部光章科長は日本循環器学会心臓移植委員会委員長、日本心不全学会理事長）

診療科における研究テーマ

[基礎] 歯周病と心疾患、冠動脈ステントの開発、動脈硬化の原因と治療、心臓拒絶反応
[虚血性心疾患] カテーテル治療の長期成績に関する多施設共同研究、冠動脈内画像の臨床応用、エキシマレーザー血管形成術の臨床応用
[不整脈] 不整脈センターの項を参照

その他

当院は東京都内だけでなく関東、国内各地より症例をご紹介いただいています。心不全、虚血性心疾患、不整脈、血管炎それぞれに最先端治療を行うよう研鑽しています。軽症例から救命センターに搬送されるような三次救急症例まで、心臓血管外科、救命救急センターと連携し、多くの症例に対応しています。また関東一円に教育関連病院が整備されており、地域の一線の医療機関へのご紹介もしています。心臓病のことでお困りのことがありましたら、気軽にご相談くださるようお願い致します。



科長

磯部 光章 Mitsuki Isobe

専門医 ●日本循環器学会認定
循環器内科専門医
日本動脈硬化学会認定
動脈硬化専門医
日本脈管学会認定 脈管専門医

専門分野 ●心不全
心筋症
心筋炎
虚血性心疾患
動脈硬化
心臓移植
高安静脈炎

研究領域 ●心筋症
心不全
心臓移植
動脈硬化
血管炎 など

専門外来 ●遺伝子解析研究外来
心房細動外来
ペースメーカー外来
睡眠障害外来

日本学術会議会員
厚生労働省臓器移植委員会委員長
厚生労働科学審議会科学技術部会委員
著書『話を聞かない医師 思いが言えない患者』（集英社新書）

Message

我が国では心臓病に罹患する人、心臓病で死亡する人が年々増加しています。何より予防に心がけ、一旦心臓病になっても早期診断と適切な治療が大切です。当科のモットーは患者中心の医療に心がけることであり、チームが一丸となって患者さんのトータルケアにあたる中で一人一人の患者さんに最適な診療を行うことを目指しています。



呼吸器内科

Pulmonary Medicine

Dial-in

● 03-5803-4587

呼吸器内科: <http://www.tmd.ac.jp/med/pulm/>

快眠センター: <http://www.tmd.ac.jp/med/slp/index.html>

呼吸器疾患に関して医学の進歩に対応した先進的医療を実現すべく努力しています

診療科の概要

全人的包括的医療を科学性をもって行うことを指針に、患者さんの苦しみや悩みなどを共有しながら最善の医療を提供することが我々の使命と考え、呼吸器疾患全般にわたり最先端の治療を行っています。また快眠センターを併設し睡眠時無呼吸症候群等の診療も行っています。

おもな診断・治療法

当科では間質性肺炎の中でもカビや鳥関連物質が原因である過敏性肺炎の症例が多いのが特徴です。正確な診断のために抗原回避、気管支鏡検査、鳥関連物質に対するアレルギーを調べる免疫学的検査、吸入誘発試験、胸腔鏡下肺生検を行っています。

高度な先進技術

慢性の過敏性肺炎は臨床像が特異性間質性肺炎（原因不明であり、特定疾患に指定）に類似しており、正確な区別が困難とされています。当科では、診断に有用な抗原回避や吸入誘発試験の経験が豊富であり、特異抗体などの免疫学的検査も可能です。

取り扱うおもな疾患

間質性肺炎、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸器感染症、サルコイドーシス、睡眠時無呼吸症候群等の呼吸器疾患全般の診療を行います。特に過敏性肺炎を含め間質性肺炎についての診療経験が豊富です。

診療科における研究テーマ

間質性肺炎に関する研究が中心となっています。間質性肺炎における肺の線維化の病態解明、過敏性肺炎の病態解析や診断法開発などを研究テーマとしています。細胞培養系や動物モデルを用いた喘息の病態解析なども行っています。

取り組み

間質性肺炎を含め両側の肺に陰影が出現するびまん性肺疾患と呼ばれる疾病に関しては、様々な原因が挙げられますが、原因を特定することは困難です。各種検査法を用いてできる限りの原因特定に努めております。

その他

当科の研究室では過敏性肺炎の診断に必要な特異抗体測定や抗原吸入誘発試験が可能であり、これまでに全国からご紹介いただいた患者様の診断に貢献してきました。現在は生活環境中に存在する原因抗原の量を正確に測定するシステムを開発中です。



科長

稲瀬 直彦 Naohiko Inase

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本呼吸器学会認定 呼吸器専門医
日本アレルギー学会認定
アレルギー専門医

専門分野 ● 間質性肺炎
過敏性肺炎

研究領域 ● 肺線維化の病態解明

専門外来 ● 禁煙外来

Message

呼吸器内科は間質性肺炎、アレルギー疾患（過敏性肺炎・気管支喘息）、感染症（肺炎）、悪性腫瘍（肺癌）、慢性閉塞性肺疾患などの多彩な疾患を担当しますが、いずれの疾患についても医学の進歩に対応した先進的医療を実現すべく努力しております。呼吸器疾患のことでお悩みの方は当科を受診してください。



総合がん・緩和ケア科

Comprehensive oncology and palliative care

Dial-in

● 03-5803-4886

<http://www.tmd.ac.jp/canc/center/palliative/index.html>

がん患者さんや非がん疾患の患者さんの身体的、精神的な苦痛に向き合います

診療科の概要

総合がん・緩和ケア外来は、腫瘍センター開設時に外来部門として設置されました。現在、A棟3階がん相談支援センター前の個室の外来で診療を行っています。緩和ケアチームとほぼ一体化した診療を行い、2017年4月の緩和ケア病棟開設も視野に入れた包括的緩和ケア診療体制の構築を目指しています。

おもな診断・治療法

診療科の特徴として、他の診療科、部門との併診で診療を行っています。診断については特別なことはありませんが、コミュニケーションを重視し、患者さん・ご家族も医療チームの一員と考えて診療を行っています。

高度な先進技術

一般的な意味での高度な先進技術はありません。当科では心理学的、倫理的な立場に立脚した医療者・患者関係の構築を目指しています。また、がん診療については常に最新の知識・情報を提供できる体制を構築しています。

取り扱うおもな疾患

緩和ケアチームと同様に、様々な段階（病期）の悪性疾患の患者さんがおもな対象です。この他にも、難治性疼痛、先天性免疫不全など患者さんのニーズに応じた対応を心がけています。

診療科における研究テーマ

医学教育における緩和ケア実習の医学生および患者・家族に及ぼす影響

取り組み

基本的には主科との連携を重視し、患者さん・ご家族の負担にならないように主科の診療に合わせた外来診療を行っています。また必要に応じて、緩和ケア認定看護師と医師が同時に対応しています。

その他

総合がん・緩和ケア科は現時点では外来診療のみの診療科ですが、将来的には緩和ケア病棟、緩和ケアチームと一体化した緩和ケアセンターとしての機能を持つことを目標としています。



科長

三宅 智 Satoshi Miyake

専門医 ● 日本緩和医療学会 暫定指導医

専門分野 ● 緩和医療学

研究領域 ● 臨床腫瘍学
臨床倫理学

Message

緩和ケアというとまだ終末期というイメージを持たれている患者さんも多いと思います。実際には医療者でもそのようなイメージを持っている人が多いのが現実です。総合がん・緩和ケア科では、治療中のがん患者さんや非がん疾患の患者さんの身体的、精神的な苦痛にも向き合っています。

遺伝子診療科

Medical Genetics

Dial-in

● 03-5803-5670 (4階合同内科外来 平日9~17時)

http://www.tmd.ac.jp/bioethics/11_4c569fad73445/index.html

遺伝子に関する疾患についての相談に
専門スタッフが対応します

● 診療科の概要

遺伝についての疑問や不安にお答えしています。

臨床遺伝専門医および認定遺伝カウンセラーを中心としたスタッフ（遺伝看護師、助産師など含む）が遺伝情報の提供と支援を行っています。遺伝子検査の実施や結果説明なども行っています。

なお、親子鑑定は実施しておりません。

● 取り扱うおもな疾患

下記に記載するような遺伝性疾患・染色体異常。

● おもな診断・治療法

現在、当外来で検査できる遺伝子検査は以下のようなものがあります。

- 染色体構造検査 (Gバンド法・FISH法)
- 家族性大腸腺腫症
- Lynch症候群
- 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群
- 多発性内分泌腫瘍症1型 (MEN1)
- インターロイキン28受容体多型

● 高度な先進医療

さまざまな遺伝性疾患・染色体異常などの発症前診断や出生前診断に際し、単なる遺伝情報の提供にとどまらず、検査のメリット・デメリットや心理的負担、家族や社会生活への影響など丁寧に説明し、患者さんの意思決定のお手伝いをしています。また、学内外の研究者に依頼して下記のような遺伝子検査を行っています。

- 筋強直性ジストロフィー
- Gorlin症候群
- QT延長症候群
- 脊髄小脳変性症
- フォン・ヒッペル・リンドー病
- 家族性地中海熱
- 家族性高コレステロール血症
- 家族性結合組織症 (マルファン症候群・エーラス・ダンロス症候群)
- 遺伝性難聴 など

● 診療科における研究テーマ

1. 遺伝性乳がんに関連する教育プログラムの開発
2. 動脈硬化症・生活習慣病の遺伝的素因についての基礎・臨床研究
3. 未診断疾患に対する全エクソーム、全ゲノム・シーケンシング解析研究
4. 不整脈疾患に対するGWAS

● その他

遺伝性疾患では身体のいろいろな臓器に問題が起こることがあります。このような病態に対応するため院内臨床各科と連携・情報共有し、包括的な診療を行っています。



科長

吉田 雅幸 Masayuki Yoshida

専門医 ● 日本人類遺伝学会認定 臨床遺伝専門医
日本循環器学会認定 循環器専門医
日本老年医学会認定 老年病専門医

専門分野 ● 循環器学
遺伝学
老年病学

研究領域 ● 分子遺伝学・血管生物医学

専門外来 ● 遺伝カウンセリング外来

Message

近年、遺伝学の進歩によって、多くの病気の原因遺伝子が発見されています。その結果、生後まもなく発症する先天性の遺伝性疾患から、成人になって問題となる生活習慣病に至るまで多くの病気に遺伝子の関与があることが分かってきました。特に、親から子に遺伝する疾患（遺伝病）では、検査を受けた方の遺伝情報から本人や家族の将来を予測できてしまう可能性があります。遺伝性疾患や先天異常などに関連した患者さんのさまざまなニーズにこたえるため、遺伝子診療科では臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーを中心としたスタッフが患者さんのご相談にお答えしています。

食道外科

Esophageal Surgery

Dial-in

● 03-5803-5675

http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_treat/shokudou.html

食道の病気に関して最新で精度の高い診断・治療を
患者さんが安心して受けられるように努力しています

● 診療科の概要

食道外科は、食道の病気の全ての診断と治療を行う部門です。内科、放射線診断科、放射線治療科などの連携をはじめ、頭頸部外科や口腔外科などと協力し、咽喉頭・口腔領域癌の早期診断・治療にも積極的に取り組んでいます。

● 取り扱うおもな疾患

食道癌、逆流性食道炎（食道裂孔ヘルニア）、バレット食道、食道アカラシア、食道良性腫瘍、早期の咽喉頭・口腔内癌、鼠径ヘルニア

● おもな診断・治療法

画像強調内視鏡 (FICE、BLI、NBI)・拡大内視鏡、胸腔鏡下食道切除術、腹腔鏡下胃食道逆流防止手術、腹腔鏡下アカラシア修復術、内視鏡治療 (EMR、ESD、APC)、単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術など、食道疾患の先進的な診断と治療を始め、一般外科領域の最新治療も行っています。

● 高度な先進医療

食道癌の内視鏡的切除術 (EMR、ESD) や胸腔鏡下切除術をそれぞれ1980年代、1990年代に開始した経験を活かし、最近では咽喉頭・口腔領域癌の早期診断や治療（内視鏡的／鏡視下）に先進的な技術を提供しています。

● 診療科における研究テーマ

食道癌の新低侵襲治療法（内視鏡的、胸腔鏡的・腹腔鏡的）、診断・治療関連機器の開発、経鼻内視鏡を用いた早期の食道癌、咽喉頭・口腔内癌の診断法開発、癌領域発生 (field cancerization) の分子生物学的解明と診断マーカー分子、治療標的分子の同定など。

● その他

医学部附属病院に所属する診療科として最新・最良の医療を提供することはもちろん、学生教育、医学研究にも大きな役割を担っています。更に、大学病院における食道癌診療のノウハウを多くの第一線医師へ提供するために、診療マニュアルの編集に取り組んでいます。



科長

河野 辰幸 Tatsuyuki Kawano

専門医 ● 日本外科学会認定 外科専門医
日本消化器外科学会認定
消化器外科専門医
日本気管食道科学会認定
気管食道科専門医
日本食道学会認定 食道外科専門医

専門分野 ● 消化器外科
消化器内視鏡

研究領域 ● 食道癌の診断と治療
逆流性食道炎・食道アカラシアの診断と治療
食道疾患の内視鏡診断と内視鏡的治療・鏡視下手術
咽喉頭・口腔・食道における癌の領域発生

Message

食道疾患の診療には高度の専門性とチームワークが求められます。特に食道癌に対しては、高度で精密な診断技術とともに、内視鏡治療、外科手術、放射線治療、抗がん剤化学療法など、様々な治療法の中から、それぞれの患者さんにとって最適なものを選択し、あるいは組み合わせ、確実に遂行することが重要で、当科はその全てに豊富な経験を有しています。また、がんの包括的・総合的診療の観点から、近年特に重視されている栄養サポートチーム (NST) および緩和ケアチームにも発足時から参加し、患者さんの全人的ケアを心がけています。



胃外科

Gastric Surgery

Dial-in

● 03-5803-5254

<http://www.tmd.ac.jp/srg1/gs/doctor/index.html>

日本人に多い胃の病気に特化して
最適な治療を行います

● 診療科の概要

胃外科は、胃の病気の全てと、胃切除後の胆石症や鼠径ヘルニアなど、一般外科諸疾患の診断と治療を行う診療科です。胃癌の腹腔鏡下手術では、日本有数の症例数を有しています。

● 取り扱うおもな疾患

胃癌、胃GIST、胃・十二指腸潰瘍、胆石症、鼠径ヘルニア、急性虫垂炎、病的肥満症に対する外科治療

● おもな診断・治療法

内視鏡治療 (EMR、ESD、APC)、腹腔鏡下手術 (腹腔鏡下胃切除術、腹腔鏡下胆嚢摘出術) など、胃疾患の先進的な診断と治療 (手術) をはじめ、一般外科領域の最新治療まで行っています。

● 高度な先進医療

胃癌の内視鏡的切除術 (EMR、ESD) や腹腔鏡下切除術を1999年より開始した経験を活かし、先進的な診療として進行胃癌や胃全摘術などにも腹腔鏡下手術を提供しています。

病的肥満に対する腹腔鏡スリーブ状胃切除を開始しています。

● 診療科における研究テーマ

胃癌の新低侵襲治療法 (内視鏡的、腹腔鏡的)、関連機器の開発、胃癌の予後因子や化学療法法の標的因子の分子生物学的な同定

● その他

医学部附属病院に所属する診療科として最新・最良の医療を提供することはもちろん、学生教育、医学研究にも大きな役割を担っています。更に、大学病院における胃癌腹腔鏡下手術の技術を多くの第一線医師へ提供するために、国際的な研究会を主催しています。



科長

小嶋 一幸 Kazuyuki Kojima

専門医 ● 日本外科学会認定
外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定
消化器外科専門医・指導医
専門分野 ● 胃癌治療
胃癌の腹腔鏡下手術
GISTに対する腹腔鏡下手術
研究領域 ● 胃癌の診断と治療
腹腔鏡下手術
GISTの診断と治療

Message

胃に関するあらゆる疾患に対して、個々の患者さんに最適な治療法が選択されるように心がけています。胃癌に対する腹腔鏡下手術は黎明期から世界の中心的な施設として積極的に施行しており、十分な経験を有する内視鏡外科技術認定医の指導の下、安全で、体に優しい手術を行っており、治療成績も良好です。

大腸・肛門外科

Colorectal Surgery

Dial-in

● 03-5803-5675

<http://www.tmd.ac.jp/srg1/cs/index.html>

大腸がんを中心に大腸ポリープ、
炎症性腸疾患および痔核、痔ろうなどの治療を
それぞれの患者さんの病状に合わせ、過不足なく行います

● 診療科の概要

大腸がんを中心に、大腸ポリープや炎症性腸疾患、痔核・痔ろうなどの大腸・肛門疾患の外科治療を行っています。特に直腸がん手術で損なわれやすい性功能・排尿機能・排便機能を温存する手術に高い評価を得ています。また、痛みが軽く、回復の早い腹腔鏡手術も積極的に行っています。

進行した大腸癌に対しても、腫瘍化学療法外科と協力して、専門のスタッフががんの進行度やそれぞれの患者さんの病状に応じて、手術、化学療法 (抗がん剤治療)、放射線治療を組み合わせた先進的な治療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

- 大腸がん (結腸がん、直腸がん)
- 大腸ポリープ
- 再発大腸がん、大腸がんの肝転移、肺転移 (手術、抗がん剤治療)
- 炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病)
- 家族性大腸腺腫症
- 肛門疾患 (痔核、痔ろうなど)

● おもな診断・治療法

診断法: 大腸内視鏡検査、注腸造影検査、CTコロノグラフィ、CT、MRI、PET 検査など
治療法: 開腹手術、腹腔鏡手術、内視鏡治療
直腸がんに対する自律神経温存リンパ節郭清手術
再発大腸がんに対する手術 (直腸がん局所再発の手術、大腸がん肝転移の切除手術など)、化学療法 (抗がん剤治療) など

● 高度な先進医療

- 直腸がんに対する自律神経を温存した側方郭清手術。
- 大腸がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡手術。精緻な手術手技を可能とする大腸癌に対する3D立体腹腔鏡下手術。
- 化学療法 (抗がん剤治療) を先行して行ってから手術を行う集学的治療戦略: 手術後の再発を抑制したり (Neoadjuvant療法)、手術ができない大腸がんを化学療法にて手術ができるようにする (Conversion療法) 治療。
- 再発直腸がんに対する重粒子線治療 (放射線医学総合研究所と連携)。
- 大腸がん局所再発に対する拡大他臓器合併切除術。

● 診療科における研究テーマ

- 低侵襲手術 (腹腔鏡手術など) や機能温存手術 (自律神経温存手術など) による、がんの根治性と機能温存、術後QOLの両立。
- 化学療法 (抗がん剤) と手術の組み合わせによる切除率や根治性の向上。
- Evidence based medicineと、臨床試験の基盤構築や実施・運営。
- がんの遺伝子検査による抗がん剤感受性の予測、治療の個別化 (オーダーメイド治療)。

● その他

当科では、大腸がん治療に関する多くの全国規模の臨床試験を主導し、また、参加しています。臨床試験は新しい治療法や標準治療法を安全かつ確実に行う方法を開発する研究です。患者さんにご同意いただければ積極的に臨床試験へのご参加をお勧めしております。

日本の大腸がん治療を世界に発信する講演を海外より招聘され多数行い、根治性の高いリンパ節郭清手技を、海外でのデモンストレーション手術などを通じて指導しています。



科長

安野 正道 Masamichi Yasuno

専門医 ● 日本外科学会認定 外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定
消化器外科専門医・指導医
日本大腸肛門病学会認定
大腸肛門病専門医・指導医
専門分野 ● 大腸がん・大腸良性疾患ならびに肛門疾患に対する治療
進行・再発大腸がんや骨盤悪性腫瘍などの難治性がんに対する手術治療
研究領域 ● 大腸がんの診断と治療。直腸がんの機能温存手術
再発大腸がんに対する集学的治療戦略
大腸がんの個別化治療、予後予測因子
専門外来 ● ストーマ外来

Message

大腸がんの治療は日進月歩です。当科では、腹腔鏡手術を含む大腸がん手術を年間約150件施行しています。世界的に見てもトップレベルの手術技術で治療を行い、その治療成績も優れています。

進行した大腸癌に対しても、腫瘍化学療法外科と協力して、専門スタッフがそれぞれの患者さんに応じて、手術、化学療法 (抗がん剤治療)、放射線治療を組み合わせ、治療効果が高く、また、負担が少ない最適な治療法を選んで行っています。

大腸がんと診断されても、安心して当科を受診してください。

腫瘍化学療法外科

Chemotherapy and Oncosurgery

Dial-in

● 03-5803-5675

<http://www.tmd.ac.jp/srg/synnryou/chemosrg/index.html>

外科手術と抗がん剤治療の組み合わせで、
個々の患者さんに最適な治療を提供する
「オーダーメイド治療」を目指します

● 診療科の概要

大腸がんを中心に、外科手術と化学療法（抗がん剤治療）の組み合わせで、それぞれの患者さんの病状に応じて最適な治療を提供する「オーダーメイド治療」を目指して、専門のスタッフが診療にあたります。

肝胆膵外科、呼吸器外科、放射線科などと協力して、転移・再発した病巣の手術治療や放射線治療も行います。緩和ケア外来や医療連携支援センターと連携し、患者さん・ご家族のQOLを高める支援にも努めています。

● 取り扱うおもな疾患

大腸がん（結腸がん・直腸がん）、転移性肝がん、転移性肺がんなど

● おもな診断・治療法

● 進行再発大腸がんの化学療法

● 大腸がん手術後の補助化学療法

転移・再発巣の手術、放射線治療を含む集学的治療戦略を立案し、それぞれの患者さんに最適ながん治療を提供します。

● 高度な先進医療

全国規模の各種臨床試験・治験に参加しています。

【参考】当科が参加している臨床試験・治験

http://www.tmd.ac.jp/srg/synnryou/chemosrg/134_551781e86e0e1/index.html

● 診療科における研究テーマについて

1) 消化器がんにおけるオーダーメイド治療（個別化治療）

2) 消化器がん化学療法の治療効果予測・予後予測因子

● その他

大腸がんの治療に関するセカンドオピニオンのご要望にも対応いたします。

セカンドオピニオン外来：<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/patient/second.html>



科長

植竹 宏之 Hiroyuki Uetake

専門医 ● 日本外科学会 外科専門医・指導医

専門分野 ● 消化器がんの治療

消化器がんの化学療法（主に大腸癌）

研究領域 ● 消化器がんにおけるオーダーメイド治療

（個別化治療）

消化器がん化学療法の治療効果予測・

予後予測因子

Message

2015年4月、『腫瘍化学療法外科』が発足しました。

近年のがん薬物療法（化学療法）の進歩はめざましいものがあります。1990年代まで、消化器がんは一般に抗がん剤が効きにくいがんとされてきましたが、近年では有効な薬剤が多数登場し、患者さんの生存期間の延長に寄与しています。その一方で、多くの薬剤を使いこなす、専門的な知識や経験が求められるようになりました。

腫瘍化学療法外科では、従来より消化器がん治療の中心である外科治療（手術）にも精通し、疾患を総合的に診ることができる医師が、それぞれの患者さんに最適な化学療法を行います。

乳腺外科

Breast Surgery

Dial-in

● 03-5803-5675

<http://www.tmd.ac.jp/srg/synnryou/breast/index.html>

精度の高い診断と
最新の乳癌治療を提供しています

● 診療科の概要

早期乳癌の場合は、乳房温存療法、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清の省略など quality of life を重視した治療を積極的に行っています。さらに大きさや場所などから乳房温存が難しいという場合も、形成外科と連携し、乳癌手術と再建を同時に実施する同時再建に早くから積極的に取り組み、高い実績を上げてきています。

● 取り扱うおもな疾患

乳癌、再発乳癌、線維腺腫、葉状腫瘍など

● おもな診断・治療法

診断法：マンモグラフィ、乳腺超音波検査、乳房MRI、PET-CT、ステレオガイド下マンモトーム生検、針生検、穿刺吸引細胞診

治療法：乳房温存術、乳房切除術、同時乳房再建術（形成外科と連携）、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清術、化学療法、内分泌療法、放射線療法など

● 高度な先進医療

整容性を重視した乳癌手術（乳房温存手術、乳房同時再建など）

● 診療科における研究テーマ

1. 乳癌における低侵襲治療

2. 腋窩リンパ節郭清にともなう上肢浮腫の発生機序

3. 乳癌の癌化のメカニズム解明のため、癌化・進展・転移に関連した遺伝子の検出

4. 転移早期発見のため、癌の微小転移の検出を行い、より効果的な治療を行うことを目指した遺伝子診断法の確立

5. 癌進展関連の遺伝子群を包括的に制御できるmicroRNAの同定

● その他

当院は日本乳癌学会認定施設です。



科長

中川 剛士 Tsuyoshi Nakagawa

専門医 ● 日本乳癌学会認定 乳腺専門医

日本外科学会認定 外科専門医

専門分野 ● 乳癌治療

研究領域 ● 乳癌治療

乳癌増殖因子

抑制因子

Message

乳癌は外科手術だけで治す時代ではなくなりました。大学病院ならではの、集学的治療を率いることが乳腺外科の使命と考えております。放射線診断科、治療科、形成外科、病理だけでなく、緩和医療、遺伝相談、妊孕性など関連診療科と密に連携し、患者さんご家族のサポートをしています。

小児外科

Pediatric Surgery

Dial-in

● 03-5803-5674

<http://www.tmd.ac.jp/srg/synnryou/pedsrg/index.html>

新生児・小児の外科疾患に対し、
患児それぞれに保存的または手術的に最適な治療を行います

診療科の概要

小児外科が関わる病気は、便秘などの内科的疾患をはじめ、生まれたばかりの新生児における先天性疾患、急性虫垂炎などの急性疾患まで多岐に渡ります。同じ病名がついてもお子さんやご家族にとっての問題点はそれぞれ違います。お子さんやご家族の視点に立って最適な治療を選択しつつ、専門医として責任を持って保存的・手術的治療を行います。手術の際には整容性に充分配慮した低侵襲治療を心がけています。小児科・新生児科と、外来のブース・入院の病棟を共にし、綿密でスムーズな連携を持ちながら包括的な治療を行います。



取り扱うおもな疾患

単径ヘルニア（脱腸、陰嚢水腫）、停留精巣（移動性精巣）、臍ヘルニア（でべそ）、便秘、乳児痔瘻（肛門周囲膿瘍）、包茎、副耳、皮下腫瘍、急性虫垂炎、卵巣嚢腫、リンパ管腫、胃食道逆流症、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、特発性血小板減少症（脾摘目的）、消化管の先天異常（奇形）、小児悪性固形腫瘍（神経芽腫、腎芽腫等）



おもな診断・治療法

診断法：超音波検査、上部消化管・注腸造影検査、上部・下部消化管内視鏡検査、24時間pHモニター、CT、MRI

治療法：（外科的疾患）経皮的腹腔鏡下手術から従来の開腹手術まで、各々の疾患や患児に応じて適切な手術方法を選択します。どの手術法においても創を臍や皮膚の皺（しわ）の中に隠すなど整容性に充分配慮した治療を行います。

（内科的疾患）慢性便秘などの内科的消化管疾患においては、漢方を併用した最適な治療を行います。

高度な先進医療

一見するとどこに創があるかわからない経皮的腹腔鏡下手術などの単孔式腹腔鏡下手術にも積極的に取り組んでいます。また、血液疾患などの患児に対しては、一人一人の患児に適切なカテーテルを選択し、超音波やレントゲン機器を併用した安全な血管アクセス（中心静脈アプローチ）を行っています。



経皮的腹腔鏡下虫垂切除術

診療科における研究テーマ

小児の漢方治療における効果メカニズムの解明、より安全な低侵襲手術法の開発

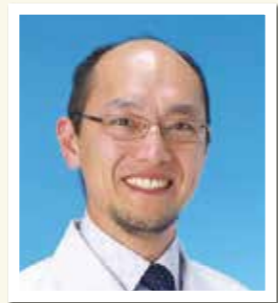
その他

小児科・新生児科と綿密でスムーズな連携を持ちつつ、外来や病棟では小学館のご厚意で装飾されたポケモンたちに囲まれながら明るい雰囲気の中で診療を行っています。

麻酔科、集中治療部にも小児を専門とするスタッフがおり、当院全体で包括的に良質な医療を提供いたします。



経皮的腹腔鏡下虫垂切除術1か月後の創部



科長

岡本 健太郎 *Kentaro Okamoto*

専門医 ● 日本小児外科学会認定 小児外科専門医
日本外科学会認定 外科専門医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医

専門分野 ● 小児先天異常、低侵襲手術、
新生児・小児外科一般

研究領域 ● 小児の漢方治療、臍を使った低侵襲手術

Message

2016年4月、『小児外科』が再開しました。

子供は大人のミニチュアではありません。サイズが小さいだけでなく、小児特有の特徴があります。手術が必要な患児に対しては、体の創が心の傷にならないように整容性にも充分に配慮した手術を心がけ、小児外科の専門医が責任を持って治療を行います。また、手術を行わずとも治療が可能な疾患に対しては、漢方治療を含めた内科的治療も行います。小児科をはじめとした関連診療科とも連携しながら、それぞれの患児やご家族に適した最適な治療を行なっていきます。

当院の主たる関連病院である土浦協同病院をはじめ、他施設とも緊密に連携を持ってより良い医療を展開していきます。

また、こども医療と一緒に盛り上げていく小児外科志望の若い力をお待ちしております。

末梢血管外科

Peripheral Vascular Surgery

● 03-5803-5675

<http://www.tmd.ac.jp/med/srg1/srg1-J.html>

様々な血管の病気に関して
安全で低侵襲の治療法を工夫し患者さんと一緒に進みます

診療科の概要

動脈硬化症が原因となる足の病気、下肢血行障害が増加しています。腹部や四肢の動脈瘤・下肢静脈瘤は、超音波・CTなどでの確に診断できます。そして、いろいろな血行再建術を通じて人生がよみがえります。歩けるようになると、いろいろなことが再びできるようになります。安全でより侵襲の少ない治療法を工夫しながら、患者さんと一緒に進みます。



取り扱うおもな疾患

大動脈瘤、頸動脈病変、動脈閉塞症、下肢静脈瘤、内シャント不全、内シャント造設術

おもな診断・治療法

バスキュラーラボを1995年より開設しており、脳と心臓以外のすべての動脈、静脈に対する検査法ができます。特に動脈硬化の診断は、痛みを伴わない検査法だけで可能です。2～3種類の無侵襲検査を受けていただくことで、現在の状態を正確に評価でき、さらに今後の治療について検討することが可能です。



大動脈瘤は、マルチスライスCTで正確な形状を評価することができ、ステントグラフトの適応を的確に判断するとともに、より適切な種類のステントグラフトを選択した上で血管内治療に繋がっています。

高度な先進医療

胸部大動脈瘤に対しては、手術死亡は極めて低く、また重篤な合併症である対麻痺（両下肢が麻痺すること）に対して、手術中に脊髄を冷却すること、適切な肋間動脈（脊髄に行く動脈）を再建する術式を確立しています。複雑な腹部大動脈瘤に対しても手術術式を確立しており、腎動脈再建や内腸骨動脈再建も含めて良好な手術成績を達成しております。

重症虚血肢に対して集学的な治療を施行できる数少ない病院のひとつです。当科では、下肢の血行再建術として、難易度の高い足首付近へのバイパス術を数多く手がけるとともに、血管内治療でも良好な成績を達成しております。他科との連携により、血管新生療法、高血圧素治療、LDLアフェレーシス、遊離筋皮弁移植術、皮膚移植術、マゴット治療など、救肢のために必要な治療を網羅しており、他の施設で大切断と言われた方でも救肢できうる環境を整備しております。



科長

井上 芳徳 *Yoshinori Inoue*

専門医 ● 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構
認定 心臓血管外科専門医
日本外科学会認定 外科専門医

専門分野 ● 血管外科
研究領域 ● 歯周病と血管疾患、重症虚血肢に対する
新規検査法と治療法の確立

専門外来 ● 下肢静脈瘤外来
シャント外来
リンパ浮腫外来

Message

「人は血管とともに老いる」と言われています。最近、心筋梗塞、脳梗塞だけでなく、足の動脈硬化が極めて危険であることがわかってきました。足の動脈硬化は血管年齢でわかりますので、65歳を過ぎたら血管年齢を調べましょう。喫煙、糖尿病があったら、50歳でも血管年齢測定を勧めます。大動脈瘤は死に至る沈黙の病気であり、CTなどで偶然に発見される病気です。血縁に大動脈瘤のある方、高血圧で喫煙歴の長い方は、50歳を過ぎたら一度はCTか超音波で腹部大動脈の太さを測定しましょう。血管の病気を治せば、人生がよみがえります。



肝胆膵外科

Hepatobiliary and Pancreatic Surgery

Dial-in

● 03-5803-5675

<http://www.tmd.ac.jp/grad/msrg/index.html>

肝がん、膵がん、胆道がんや、胆石症に対して、手術を中心に総合的な治療を行います

● 診療科の概要

肝胆膵外科は肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、の悪性腫瘍(がん)、炎症性疾患などのあらゆる疾患に関して手術、薬物療法も含めた総合的な治療を行う診療科です。高度機能を持った大学病院として切除困難な進行がんにも積極的に取り組む一方で、傷の小さな腹腔鏡手術も積極的に導入し、患者さんに優しい手術を目指しています。



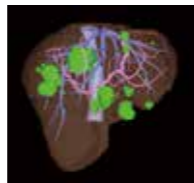
腹腔鏡下膵体尾部切除術



単孔式腹腔鏡下肝切除術

● 取り扱うおもな疾患

肝腫瘍(肝細胞がん、肝内胆管がん、転移性肝がん、等)、膵充実性腫瘍(膵がん、膵神経内分泌腫瘍、等)、膵嚢胞性腫瘍(膵粘液嚢胞性腫瘍(IPMN)など)、胆道がん(胆管がん、胆嚢がん)、胆嚢ポリープ、胆嚢・胆管の炎症性疾患、胆石症、胆管結石症、先天性胆道拡張症、急性・慢性膵炎、特発性血小板減少症(脾摘目的)、脾腫、肝硬変・肝不全



高度進行肝がんに対する術前シミュレーション

● おもな診断・治療法

診断は超音波検査、CT、MRI、胆膵内視鏡検査、PET-CTなどが中心となります。それぞれの専門性を活かして消化器内科・放射線科とも密接に協力しております。定期的に合同カンファレンスを行い、一人一人の患者さんに最も適した治療方針や手術術式を検討しています。

● 高度な先進医療

安全で精度の高い肝切除を行うために、CT画像をワークステーションで解析し、術前に手術のシミュレーションを行っています。進行がんに関して積極的に切除を行うばかりでなく、化学療法も含めた集学的治療で良好な成績を出しております。国内でもいち早く1996年に腹腔鏡下肝切除を導入、腹腔鏡下膵切除や単孔式腹腔鏡下手術(胆嚢摘出術や肝切除)にも積極的に取り組んでおります。

● 専門外来

2011年より神経内分泌腫瘍外来を開設し、現在、累積で300名以上、年間70名を超える患者さんが全国より受診されています。神経内分泌腫瘍は稀な疾患ではありますが、進行度や治療法が多岐にわたり、専門的な対応が必要とされる疾患です。当科では、総合的に神経内分泌腫瘍の診断・治療に取り組んでいます。

● 取り組み

高度進行肝胆膵悪性腫瘍に対する手術を中心とした集学的治療、膵神経内分泌腫瘍専門外来、腹腔鏡下肝切除術、腹腔鏡下膵体尾部脾切除術、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術など

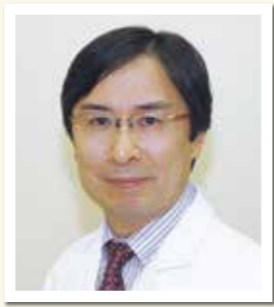
● その他

当科は年間約250例の手術を行っており、2015年の手術件数は、肝切除術96例(腹腔鏡下18例)、膵切除術73例(腹腔鏡下12例)で国内でも有数の施設です。肝胆膵領域の腫瘍は鑑別診断も多く、手術も難易度が高いのが特徴です。それに対して、どこまで根治性・安全性を確保した切除を行うかが外科として腕の見せ所です。一方で外科治療のみにこだわることなく、化学治療、放射線治療などを組み合わせた集学的治療を行うことが肝要で、当科では関連各科と密に連携した診療を行っています。

治療の選択が難しい膵神経内分泌腫瘍の患者さんも多く訪れます。肝硬変や肝不全の患者さんのために肝移植の適応評価も行っております。

● 診療科における研究テーマ

肝胆膵がんの病態の解明と診断法、治療法の開発、低侵襲外科治療や臓器移植(主に肝臓移植)



科長

田邊 稔 Minoru Tanabe

専門医 ● 日本外科学会認定 外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定
消化器外科専門医・指導医
理事 評議員
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
理事 評議員
専門分野 ● 肝胆膵外科
移植外科
低侵襲手術
研究領域 ● 肝胆膵悪性腫瘍
臓器移植
低侵襲外科治療
専門外来 ● 神経内分泌腫瘍外来

Message

手術手技や医療技術は日々進歩しており、私たちは大学病院の特長を活かして先進的な治療を提供いたします。そのためにスタッフ一同、日々研鑽をつみかさねております。また一方で、「病気をみて「患者さん」が置き去りにされることの無いよう、患者さんに優しい暖かみのある医療を心がけております。



心臓血管外科

Cardiovascular Surgery

Dial-in

● 外来 03-5803-5677 ● 夜間・休日緊急連絡先 03-5803-2231 (内線61228)

<http://www.tmd-cvs.jp>

心臓と大動脈の病気は待たなしです
リスクの高い難手術も24時間体制で速やかに対応します

● 診療科の概要

冠動脈バイパス術では、95%以上の症例に体の負担が少ないオフポンプバイパス術を施行し、99.5%以上の軽快退院率を達成しています。弁膜症手術では、人工弁を使わず自己弁を温存した弁形成術で高い実績をあげています(過去3年間の変性病変に対する僧帽弁形成術達成率100%)。最近では、複数の心臓病(狭心症や弁膜症など)や大動脈瘤が合併した複合手術や低心機能症例の手術が増加しています。また、大動脈瘤には、低侵襲なステントグラフト手術も導入しています。2014年より小児心臓手術も再開しています。



● 取り扱うおもな疾患

狭心症、心筋梗塞、弁膜症、心筋症、大動脈解離、大動脈瘤(胸部・腹部)、先天性心疾患(小児から成人まで)

● おもな診断・治療法

冠動脈バイパス術(特にオフポンプバイパス術)
弁膜症手術: 僧帽弁形成術・各種人工弁置換術・大動脈基部再建術
心不全手術: 左室形成術・補助人工心臓植込術
大動脈手術: 人工血管置換術・ステントグラフト留置術(胸部・腹部)

● 高度な先進医療

補助人工心臓: 心臓移植適応症例に対して体外式補助人工心臓を多数施行しており、更に2011年より植込型補助人工心臓の施設認定を取得しました。また、非移植認定施設として国内初の植込型補助人工心臓手術に成功しました。

● 診療科における研究テーマ

- 冠動脈バイパス術の長期遠隔予後
グラフト選択・人工心肺使用の有無による予後評価
- 心拍動下僧帽弁形成術
形成術困難な複雑病変に対する当科で独自に開発した心拍動下僧帽弁形成術の臨床評価
- 重症心不全の外科治療
左室形成術・僧帽弁形成術・補助人工心臓の臨床研究



科長

荒井 裕国 Hirokuni Arai

専門医 ● 3学会構成心臓血管外科専門医認定
機構認定 心臓血管外科専門医
日本外科学会認定 外科専門医
専門分野 ● 成人心臓大血管手術

Message

当科では、「長期遠隔予後の優れた Quality of life の高い手術」とは何かにこだわり、精度の高い最新の心臓大血管手術を、より安全かつ低侵襲に行っております。一般の病院では治療が困難な複合疾患を合併した重症例こそ、大学病院が担うべき外科医療と考え、no refusal policyで重症・緊急にかかわらず、随時手術を受け入れております。妥協なき手術と、他科とのチーム医療による徹底した周術期管理により、総合力として最高水準の外科医療を提供します。

呼吸器外科

Thoracic Surgery

Dial-in

● 03-5803-5677

http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_treat/kokyu-geka.html

肺癌を中心とする胸部悪性腫瘍の治療において、質の高い専門医療を多くの患者さんに提供します

診療科の概要

呼吸器外科は呼吸器系臓器すなわち肺・縦隔・胸壁・横隔膜の外科治療・外科的診断を取り扱う専門診療科です。早期肺癌や気胸などの良性疾患に対して胸腔鏡下の低侵襲手術を行い、早期退院・早期社会復帰を提供します。局所進行肺癌や難治性の胸部悪性腫瘍に対して、拡大手術・集学的治療を行い、生命予後・QOLの向上を提供します。

取り扱うおもな疾患

肺疾患：肺癌、転移性肺腫瘍、炎症性肺疾患、気腫性肺疾患（気胸）

縦隔疾患：縦隔腫瘍、重症筋無力症、リンパ疾患

胸膜・胸壁疾患：悪性胸膜中皮腫、胸壁腫瘍、膿胸

おもな診断・治療法

外科治療：胸腔鏡下肺切除術、胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術、肺癌手術、周囲臓器合併切除、気管支形成・肺動脈形成、胸壁手術、膿胸手術、胸膜肺全摘術、根治的胸膜摘除術

外科的診断：胸腔鏡検査（肺、胸膜）、縦隔鏡検査

高度な先進技術

局所進行肺癌（Pancoast腫瘍、N2-stageIIIA肺癌など）に対する、術前化療放射線併用療法後に肺切除術を行う集学的治療。悪性胸膜中皮腫に対する、根治的胸膜摘除および術中温熱抗癌剤灌流療法のうち抗癌剤全身投与を行う集学的治療、などが当科で行う高度な先進技術です。

診療科における研究テーマ

進行肺癌の集学的治療、肺癌の臨床病理学的研究、低侵襲手術、気管支肺血管の再建手術、悪性胸膜中皮腫に対する集学的治療

取り組み

胸部悪性腫瘍に対する可能な限りの外科治療を提供しています。他診療科と連携して最善の治療法を検討します。手術待機時間を短くするよう努めています。



科長

大久保 憲一 Kenichi Okubo

専門医 ● 日本外科学会認定
外科専門医・指導医
呼吸器外科専門医合同委員会認定
呼吸器外科専門医・指導医

専門分野 ● 呼吸器外科学
胸部悪性腫瘍

研究領域 ● 肺癌外科治療
低侵襲手術
集学的治療

Message

肺癌はわが国全癌死亡のうち最大数です。手術患者さんの年齢は高齢化し、75歳以上が25%、80歳以上が10%を占めています。一方、肺癌手術は内視鏡下に行われ、低侵襲で痛みも少なく早期退院できるようになりました。高齢のため術前に不安を抱く患者さんも、手術後、思いのほか早く回復され、笑顔で退院されるケースを多く見ることができ（病棟スタッフの声）。



泌尿器科

Urology

Dial-in

● 03-5803-5680

http://www.tmd.ac.jp/med/uro/index.htm

最小の傷と痛み、最大限の機能温存と早期退院を図り、最先端の優れた診療を提供します

診療科の概要

世界トップレベルの治療を行うとともに、患者さんと社会に貢献する新治療法の開発、実践に努め、国内外への普及を進めています。具体的には、泌尿器がんのガスレス・シングルポート・ロボサージョン手術、浸潤性膀胱がんの膀胱温存、腎がんの無阻血・無縫合腎部分切除、前立腺がんの部分治療など、オリジナルな治療法の開発と洗練を進めています。

取り扱うおもな疾患

前立腺がん、腎がん、膀胱がん、腎盂・尿管がん、副腎腫瘍、精巣がん、後腹膜腫瘍、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿路結石、尿路感染、尿失禁、骨盤臓器脱

おもな診断・治療法

前立腺がん：ミニマム創口ロボサージョン前立腺全摘除、MRI-超音波融合ガイド下前立腺生検、全機能温存部分治療

腎がん：ミニマム創口ロボサージョン無阻血腎部分切除、新開発抗がん治療（ICCA療法）

膀胱がん：浸潤性膀胱がんの膀胱温存（放射線＋化学療法＋ハイブリッド・ミニマム創口ロボサージョン膀胱部分切除）。ミニマム創口ロボサージョン膀胱全摘除

高度な先進医療

全ての泌尿器がんおよび副腎腫瘍を対象として、ミニマム創口ロボサージョン手術（CO₂ガス不使用、単一孔、3Dヘッドマウントディスプレイ、内視鏡把持ロボットなどロボット技術の導入）を開発し施行しています。浸潤性膀胱がんの膀胱温存、腎がんの無阻血腎部分切除を開発し、いずれもロボサージョン手術で施行。前立腺の新規部分治療を開発施行

診療科における研究テーマ

患者と社会に貢献する低侵襲治療法の開発

浸潤性膀胱がんの膀胱温存療法の開発

前立腺がんの全機能温存法の開発

腎がん治療における至適腎機能温存療法の開発

予防的抗菌薬不使用の確立（病棟内耐性菌の除去）

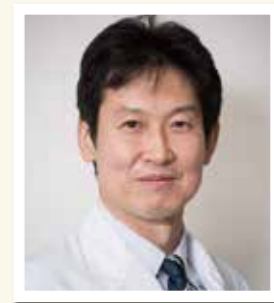
泌尿器がんの新規予後予測法の確立（新ノモグラム作成、新バイオマーカー探究など）

取り組み

超高齢社会、超高額医療に対応する新治療法の開発を進めています。既存のロボット支援手術が抱える課題（高コスト、CO₂ガス使用、触覚の欠如など）を克服すべく、国産技術を用いた、より良い低侵襲手術の開発に努めています。また、泌尿器がんに対する、新規・高グレードの臓器温存療法の開発に注力しています。

その他

急増している泌尿器がんに力を入れており、最小の傷と痛み、最大限の機能温存（腎機能、膀胱機能、前立腺機能）、早期退院を図り、病棟での耐性菌を抑制する環境を作っています。



科長

藤井 靖久 Yasuhisa Fujii

専門医 ● 日本泌尿器科学会認定 泌尿器科専門医

専門分野 ● 泌尿器がん、泌尿器内分泌学

研究領域 ● 腎腫瘍の鑑別診断モデルの開発、腎癌手術後の腎機能変化および高血圧発症メカニズム、腎癌全身治療の開発、筋層非浸潤膀胱癌の再発・進展予測モデルの開発、合併症の少ない前立腺癌手術の開発、前立腺癌全身治療の開発

専門外来 ● コンチネンスケア外来（尿路ストーマ）

Message

当科では、前立腺、腎臓、膀胱、副腎、腎盂・尿管、精巣、尿道などの疾患を主な対象として、患者さんごとに全スタッフの力を合わせて最適な治療法を選択しています。呼吸・循環障害など合併症を持つ患者さんに対しては、関連する他科との緊密な連携のもとに診療にあたっています。患者さんの十分な納得のもとに、最先端の優れた診療を行うよう努めています。



欧州泌尿器科学会での授賞式

頭頸部外科

Head and Neck Surgery

Dial-in

● 03-5803-5682 (耳鼻咽喉科、頭頸部外科外来)

<http://tmd-otohns.jp/>

耳鼻咽喉科、脳神経外科、形成・美容外科、放射線科等と協力し、一人一人の患者さんの希望に沿うような治療をすることを心掛けています

診療科の概要

頭頸部外科は、耳鼻咽喉科のみならず、放射線診断科、放射線治療科、形成・美容外科、脳神経外科、食道外科、血管内治療科など多くの診療科と横断的な診療体制をしています。

取り扱うおもな疾患

口腔癌(舌癌など)、咽頭癌(上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌)、喉頭癌、鼻副鼻腔癌(上顎洞癌など)、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、甲状腺・副甲状腺腫瘍、聴器癌、頭蓋底腫瘍、副咽頭間隙腫瘍、頸動脈小体腫瘍など頭頸部の良性・悪性腫瘍を扱っています。

おもな診断・治療法

おもな診断法: NBIなどの特殊内視鏡検査、超音波検査、CT、MRI、PET/CT、細胞診、組織診など。
おもな治療法: 頭頸部進行癌に対する拡大手術、化学放射線治療、超選択動注療法。咽喉頭表在癌に対する内視鏡手術。頭蓋底腫瘍に対する頭蓋底手術など。

高度な先進医療

難易度の高い頭蓋底腫瘍の手術治療を耳鼻咽喉科、脳神経外科、形成・美容外科と共同で行っています。

小児頭頸部悪性腫瘍手術の豊富な経験を持ちます。

咽喉頭癌では化学放射線治療や経口腔的切除等の低侵襲手術を行い、積極的に機能温存を図っています。特に表在癌に対する内視鏡的手術では先進的な技術を有しています。

診療科における研究テーマ

1. 低侵襲治療、機能温存治療
2. 頸部郭清術
3. 頭蓋底悪性腫瘍

その他

放射線診断科、放射線治療科、形成・美容外科、脳神経外科、食道外科などと協力して、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センターを開設しています。P11も参照して下さい。



科長

朝蔭 孝宏 Takahiro Asakage

専門医 ● 日本耳鼻咽喉科学会認定
耳鼻咽喉科専門医
日本気管食道学会認定
気管食道科専門医

専門分野 ● 頭頸部外科

研究領域 ● 低侵襲治療
機能温存治療
頸部郭清術
頭蓋底悪性腫瘍

専門外来 ● 頭頸部腫瘍外来

Message

頭頸部とは鎖骨から上の領域をいいますが、脳と目は含まれません。この領域にできた腫瘍を頭頸部腫瘍と言います。その治療を担当するのが頭頸部外科です。私たちは、より治療効果を高めかつ後遺症を少なくするために、他の診療科と密に協力し合い、手術のみでなく放射線治療や化学療法などを組み合わせて、それぞれの患者さんに最も適切な治療を行っています。



病理診断科(病理部)

Diagnostic Pathology

Dial-in

● 03-5803-5661

<http://www.tmd.ac.jp/med/path/index.html>

顕微鏡観察に最新の解析技術を導入し、正確で客観的な病理診断に努めています

診療科の概要

スタッフ

教授2、准教授1(専任1)、講師2、助教9(専任3)、医員1、後期研修医(大学院生)6、臨床検査技師11、(その内、病理専門医16、細胞診専門医2、細胞検査士6)

カンファレンス

剖検例カンファレンス50件/年 他に乳腺、皮膚、婦人科、脳外科、呼吸器、腎生検のカンファレンスを定期的に開催しています。

おもな診断・治療法

診断件数 病理組織10,567件/年(生検検体7,715件、手術検体2,852件、術中迅速診断730件)、細胞診9,974件/年、病理解剖57件/年、免疫染色2,000件/年、電子顕微鏡診断70件/年

高度な先進技術

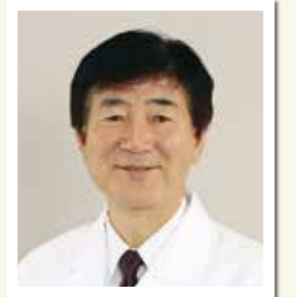
250種類の抗体を用いた免疫染色で診断の精度を高めています。病原体を中心に、モノクローナル抗体を新規に作製し、感染性疾患の診断に応用しています。脳腫瘍の1p/19q欠失、軟部腫瘍の転座遺伝子SSX、JAZF1など外注の行えないFISH診断も年間10件程度実施しています。すべての検体を病理専門医と教授・准教授のダブルチェック体制で診断し、精度管理を厳密に行っています。

取り組み

医学部附属病院、歯学部附属病院の連携強化による医療体制の充実・高度化が本学の目標の一つです。病理部門では2015年4月から歯学部病理診断部門と業務の一部を共同で行う体制が構築され、医歯一体となって病理診断の精度と効率の向上に努めています。

その他

電子顕微鏡が人体病理学教室保有の最新機種(日立 HT7700)に更新され、2014年1月から本格的に稼働が始まりました。写真撮影がデジタル化されたため、観察までの時間と労力が大幅に短縮・軽減されました。腎生検を中心に患者さんの病理診断に大きく活躍しています。



科長

江石 義信 Yoshinobu Eishi

専門医 ● 日本病理学会認定 病理専門医

専門分野 ● 人体病理学

研究領域 ● 呼吸器、消化管の慢性炎症性疾患
腫瘍性疾患の診断・病態病理学

Message

病理部では患者さんの病気になる臓器を顕微鏡で観察し、腫瘍を中心とした様々な疾患を診断しています。腫瘍の悪性度や組織型の診断、進行度の詳細な評価に加えて、分子標的薬に代表される薬物治療においても個々の患者さんに最も適切な選択を考慮する際に病理組織学的な評価が必須となってきました。このような時代の新しい要求に対しても適切にお応えできるよう、病理部では人体病理学分野、包括病理学分野と協力して各臓器の高度な専門性に対応した診療を行っています。



眼科

Ophthalmology

Dial-in

● 03-5803-5681

http://tmdu-ganka.jp

様々な眼科疾患に対し最新の検査法を用いて
精密な診断を行い、的確な治療で対処します

● 診療科の概要

最新の検査法を用いて、視機能および分子生物学的検査によって精密な診断を行い、的確な治療で対処しています。主に強度近視、難治性ぶどう膜炎、視神経疾患、白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症などの疾患を対象としています。

● 取り扱うおもな疾患

網膜硝子体疾患、強度近視、難治性ぶどう膜炎、視神経疾患、白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性

● おもな診断・治療法

強度近視の脈絡膜新生血管に対する抗VEGF療法、強度近視の黄斑分離症・黄斑円孔網膜剥離に対する硝子体手術、高侵達OCTを用いた強度近視の網膜、視神経の3次元画像診断、感染性ぶどう膜炎の網羅的迅速診断PCRシステム、ペーチェット病のインフリキシマブ治療、眼内リンパ腫を対象としたメトレキサート硝子体内注射療法

● 高度な先進医療

高侵達OCTを用いた強度近視の網膜、視神経の3次元画像診断、多焦点眼内レンズ、屈折矯正のための有水晶体レンズ移植、眼炎症性疾患の眼内液・眼内組織を用いた網羅的迅速PCR診断システムを用いた診断、ペーチェット病のインフリキシマブ治療

● 診療科における研究テーマ

加齢黄斑変性における新規血管新生メカニズムの解明、実験近視モデルを用いた近視進行メカニズムの解明、強度近視の原因遺伝子解析、自己免疫性ぶどう膜炎、感染性ぶどう膜炎の病態と発症機構の解明

● その他

当科では一般外来に加え、強度近視、ぶどう膜炎、神経眼科、網膜硝子体疾患、黄斑疾患、斜視、緑内障、白内障、屈折矯正手術などの専門外来があり、安全で高度な先進医療を提供しています。



科長

大野 京子 Kyoko Ohno-Matsui

● 専門医 ● 日本眼科学会認定 眼科専門医

● 専門分野 ● 網膜・視神経疾患

強度近視

● 研究領域 ● 眼内血管新生メカニズム解明、
実験近視研究、強膜再生

● 専門外来 ● 黄斑外来

眼底腫瘍外来

強度近視外来

斜視弱視外来

小児近視外来

神経眼科外来

糖尿病網膜症外来

白内障・屈折外来

ぶどう膜炎外来

網膜外来

緑内障外来

Message

眼は外部からの情報の80%を取り入れている重要な感覚器です。その健全な視覚を侵す多くの眼疾患の診断と治療は私達の社会生活にとって大変に重要です。当科では最新の診断法と治療法を取り入れて、様々な眼科疾患（結膜、角膜、白内障などの前眼部疾患、ぶどう膜炎、網膜剥離、糖尿病網膜症、網膜出血、加齢黄斑変性などの眼底疾患、緑内障、神経疾患など）に対して、眼科専門医による高度で安全な診療を提供しています。



耳鼻咽喉科

Otorhinolaryngology

Dial-in

● 03-5803-5682 (耳鼻咽喉科、頭頸部外科外来)

http://tmd-otohns.jp

耳・鼻・咽喉頭領域の高度先進医療を行い、
特に難聴・めまいに関して革新的な専門的診療を実施します

● 診療科の概要

耳鼻咽喉科領域の耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭に関わる疾病に最新の医療で対応しています。外来での診療と入院・手術治療は、原則として同じ医療チームの医療者が担当します。外来での診療は頭頸部外科と連携して行っており、午前中はすべての疾患を対象とする一般診療、午後は専門外来として、アレルギー・副鼻腔外来、めまい外来、中耳炎外来、頭頸部腫瘍外来、嚥下外来、難聴・耳鳴・補聴器、顔面神経外来が開設され、それぞれの疾患の専門的診療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

聴覚障害、耳鳴、めまい・平衡障害、真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎、耳硬化症、花粉症を含むアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、扁桃の病巣感染、声帯ポリープ、甲状腺疾患、唾液腺疾患、嚥下障害、睡眠時無呼吸症候群

● おもな診断・治療法

内視鏡を導入した低侵襲の中耳炎手術、めまいに対する保存的ならびに手術的治療、聴器癌に対する手術的治療、難聴症例の難聴遺伝子解析、突発性難聴に高気圧酸素治療、耳鳴にTRT療法、良性発作性頭めまい症に頭位治療、高度感音難聴に対する人工内耳埋込、通常の気導補聴器で補聴効果が得られない症例には骨固定型補聴器、頭蓋底まで含む高難度・低侵襲の内視鏡下副鼻腔手術、アレルギー性鼻炎にレーザー治療、睡眠時無呼吸症候群に対する快眠センターと連携した治療、嚥下障害に対する内視鏡・造影検査と保存的ならびに手術的治療、新生児・小児の気道手術と管理、嚔声に対する音声外科手術

● 高度な先進医療

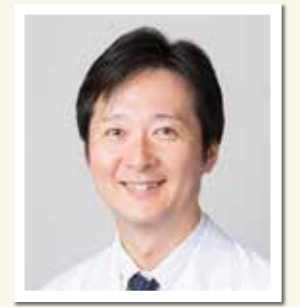
両側の外耳道が未発達あるいは低形成の例、鼓室形成術等の手術で聴力の改善がみられない両側難聴例、耳漏が持続しているため通常の補聴器装用が困難な例を対象に、骨固定型補聴器による聴覚回復を日本で初めて施行し、症例数も我が国では最多了。

● 診療科における研究テーマ

平衡障害の臨床診断・治療の研究と眼球運動解析、重力認知・姿勢制御の研究、遺伝子解析による難聴の病態解析、発生・進化から見た耳疾患の発症病態の解明、実験動物モデルを用いた内耳障害の解析などを行っています。また、放射線診断科と共同でCTの特殊画像処理による耳科疾患の診断精度向上の研究など、他領域との共同研究も積極的に行っています。

● その他

中耳・内耳障害による難聴の遺伝子診断から、治療としては人工中耳・内耳埋込みによる聴覚回復までと、内耳のみならず中枢病変も含む平衡障害の診断と治療で、感覚器障害のトータルケアを行っています。



科長

堤 剛 Takeshi Tsutsumi

● 専門医 ● 日本耳鼻咽喉科学会認定

耳鼻咽喉科専門医

● 専門分野 ● 耳鼻咽喉科学

● 研究領域 ● 耳鼻咽喉科一般

めまい平衡医学

耳科手術・鼻科内視鏡手術

人工内耳

● 専門外来 ● アレルギー外来

嚥下外来

顔面神経外来

言語発達外来

中耳炎外来

頭頸部腫瘍外来

難聴外来

補聴器外来

耳鳴り外来

めまい外来

副鼻腔外来

Message

1944年の耳鼻咽喉科の開業以来、5代目の教授を拝命いたしました。これまでの伝統を引き継ぎ耳・鼻・咽喉頭領域の疾患の高度先進医療を担当し、特に難聴・めまいについて革新的な専門的診療を実施しています。さらに、現代に要求される新たな領域・技術も柔軟に取り入れた診療が特徴です。また、頭頸部外科や脳神経外科と共同で、聴器癌の手術加療や副鼻腔腫瘍の内視鏡を用いた頭蓋底手術なども行っています。

皮膚科

Dermatology

Dial-in

● 03-5803-5679

<http://www.tmd.ac.jp/med/derm/index.html>

皮膚の微細な変化を精密に検査し、
早期診断・早期治療で対処し、成果を上げています
病態に基づいた新規治療法も開発しています

診療科の概要

皮膚の微細な変化を精密に検査し的確な診療をしています。皮膚に現れる変化から生体全体的な変化を把握して、早期診断・早期治療で対処して成果を上げています。また、アトピー性皮膚炎や膠原病、乾癬、多汗症、フットケア、腫瘍などの専門外来を設けて最新の医療が外来でも行える体制を整えています。

取り扱うおもな疾患

アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、痒疹、全身性強皮症、膠原病、乾癬、多汗症、無汗症、皮膚腫瘍、皮膚循環障害、皮膚血管炎、水疱症、角化症、白斑、薬疹、皮膚感染症、皮膚リンパ腫、脱毛症、ざそう(にきび)

おもな診断・治療法

皮膚病理検査、超音波検査、テルモスコピー、真菌検査、薬物アレルギー、食物アレルギーにも積極的に取り組み皮膚アレルギー検査、誘発試験を用いて原因を究明しています。また、発汗異常症の診断・検査のためヨードデンプン法などで発汗量の測定も行っています。

高度な先進医療

研究面ではアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、痒疹などの皮膚アレルギー、膠原病など難治性疾患の遺伝子療法の臨床応用などを行っていきたく思います。すでにSTAT6 decoy軟膏は開発され臨床研究段階であり、アトピー性皮膚炎の専門外来で重症の患者さんに試み、非常に良い成績をあげています。また、原発性局所多汗症のボツリヌス毒素療法も行っています。乾癬には生物学製剤療法、NB UVBなどの紫外線療法を行っています。尋常性白斑、痒疹にはエキシマランプ療法をしています。

診療科における研究テーマ

接触アレルギーの病態解析に関してモデルマウスを用いて研究を行っています。特に接触アレルギー反応におけるTh2の役割の解析、難治性疾患であるアトピー性皮膚炎・強皮症・筋炎・痒疹の病態をモデルマウスを用いて解析、腫瘍免疫・フットケア・真菌症・白斑なども解析、発汗異常症(多汗症、無汗症)の病態解析、iPS細胞を用いたアトピー性皮膚炎の角層バリア機能の解析、汗腺の免疫機能解析、OCTを用いた汗管の三次元的解析。



腫瘍外来



乾癬外来



アレルギー外来



発汗異常外来



科長

横関 博雄 Hiroo Yokozeki

- 専門医 ● 日本皮膚科学会認定
皮膚科専門医
日本アレルギー学会認定
アレルギー専門医
- 専門分野 ● 免疫アレルギー
膠原病
発汗異常症
- 研究領域 ● 皮膚免疫学/免疫腫瘍学/遺伝子療法/ iPS細胞/再生医学
- 専門外来 ● アレルギー外来
乾癬外来
膠原病外来
腫瘍外来
循環障害外来
真菌外来
食物アレルギー外来
白斑・脱毛外来
発汗異常外来
フットケア外来

Message

2005年に皮膚科主任教授に就任した横関博雄と申します。皮膚科では一般診療とともに最先端の治療ができる専門外来を充実させることを最重要課題としています。現在は皮膚アレルギー専門外来、乾癬外来、膠原病外来、発汗異常外来、循環障害外来、スキンケア外来、フットケア外来、白斑・脱毛外来、腫瘍外来などを始めて最先端治療を目指しています。



皮膚科では毎週フットケア外来を行っています。その治療の一環として「歩行教室」を開催しています。外反母趾や巻き爪、胼胝や鶏眼で通院中の患者様を対象としています。講師には健康指導士として各方面でご活躍の先生をお招きしています。教室では日常諸動作から改善させることを目的とした指導を行っており、患者様から好評をいただいています。

形成・美容外科

Plastic and Reconstructive Surgery

Dial-in

● 03-5803-5924

<http://www.tmd.ac.jp/med/plas/plas-J.html>

先天性、後天性のさまざまな形体異常・機能障害に対し、
整容面を配慮し、患者さんの病態と希望に合った
オーダーメイドの治療を行っています

診療科の概要

先天性、後天性のさまざまな形体異常・機能障害に対し、整容面を配慮した治療を行っています。具体的には顔面・手足・体幹などの外傷・先天異常の再建、頭頸部がん・乳がんなどがん切除後の形態・機能の再建、眼瞼下垂・顔面神経麻痺などの形成術を行います。また創傷治癒の専門家として、治りにくい創傷の治療や傷跡・瘢痕の管理・修正術も行います。



取り扱うおもな疾患

頭頸部がん切除後欠損、及び再建後の残存変形・機能障害(顔面神経麻痺を含む)
乳がん切除後の乳房欠損・変形、女性化乳房
糖尿病性潰瘍、褥創、膠原病性潰瘍、その他の難治性潰瘍、リンパ浮腫
顔面・手足の先天異常及び外傷(眼瞼下垂、眼瞼痙攣を含む)

おもな診断・治療法

マイクロサージャリーを用いた自家遊離組織移植術、微小血管・神経吻合術
顔面骨、手指骨に対する骨切り・骨延長
あざやしみに対するレーザー治療(Q-switch-Ruby、V-beam、Gentle LASE)
CT、MRI、ICG 造影法などの画像検査、筋電図などの生理検査

高度な先進医療

- 顔面神経麻痺(不全麻痺を含む)に対する動的・静的再建、薬剤を組み合わせた形成術
- 頭蓋底手術、頭頸部腫瘍摘出後欠損の再建及び残存変形・機能障害に対する修正・再建(皮膚、脂肪、筋肉、骨、軟骨の複合移植)(症例数は国内トップクラス)
- 整容的乳房再建(患者さんの希望により、一次的再建or二次再建、自家組織orインプラント、乳輪乳頭再建の有無の選択可能)
- 糖尿病性足壊疽に対する集学的治療法を用いた患肢温存療法
- 切趾指趾に対する再接着術

診療科における研究テーマ

ICG 蛍光測定法を用いた移植組織血流やリンパ流の評価
顔面神経麻痺、顔面・頭頸部がん切除後の、機能と整容を重視した再建法の開発
局所皮弁と医療用刺青を用いた、形状・色再現性の良好な乳輪乳頭再建法の開発
皮膚の老化・色素沈着の機序の解明と創傷治癒過程の改善への応用

その他

同じ診断名をもつ患者さんでも、機能・形態異常の状態や程度や原因は異なり、たとえ同じ病態であっても、患者さんにより希望する治療は異なります。当科では、患者さんと話し合いながら、希望に沿った質の高い医療を提供するように心掛けています。このような診療姿勢の中で、当科では、陳旧性顔面神経麻痺に対して複数の遊離広背筋移植と複数神経縫合を用いて、複数の機能を同時に再建する術式を開発し、世界初の試みとして英文雑誌にも報告しました(2015年 JPRAS)。



科長

岡崎 睦 Mutsumi Okazaki

- 専門医 ● 日本形成外科学会認定
形成外科専門医
- 専門分野 ● 顔面神経麻痺の静的・動的再建
陳旧性顔面変形の再建及び形成術
マイクロサージャリー
- 研究領域 ● 顔面の機能的再建
老化の機序、創傷治癒
- 専門外来 ● 顔面神経麻痺外来
顔面変形外来
耳介変形外来
上下顎変形外来
女性化乳房外来
唇顎口蓋裂外来
手の外科外来
頭頸部再建外来
難治性潰瘍・褥創外来
乳房再建外来
ポトックス外来
リンパ浮腫外来
レーザー外来(あざ・しみ・血管腫)

Message

形成・美容外科は、形態・機能の外科的形成・再建を担当する診療科です。顔面・頭頸部、手足、乳房など、人目につく部位や美しさを求められる部位を扱うことが多いため、外見にも配慮した繊細な手術を行います。当科では、「多くの患者さんが満足する平均点の高い治療」ではなく、「患者さんの病態と希望に合ったオーダーメイドの治療」を提供すること念頭において診療を行っています。



整形外科

Orthopaedic Surgery

Dial-in

● 03-5803-5678

http://tmdu-orth.jp

難治性の運動器疾患やスポーツ障害に対し、
早期の社会復帰と安全性の高い医療を提供します

診療科の概要

脊椎・脊髄、膝・スポーツ、股関節、肩関節、手外科、骨軟部腫瘍による専門班診療を行っており、整形外科全域にわたって最先端の医療を提供しています。特に、脊髄機能モニタリングを利用した安全性の高い頸椎手術と、膝軟骨損傷に対する滑膜幹細胞移植による再生医療が特徴です。人工膝・股関節手術も多く、両側同時置換でも1ヶ月以内の退院が可能です。

取り扱うおもな疾患

脊柱靭帯骨化症、脊柱管狭窄症、脊柱変形、椎間板ヘルニア、骨粗鬆症、変形性膝関節症、膝靭帯損傷、変形性股関節症、手指の外傷及び変性・炎症性疾患、絞扼性末梢神経障害、肩腱板断裂、骨・軟部腫瘍、転移性骨腫瘍、四肢・骨盤骨折、脊椎骨折、小児先天性・発育性疾患など。

おもな診断・治療法

診断法：脊髄機能モニタリング・脊髄磁界測定・腰背筋電図、全身骨量測定器 (DXA)、手術室内CT

治療法：滑膜幹細胞移植による軟骨再生、膝・肩・股関節内視鏡手術、両側人工膝・股関節置換術、骨軟部腫瘍患肢温存手術

高度な先進医療

神経難病先端治療センターの一員として、靭帯骨化症や脊柱管狭窄症に対する外科手術を担当し、膠原病・リウマチ先端治療センターの一員として人工関節置換術等の外科手術を行っています。また、膝関節軟骨・半月板損傷に対する自家滑膜幹細胞移植治療を全国に先駆け実施しています。

診療科における研究テーマ

脊髄誘発磁界測定装置の開発、柔らかい人工骨の開発、骨軟骨変性のメカニズムの解明とその制御、滑膜幹細胞移植による膝軟骨再生、靭帯損傷メカニズムの解明、新しい人工関節の開発、脊髄・末梢神経の再生、膝・肩・肘関節の臨床解剖

その他

当科の脊椎手術件数は年間約300件と全国の大学病院では屈指で、脊髄機能モニタリングにより頸椎・胸椎手術では手術による重篤な麻痺は発生していません。膝前十字靭帯損傷に対して2重束再建術を関節鏡視下で行う術式は世界に先駆け1994年から施行しており、年間約100例行っており、変形性股関節症や大腿骨頭壊死症等に対する人工股関節置換術の手術件数は関東でも有数で(年間約180関節)、そのうち両側同時置換術が約30%です。重症の絞扼性末梢神経障害に対する機能再建術、肩・肘・手関節鏡を用いた低侵襲手術治療等も積極的に行っています。



科長

大川 淳 Atsushi Okawa

- 専門医 ● 日本整形外科学会認定 整形外科専門医
- 専門分野 ● 脊椎・脊髄病
- 研究領域 ● 脊椎・脊髄病 医療安全 医学教育
- 専門外来 ● 脊椎外来 膝関節外来 股関節外来 上肢外来 腫瘍外来 リハビリテーション外来 小児整形外来

Message

当科では、難治性の疾患や要求度の高いスポーツ障害に対して、正しい診断と的確な適応のもとで、早期社会復帰と安全性の高い医療を提供することを目指しています。特に、大学病院では、難病患者・高齢者のみならず、重篤な併発症を有する患者さんに対しても、他の診療科と協力し治療を進めることが可能ですのでご相談ください。



小児科

Pediatrics

Dial-in

● 03-5803-5674

http://www.tmd.ac.jp/med/ped/index.html

お子さんたちを成長・発育の面から全人的に支援します
あたたかく良質な医療を提供します

診療科の概要

小児科全般の疾患に対応すると共に、血液・腫瘍・免疫・感染症、アレルギー、循環器、神経、内分泌・代謝、腎臓、膠原病、新生児などの専門領域において先端的な診療に取り組んでいます。お子さんたちを成長・発育の面からも全人的に支援しつつ、成人になってからの生活にも思いを馳せ、お子さんに寄り添った診療を提供しています。

取り扱うおもな疾患

白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血、出血性疾患、原発性免疫不全症、難治性感染症、肺高血圧症、先天性心疾患、不整脈、性分化疾患、先天性副腎過形成、小児糖尿病、低身長、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、急性慢性腎不全、小児膠原病・リウマチ性疾患、てんかん、色素性乾皮症、神経変性疾患、早産児、病的新生児

おもな診断・治療法

原発性免疫不全症、小児血液・腫瘍の診断と先端治療、肺高血圧症の診療と標的薬を用いた治療、先天性心疾患に対する周術期管理、各種内分泌疾患の診断と治療、小児腎疾患の診断と治療、小児リウマチ性疾患の診断と治療、発作時脳波・ビデオ脳波を駆使した最適な抗痙攣薬の選択、早産児管理

高度な先進医療

原発性免疫不全症の遺伝子診断と臍帯血移植、血液腫瘍に対する分子診断と造血細胞移植、高感度網羅的微生物検査、糖尿病に対するインスリンポンプ治療、血液浄化療法、てんかんの24時間モニタリングと脳外科と連携したてんかん外科手術

診療科における研究テーマ

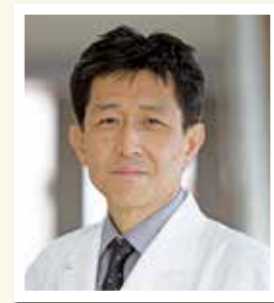
原発性免疫不全症の責任遺伝子解明と治療法開発、DNA損傷応答を基盤とした腫瘍化の病態解明と治療法開発、再生医療応用を目指した小児難病の解析と基盤技術開発、性分化疾患の分子病態解明、肺高血圧症の病態解明、糸球体硬化症の病態解明と治療法開発、間葉系幹細胞を用いた周産期神経合併症の治療

取り組み

本邦最多の原発性免疫不全症患者の診療にあたっています。血液免疫疾患には3床の無菌室にて造血細胞移植を行っています。膠原病や感染症の先端的診断治療にも力を入れており、毛細血管拡張性小脳失調症には統合的なケアを行っています。先天性副腎過形成や肺高血圧症など難病の診断治療の中心施設となっています。

その他

入院中の子どもたちをサポートするため、チャイルドライフスペシャリストが院内で活動しています。市民や学生によるボランティア活動も多岐に亘り、また盛んに行われており、入院するお子さんや親御さんを支援しています。外来においても育児支援「すくすく」を開設しています。



科長

森尾 友宏 Tomohiro Morio

- 専門医 ● 日本小児科学会認定 小児科専門医 日本血液学会認定 血液専門医
- 専門分野 ● 小児感染症 血液・免疫疾患 再生医療・細胞治療
- 研究領域 ● 小児難病(特に原発性免疫不全症などの希少難病)の遺伝的背景と病態解明 小児難病に対する先端的治療法の開発
- 専門外来 ● アレルギー外来 育児支援外来(すくすく外来) 血液外来 CSS長期フォローアップ外来 腫瘍外来 循環器外来 小児遺伝外来 小児リウマチ先進治療外来 神経外来 新生児フォローアップ外来 腎臓外来 造血細胞移植外来 内分泌外来 乳児健診外来 免疫外来 予防接種外来

Message

東京医科歯科大学医学部附属病院小児科では、「最高レベルの一般診療と最先端の専門医療」を目指しています。幅広い一般診療を提供すると共に、特に医療の助け、医療の進歩、社会的支援が必要な難病を抱える患者さんに対して、最善の医療を提供し、よりよい医療の開発を目指します。成人に至るまでの大切な成長時期をあずかる診療科として、温かくまた良質な医療を心掛けたいと思っています。



新生児集中治療室 (NICU: Neonatal ICU)

Neonatal Intensive Care Unit

Dial-in

● 03-5803-5396

<http://www.tmd.ac.jp/med/ped/patient/nicu/index.html>

早産児や病的な新生児、合併症をもつ母体より出生した児の受け入れを通して、地域の周産期医療に貢献します

● 室の概要

NICUは、早産児や先天性の病気をもって生まれた赤ちゃん、呼吸障害や出生時仮死などで出生後すぐに具合が悪くなった赤ちゃんの集中治療を行う治療室です。当院NICUは、病床数は6床で小児科病棟内にあります。状態が改善し、集中治療の必要がなくなった児は、GCU6床で退院までのgrowing careを行います。

● 取り扱うおもな疾患

在胎28週、出生体重1,000g以上の早産・低出生体重児、新生児呼吸障害、先天性心疾患、出生時仮死などの病的な新生児を対象としています。

● おもな診断・治療法

診断：アンバウンドビリルビン測定による新生児黄疸の診断、広角眼底カメラによる未熟児網膜症の診断、超音波診断装置や気管支鏡など各種画像検査

治療法：nasal CPAP、人工呼吸器管理、一酸化窒素吸入療法、低酸素療法、交換輸血、低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法、腹膜透析などの集中治療

● 高度な先進医療

脳機能モニターを用いた低体温療法や一酸化窒素吸入療法、低酸素療法などの先進医療を、小児科各分野専門医師や関連他科の医師と連携して、専門的なアプローチにより行います。



室長
滝 敦子 Atsuko Taki

専門医 ● 日本小児科学会認定 小児科専門医
日本周産期・新生児医学会認定 新生児専門医
専門分野 ● 新生児学全般
研究領域 ● 新生児再生医療（間葉系幹細胞を用いた脳室周囲白質軟化症の治療法開発）

Message

当院NICUは病床数6床と規模は小さいですが、周産・女性診療科とともに東京都周産期医療ネットワークの一員として、新生児の受入れと母体合併症への迅速な対応により地域の周産期医療に貢献しています。NICUに入院した赤ちゃんのご家族に、よりよい新生児医療を提供できるよう、スタッフ一同力を尽くします。



周産・女性診療科

Perinatal and Women's Medicine

Dial-in

● 03-5803-5684

<http://www.tmd.ac.jp/med/gyne/index.html>

生殖・周産期医療、婦人科腫瘍の治療、中高年女性医療など、女性の一生を通じての病的現象とヘルスケアに対処します

● 診療科の概要

女性の一生を通じての生理的・病的な現象に対処しています。ハイリスク妊娠・分娩の管理、婦人科腫瘍の手術・化学・放射線療法、腹腔鏡下手術療法、難治性不妊に対する生殖補助医療、更年期女性に対する総合的診療などに良好な治療成績を得ています。

● 取り扱うおもな疾患

合併症妊娠・分娩、ハイリスク妊娠・分娩、婦人科悪性・良性腫瘍、難治性不妊（一般不妊治療、体外受精・胚移植・顕微授精）、がん・生殖医療（未受精卵凍結、卵巣組織凍結、精子凍結）、不育症、更年期障害など。

● おもな診断・治療法

胎児超音波診断と周産期医療、婦人科画像診断や婦人科病理診断と婦人科手術療法・化学療法、ホルモン検査・画像検査・腹腔鏡検査による不妊症診断と生殖補助医療、健康栄養アセスメント・血液検査・骨量測定による更年期障害の診断とホルモン補充療法・漢方療法など。

● 高度な先進医療

周産期専門外来での超音波検査による胎児診断、NICU・GCUを利用し、かつ総合病院の特性を生かした合併症妊娠やハイリスク妊娠・分娩の管理、婦人科悪性腫瘍の術後化学療法、高レベルの腹腔鏡下手術、IVF-ET・顕微授精などの生殖補助医療、専門学会認定医による更年期・老年期女性医療など。

● 診療科における研究テーマ

第1妊娠三半期における子宮下節の開大と早産の関連に関する前方視的検討／一絨毛膜二羊膜双胎における双胎間輸血症候群およびselective IUGRの発症予測／アミノ酸要求性を基にした卵巣癌個別化治療の探索／HBOCに対するRRSOとサーベイランス、卵巣腫瘍に対するPET-CTを用いた予後解析／着床前胚における遺伝子発現の網羅的解析／CRISPR/Cas9を用いたY染色体遺伝子改変マウスの解析／ステロイド代謝異常症例の内分泌学的および遺伝学的解析／体外受精に用いる培養液の最適化の検討／更年期障害治療薬内服による血管機能制御の検討／ミドルエイジ女性の牛乳の摂取量と体組成に関する検討

● その他

女性の生涯を通じたヘルスケア、QOLの維持・向上を目的として、周産・女性診療科では、日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医による診療に加えて管理栄養士による食事・生活指導も提供しています。また病院にアートを取り入れて、来院する患者さんやご家族の気持ちを明るく前向きにしようと、外来および病棟に心安らく作品を配置しています。



科長
宮坂 尚幸 Naoyuki Miyasaka

母体保護法指定医

専門医 ● 日本産科婦人科学会認定 産婦人科専門医

専門外来 ● 周産期外来
超音波外来
婦人科腫瘍外来
更年期外来
女性心身症外来
生殖医療外来

Message

医療が高度化し細分化される中で、産婦人科医療は、二つの個体からもう一つの新しい個体が発生する生殖医療に始まり（生殖医学）、母児が命がけて臨む出産の現場に立ち会い（周産期医学）、加齢とともに生じる女性特有の問題（女性医学）や悪性腫瘍（婦人科腫瘍学）と対峙するなど、女性の一生に関わる診療科です。当科では、それぞれの部門のエキスパートが有機的に連携・協働し、総合力を駆使して高度な医療を提供すると同時に、高度な医療人養成に全力を尽くしております。



脳神経外科

Neurosurgery

Dial-in

● 03-5803-5676 (外来) ● 03-5803-5266 (医局)

<http://www.tmd.ac.jp/med/nsrg/index.html>

脳神経外科手術に関して患者さんごとに最新最善の治療を創意工夫し、最良の結果が得られるようにしています

診療科の概要

脳・脊髄腫瘍、脳血管障害、外傷、機能的脳神経外科など、脳脊髄にかかわる全分野に対応しています。特に大学病院の特性として、他科との連携の中で難易度の高い疾患にも幅広く対応していますし、最先端医療技術の元、最先端機器を用いた高いレベルでの治療法の選択肢をご提示できると思います。また、CT、MRI、PETなどの各種画像診断機器を用いて、24時間体制で疾患の早期診断にも努めています。脳卒中センター、神経難病先端治療センター、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センターができ、より一層他科との連携を強めた総合的な治療を行っています。



取り扱うおもな疾患

脳脊髄腫瘍（特に頭蓋底腫瘍、神経膠腫、間脳下垂体腫瘍）、血管障害（脳動脈瘤、脳動静脈奇形、内頸動脈狭窄症など）、もやもや病、三叉神経痛、顔面けいれん、難治性てんかんは特に豊富な経験があります。

高度な先進医療

脳卒中センター、神経難病先端治療センター、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センターができ、もやもや病、間脳下垂体腫瘍、難治性てんかん、頭蓋底腫瘍は、特に他科との連携の中で最先端レベルの治療を行っています。

診療科における研究テーマ

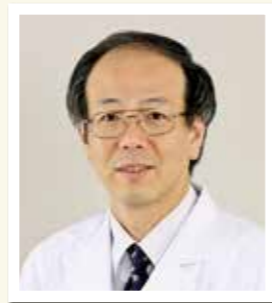
脳腫瘍：脳腫瘍の増殖、浸潤機序の解析、遺伝子治療などの新たな治療方法の開発、頭蓋底腫瘍に対する新たな治療技術の開発

脳血管障害：PET、MRIを用いた脳循環代謝の研究、もやもや病の遺伝子研究、血管攣縮の病態解析と治療法の開発

てんかん：病態解析と治療の研究、脳機能の電気生理学的解析

三叉神経痛、顔面けいれん：病態解析と新たな画像診断の開発

神経外傷：外傷における脳循環代謝、神経伝達物質の研究と治療法の開発



科長

前原 健寿 Taketoshi Maehara

専門医 ●日本脳神経外科学会認定 脳神経外科専門医
日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医
日本てんかん学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医
日本臨床神経生理学会認定 脳波専門医

専門分野 ●てんかんの外科治療

研究領域 ●てんかんの病理学的解析と治療
頭蓋内電極を用いた脳機能の解明

Message

脳神経外科では、脳腫瘍、脳血管障害、脳機能性疾患、脳神経救急疾患など様々な疾患に対して迅速に対応できる臨床治療体制をとっています。境界領域の困難な症例に対しても、他科と協力して積極的な治療を行っています。難治性てんかんの外科治療、もやもや病の治療、悪性脳腫瘍の研究など多くの先端治療も行っています。脳外科領域の疾患でお困りの場合はぜひお気軽にご相談下さい。

神経内科

Neurology

Dial-in

● 03-5803-5670 (内科外来)

<http://www.tmd.ac.jp/med/nuro/index.html>

脳卒中や認知症の神経疾患に対し丁寧で正確な診察、高度な技術、最新の医療機器で最先端の治療を行います

診療科の概要

アルツハイマー病に代表される認知症や脳梗塞や一過性脳虚血発作といった脳卒中など、超高齢化社会において避けては通れない疾患をはじめとして、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病といった様々な神経変性疾患、またギラン・バレー症候群、多発性硬化症、筋無力症、多発性筋炎といった神経免疫疾患に対して、最先端の医療を提供します。

取り扱うおもな疾患

アルツハイマー病・レビー小体病などの認知症、脳梗塞・脊髄梗塞などの脳脊髄血管障害、頭痛・てんかんなどの機能性疾患、パーキンソン病・脊髄小脳失調症・筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、多発性硬化症などの脱髄性疾患、脳炎・髄膜炎・脊髄炎などの炎症性疾患、ギラン・バレー症候群・慢性炎症性脱髄性神経根炎・顔面神経麻痺・三叉神経痛・手根管症候群などの末梢神経障害、(重症)筋無力症・多発性筋炎・筋ジストロフィーなどの筋疾患、ミトコンドリア脳筋症・周期性四肢麻痺・表層ヘモジテロシスなどの代謝性疾患、脊髄空洞症などの先天性疾患、その他糖尿病や膠原病に伴う神経障害などを扱います。

おもな診断・治療法

尿・血液検査、神経伝導検査や針筋電図、脳波などの電気生理学検査、神経・筋生検、血液検体からの遺伝子診断、CT/MRIやPET/SPECT(シンチグラフィ)などの画像診断といった最先端の医療技術を駆使して診断します。脳血管障害に対する抗血小板薬や抗凝固薬を用いた治療、経静脈的血栓溶解療法、神経免疫疾患に対するステロイドや免疫抑制剤を用いた内服加療、免疫グロブリン大量静注療法、血漿交換療法、痙縮に対するバクロフェン髄注(ITB)療法、眼瞼・顔面痙攣や痙性斜頸、痙縮に対するボトックス注射、不随意運動や神経痛に対する薬物治療、抗てんかん薬や抗パーキンソン病薬の薬物調整などを行っています。

高度な先進医療

神経難病治療センターが併設されており、神経変性疾患や神経免疫疾患といった神経難病における新しい生物学的製剤や新規分子標的治療、自家骨髄幹細胞移植治療や骨髄移植治療など、他科とも協力しながら最先端の治療を行っています。

診療科における研究テーマ

核酸医薬を用いた神経疾患の解析と遺伝子治療、神経疾患の髄液・血清miRNAプロファイリングの研究、動物モデルを用いた筋萎縮性側索硬化症の病態解明と新規治療法の開発、アルツハイマー病、レビー小体病や前頭側頭型認知症などの認知症の病因解明と新規治療法開発、脳神経生理機能の解析による病態理解と新しい診断法の開発、神経・胚性幹細胞を用いた脳卒中および神経疾患の再生治療研究、免疫性神経疾患の病態解明と新たな治療法の開発などを行っています。

その他

神経系は人格を規定する臓器である脳と脊髄などの中枢神経、さらにそこから全身に巡る末梢神経を介して、目覚め、話し、笑い、走り、食べ、呼吸するなど人のあらゆる営みをコントロールしています。したがって、その病気は実に多種多様であり、症状は多彩であり、非常に専門分化していると思われがちですが、実は最も広く全身を診る診療科です。前述のように、診療には高度な技術や医療機器を使いますが、神経内科診療の基本は何よりも丁寧で正確な診察にあります。



科長

横田 隆徳 Takatori Yokota

専門医 ●日本内科学会 認定内科医
日本神経学会 神経内科専門医
日本臨床神経生理学会 認定医
(脳波分野、筋電図分野)

専門分野 ●神経内科学
神経生理学的検査学
遺伝子治療学

研究領域 ●神経内科学(特に筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病などの神経変性疾患と多発性硬化症や自己免疫性ニューロパシーなどの神経免疫疾患)
核酸医薬創薬

Message

神経内科は治療法のない稀な慢性疾患を診る科、とよく誤解されていますが、実際は意識障害、けいれん、脳卒中、髄膜炎・脳炎などの急性疾患から、アルツハイマー病などの多くの認知症のように慢性疾患まで広汎な疾患を対象としています。また、頭痛、てんかん、神経感染症、神経免疫疾患などよく治る一般的な疾患が多く、難治性の神経変性疾患も研究や治療法の開発が進捗しつつあります。

血管内治療科

Endovascular Surgery

Dial-in

● 03-5803-5676

<http://www.tmd.ac.jp/med/evs/index.html>

外科手術では治療困難な脳、脊髄の血管の病気をカテーテルを用いて治療します

診療科の概要

外科手術では治療困難な脳、脊髄の血管の病気を診察します。

外来部門では血管内治療一般外来の他、専用の頸動脈超音波機器を備えた頸動脈専門外来を開設。

入院部門では、最新鋭のシーメンス社フラットパネル脳血管撮影装置を用いて脳血管撮影診断および脳血管内治療を行っています。

取り扱うおもな疾患

脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈奇形（動静脈瘻）、頸動脈狭窄、脳動脈狭窄、脳塞栓症、頭頸部腫瘍、頭頸部血管腫

おもな診断・治療法

脳動脈瘤コイル塞栓術、頸動脈ステント留置術、硬膜動静脈瘻塞栓術、脊髄血管奇形塞栓術、脳腫瘍塞栓術、頭頸部血管腫塞栓術など脳神経血管内治療のあらゆる治療を行っています。

高度な先進技術

①全国から患者さんが集まる頭頸部腫瘍の症例には頭頸部外科と協力して術前塞栓術を実施

②全国で最も評価の高い救命救急センターとの連携による超急性期脳卒中診察が可能

③血管内治療科の頸動脈専門外来で脳梗塞予防に対応

高度な先進医療

先進技術と研究成果を応用した最新かつ高度な血管内治療を行っています。

診療科における研究テーマ

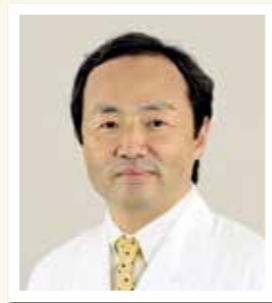
①臨床研究：超急性期脳卒中の治療

②基礎研究：脳血管疾患のコンピューター血流解析

③教育研究：血管内治療トレーニングシステム開発

その他

大学病院として臨床と研究いずれにも対応できる機能を備えています。



科長

根本 繁 Shigeru Nemoto

専門医 ●日本脳神経外科学会認定
脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定
脳血管内治療専門医・指導医
日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医
専門外来 ●頸動脈外来

Message

血管内治療科は脳卒中をはじめ頭頸部の血管性疾患を外科手術せずにカテーテルを用いて治療する診療科として2010年に開設されました。脳神経外科、神経内科、救命救急センターと連携して、脳卒中センターとして診察しています。最新の医療機器を備えた最先端の高度医療を行っています。



精神科

Psychiatry

Dial-in

● 03-5803-5673

<http://www.tmd.ac.jp/med/psyc/index.html>

こころの健康を守るニーズに応える診療・研究体制を整え、安全で効果の高い最新の治療を提供しています

診療科の概要

外来は、新患、再来ともに予約制による診療を行っています。通常の診療のほか、各種専門外来を行っています。登録者は大規模デイケアを利用できます。入院は、41床の開放病棟ですので、興奮が著しいなどの閉鎖処遇が必要なかたの対応は困難です。おもに、診断確定、休息、心理教育、電気けいれん療法、身体合併症管理などを目的としています。

取り扱うおもな疾患

統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害など）、神経症性障害（社交不安障害、パニック障害、強迫性障害など）、器質性精神障害（認知症など）、睡眠障害、パーソナリティ障害など。

おもな診断・治療法

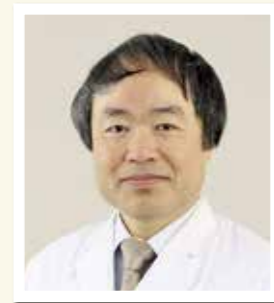
平成26年度より、光トポグラフィ検査（NIRS）を診断の補助目的に用いています。治療は、薬物療法、精神療法、電気けいれん療法、小集団精神療法、心理教育、デイケアなど、患者さんの状態に応じ、組み合わせて行っています。

診療科における研究テーマ

統合失調症の発達神経科学的研究、内在性D-セリンの代謝・機能の分子機構と精神疾患における病態の解明、統合失調症におけるグルタミン酸作動性シナプスの機能異常の原因解明と治療法開発、ストレス性精神障害の発症・再発の分子機構に関する発達神経科学的研究、画像研究、精神病理学研究、リエゾン研究、電気けいれん療法研究など。

取り組み

気分障害再発予防、周産期メンタルヘルス、歯科連携などの各種専門外来に力を入れています。外来デイケアでは、統合失調症MCT（メタ認知トレーニング）や双極性障害集団心理教育などの専門プログラムが行われ、疾病理解や再発防止に役立てられています。また、難治性統合失調症に対する治療薬として認可を受けているクロザリルによる治療や、さまざまな臨床試験に積極的に取り組んでいます。



科長

西川 徹 Toru Nishikawa

専門医 ●日本精神神経学会認定
精神科専門医
専門分野 ●精神疾患の薬物療法
研究領域 ●精神疾患の分子病態解明と新しい治療法の開発
専門外来 ●歯科連携外来
周産期メンタルヘルス外来
躁・うつ再発予防外来

Message

わが国では精神疾患が5大疾患の一つに指定され、私たちのこころの健康を守る重要性が一層クローズアップされています。精神科では、こうしたニーズに応える診療・研究体制を整え、広くさまざまなこころの障害に対して、安全で効果の高い最新の治療を提供しています。こころの問題も早期発見が大切です。お気軽にご相談下さい。



心身医療科

Psychosomatic and Palliative Medicine

Dial-in

● 03-5803-5673

身体の病気をもつ患者さんやそのご家族の
こころの問題に対応しています。

診療科の概要

基本的には、がんや生活習慣病など、身体の病気をもつ患者さんやそのご家族の不安・抑うつ、不眠など、こころの問題に対応しています。こうした精神的・心理的問題に対して、全人的医療の立場から、薬物療法、精神療法、心理士によるカウンセリング、緩和的アプローチなどで積極的に対処しています。

おもな診断・治療法

診断はすべて面接による問診を中心とし、これに心理検査、脳波、脳画像などを適宜加えて総合的にを行います。治療は薬物療法と一般的な支持的精神療法が中心です。

取り扱うおもな疾患

うつ病や不安障害、不眠症などの精神疾患全般、がんや生活習慣病などの身体疾患をもつ患者さんおよびそのご家族の精神心理的問題

診療科における研究テーマ

大きく分けて以下の2種類のテーマに取り組んでいます。

1. 身体疾患を持つ患者さんの心理・社会的側面や精神症状に関する研究
2. 精神・神経疾患を持つ患者さんを対象とした、脳波、心電図、眼球運動等の神経生理学的研究

取り組み

併設する歯学部附属病院における高度な歯科治療や、血液疾患に対する骨髄移植などを支えるべく、精神的な問題が生じる前から定期的にお話を伺う機会を設けるなどの予防的な取り組みを行っています。また、緩和医療チームの一員としても活動しています。



科長

松島 英介 Eisuke Matsushima

専門医 ● 日本精神神経学会認定
精神科専門医

専門分野・研究領域 ●
コンサルテーション・リエゾン精神医学、
サイコオンコロジー

専門外来 ● うつ外来
周産期メンタル外来
精神腫瘍外来
成人てんかん外来

Message

身体の病気を抱えている患者さんやそのご家族の中には、精神心理的なストレスや社会的な負担が大きく、専門的なサポートを必要としている方も多くみられます。私どもの診療科は、そうした患者さんやご家族に対応するためにあります。いま患者さんがおかけの身体各科と連携して治療を進め、もともとの身体疾患の診療が円滑に進められるようにしていきます。

麻酔・蘇生・ペインクリニック科

Anesthesiology

Dial-in

● 03-5803-5685

<http://www.tmd.ac.jp/med/mane/mane-J.html>

科学的な痛みの評価法と慢性的な痛みのメカニズム解明、
それに基づいた診断と治療を行っています

診療科の概要

麻酔科ペインクリニック外来では、神経ブロック、薬物療法、および対話療法によって痛みの緩和を行います。中でも、電気生理学に基づいた痛みの診断と治療が特徴です。神経ブロックは、帯状疱疹後神経痛や腰痛などの一般的な痛みから、癌性疼痛、自律神経失調症、アレルギー性鼻炎、血行障害までカバーします。また、高気圧治療部との連携により、突発性難聴、血行障害、複雑性局所疼痛症候群などに対して、高気圧酸素治療と神経ブロックとを効率よく組み合わせた治療を行います。



取り扱うおもな疾患

疼痛一般（神経障害性疼痛、帯状疱疹後神経痛、腰痛、三叉神経痛、癌性疼痛など）

おもな診断・治療法

顔面・上肢などの有痛性疾患や血行障害に対しては、交感神経ブロックである星状神経節ブロックを行い、痛み、しびれ、麻痺などの症状を緩和します。体幹や下肢の痛みに対しては、硬膜外ブロックやトリガーポイント注射等に対応します。X線透視下で、脊髄神経根付近に局所麻酔薬やステロイドを投与することもあります。

高度な先進医療

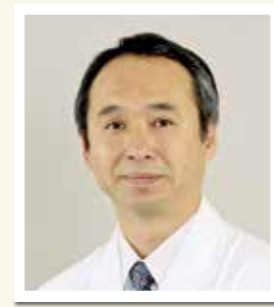
癌性疼痛に対して、薬物療法他、神経ブロック（腹腔神経叢ブロック、上下腹神経叢ブロック、神経根ブロック、硬膜外ポート留置等）で緩和療法を行います。高気圧治療と神経ブロックの併用による痛みの治療は当院の特徴的治療法です。

診療科における研究テーマ

電気生理学による痛みの診断に加え、脳機能イメージングによる慢性的な痛みのメカニズム解明と診断法開発を行っています。痛みを客観的に評価することにより、最適な治療法を科学的に選択したり、治療効果を患者さんと一緒に目で確かめたりできるようになります。

その他

ペインクリニックの他に、当科では年間約5,000人の手術患者さんの麻酔管理を行っています。安全で質の高い麻酔を受けて頂くために、毎日外来で患者さんを術前診察して綿密な麻酔計画を立てています。



科長

横田 浩史 Koshi Makita

専門医 ● 日本麻酔学会認定 麻酔科専門医

専門分野 ● 麻酔全般

研究領域 ● 麻酔全般

Message

① 痛みの強さを客観的に表す指標がなく、他人には分かってもらえないもどかしさがあります。ペインクリニック外来では科学的な痛みの評価法、慢性的な痛みのメカニズム解明とそれに基づいた診断と治療を目標に診療を行っています。

② 麻酔前診察：麻酔科外来では麻酔を受けられる患者さんのために、麻酔前の問診と診察および検査結果の評価を行うことにより、安全な麻酔を行うように努めています。

放射線治療科

Radiation Oncology

Dial-in

● 03-5803-5311

http://www.tmd.ac.jp/med/mrad/

当院ならではの高度な放射線治療を行います

● 診療科の概要

当院の全ての診療科ならびに歯学部附属病院と連携をとり、多領域にわたるがんや一部の良性疾患に対し、単独治療あるいは集学的治療の一端として、根治的治療から緩和治療まで幅広く放射線治療診療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

体の全ての領域のがんとケロイドなどの一部の良性疾患が治療の対象となりますが、頭頸部領域のがんが多いのが当科の特徴です。(2015年:頭頸部がん246名、乳がん98名、肺がん71名、前立腺がん96名、食道がん57名など)

● おもな診断・治療法

強度変調放射線治療(IMRT)や定位照射治療を含めたX線による外部照射治療やRALS (Remote-controlled After Loading System) を用いた高線量率小線源治療、イリジウムや金粒子、ヨウ素を用いた低線量率密封小線源治療を行っています。病気の状態はもちろん、その方の状態や希望に合わせて、当方で提供できる最善の方法で治療を行っています。

● 高度な先進医療

IMRT (強度変調放射線治療)をはじめ、高精度放射線治療に順次取り組んでいます。口腔がんの小線源治療は当院の放射線治療として最も特徴のある治療法です。2015年から乳癌外科と連携し乳がんに対する小線源治療を開始しました。

● 診療科における研究テーマ

- ・小線源治療に関する可能性の追求と臨床的評価
- ・高精度放射線治療の適応拡大



科長

吉村 亮一 Ryoichi Yoshimura

専門医 ● 日本医学放射線学会認定
放射線治療専門医

専門分野 ● 放射線治療

研究領域 ● 放射線治療

Message

二人に一人ががんを患うとされている今日、社会生活を送りながら、あるいは社会復帰を容易になし得るがん治療方法として、放射線治療の役割は大きくなっています。私たち放射線治療科のスタッフは東京医科歯科大学医学部附属病院ならではの高度な放射線治療を提供できるよう努力しております。

放射線診断科

Diagnostic Radiology

Dial-in

● 03-5803-5311

http://www.tmd.ac.jp/med/mrad/

最先端の画像診断、放射線を使った低侵襲な診断やがん治療を実現します

● 診療科の概要

放射線診断科では臨床各科と連携しながら画像診断を基盤とした診療を行っています。PET/CT、3テスラMRIなどをはじめとして各種の画像診断機器を駆使し、適切な画像診断を行っています。また画像ガイド下に行う生検やカテーテル治療(IVR)も積極的に行っています。

● 取り扱うおもな疾患

- ・悪性腫瘍
- ・血管疾患
- ・外傷
- ・炎症・変性疾患

● おもな診断・治療法

- ・PET/CT、MRI、CT、RI、超音波、血管造影など画像診断一般
- ・肺・乳腺疾患を対象とした画像ガイド下の生検
- ・体幹部・四肢血管疾患に対する画像ガイド下のカテーテル治療(IVR)

● 高度な先進医療

PET/CTでは関連病院の患者さんの検査を積極的に受け入れて診断結果を提供しております。またERを受診された患者さんの夜間・休日の緊急検査にも対応しています。

● 診療科における研究テーマ

- ・TEVAR術後エンドリークに対する直接穿刺塞栓療法の開発
- ・画像診断と画像ガイド下生検の集学的利用による乳癌疾患診断法の検討と開発
- ・舌癌のMRI診断と撮像方法
- ・MR enterocolonographyによるクローン病活動性スコアリングシステムの開発
- ・MR enterocolonographyによるクローン病の腸管狭窄病変に対する画像診断法の開発
- ・Texture解析を用いた良性・悪性病変の定量的画像診断法の実行可能性研究
- ・人工内耳の画像計測と臨床的有用性
- ・めまいのMRI診断と臨床的有用性
- ・代謝・機能画像と形態画像の画像医学的研究
- ・分子イメージング手法に基づく画像診断的研究



科長

立石 宇貴秀 Ukihide Tateishi

専門医 ● 日本医学放射線学会認定
放射線診断専門医

日本核医学会認定 核医学専門医

専門分野 ● 画像診断

核医学

研究領域 ● 画像医学

分子イメージング

Message

放射線診断科では最先端の診断機器を用いてあらゆる領域の画像診断・核医学診断を行い、臨床各科に貢献しています。IVRではがんや血管病変の治療だけでなく、ERからの緊急止血などにも対応しています。



中央診療施設等 のご案内

救命救急センター	67
保険医療管理部	68
医療安全管理部	69
感染制御部	70
臨床研究監視室	71
看護部	72
薬剤部	73
検査部	74
手術部	75
放射線部	76
輸血部	77
リハビリテーション部	78
集中治療部	79
材料部	80
光学医療診療部	81
医療情報部	82
血液浄化療法部	83
総合診療部	84
高気圧治療部	85
臨床栄養部	86

事務部のご案内

事務部	87
-----	----

救命救急センター

Trauma and Acute Critical Care Medical Center

Dial-in

● 03-5803-5102

<http://www.tmd.ac.jp/accm/>

都内屈指の受け入れ態勢を目指し全学をあげた取り組みにより、平成21年から救命救急センター全国第1位の評価を5年間いただいています

外傷、急性腹症、脳卒中、急性冠症候群等の急性疾患の転院を積極的に受け入れています

● センターの概要

24時間365日、高度な医療設備とスタッフを備えて救急医療を提供します。

救命救急センターは、生命に危険がある重症な患者さんを救命するために受け入れを行う「国から指定された施設」であり、初期治療から入院後の集中治療にかけてまで、全力を尽くして治療にあたっています。

最新の治療設備や救命救急専用病床、ドクターカー、ヘリポート等を最大限に活用して、各科と連携しながら専門スタッフが最善の救急医療を提供します。



● おもな診断・治療法

- 重症外傷に対する救命治療および集学的治療
- 重症急性疾病に対する救命治療および集学的治療
- 院外心肺停止・重症急性中毒に対する救命治療および集学的治療
- ドクターカーによる救急現場での高度な救命医療の提供

● 高度な先進医療

- 1) 高度な診断治療を必要とする重症外傷・重篤な急性疾病については、他の医療機関からの転院依頼が多いことが特徴です。
- 2) 東京医科歯科大学近隣地域へは救急隊とともにドクターカーで現場へ出動し、病院前救護に多くかかわっています。これは119番通報に対応した消防司令が「現場に医師が必要」と判断した全例に出動しており、年間約300件、現場で医師による高度な医療を提供しています。
- 3) 病院外で発生する多数傷病者対応を日頃から実践しており、万が一のときにも平時の診療機能を維持する訓練を行っており、東日本大震災の際も九段会館天井崩落事故現場へ出動しました。

● センターにおける研究テーマ

- ・ 各種侵襲による生体反応とその制御の解明、治療法の開発
- ・ 重症胸腹部外傷、多発外傷に関する臨床研究
- ・ 外傷疫学および外傷予防医学（日本外傷データベース解析など）
- ・ 災害医療 / 医学に関する研究（厚生労働科学研究事業など）
- ・ 集中治療に関する臨床研究（重症敗血症、DIC など）



センター長

大友 康裕 Yasuhiro Ootomo

専門医 ● 日本救急医学会認定 救急科専門医
日本外科学会認定 外科専門医

専門分野 ● 救急医学
災害医学
外傷外科学
集中治療医学

研究領域 ● 災害医療に関する疫学研究ほか

Message

東京医科歯科大学救命救急センターは2007年4月、都内23施設目の救命救急センターとして開設されました。都内屈指の受け入れ体制を目指し全学をあげた取り組みにより、平成21年から救命救急センター全国第1位の評価を5年間いただいています。24時間365日、優秀なスタッフが安定した医療を提供しています。



保険医療管理部

Department of Insured Medical Care Management

Dial-in

● 03-5803-5903

<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical/section/hokeniryo.html>

職域を超えたチームワークで
適切な診療報酬請求をサポートします

● 部の概要

社会保険医療に関する法令や制度は多岐にわたり、特に診療報酬に関しては詳細にルールが定められ、必要書類等の管理が求められています。保険医療管理部では、これらについて全職員に対する継続的な教育・啓発活動を行うとともに、医療者と診療報酬請求事務部門の連携を図るハブの役割を担うことにより、適切な診療報酬請求をサポートします。

● 取り組み

近年ではチーム医療の重要性が強調されていますが、診療報酬請求は医療者のみならず病院全体のチームワークが重要です。当院では、医療多職種を保険医療管理部に配置し、連携する医事課診療報酬対策室の事務職員とともに職種を超えたバリエーション化を果たし、チームワークを存分に発揮できる体制を整備しています。



部長
藍 真澄 Masumi Ai

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本糖尿病学会認定 糖尿病専門医
専門分野 ● 医療保険制度（保険診療、診療報酬など）
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査
研究領域 ● 医療保険制度（教育）
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査

Message

当院は保険医療機関であり、当院で働く医師は全員保険医です。保険医および保険医療機関の責務として、社会保険医療に関する法令や制度に基づき、適正な保険診療、および診療報酬請求を行うことが求められています。当院は特定機能病院として質の高い医療を提供し、臨床研修指定病院として模範的な医療機関となるよう日々努力しています。保険医療管理部は適正な保険診療や診療報酬請求を行うため、全職員と協働して当院の取り組みをサポートします。

医療安全管理部

Department of Clinical Quality and Safety

Dial-in

● 03-5803-5137

医療現場でのインシデント・アクシデントの分析と
検証を通じ医療の安全性を高めます

● 部の概要

提出されたインシデント報告による事例の検証から再発防止策を策定し、実施推奨と効果の判定および評価を行っています。また医療安全における重点事項の徹底と医療の質向上を企図し、さらに医療従事者の安全への意識向上のため、教育・研修および講演会等を定期的で開催しています。

● 取り組み

1. 医療事故防止のための教育・研修の企画、運営
全職員対象研修
技術研修
2. インシデント・アクシデント・合併症報告の分析と再発防止の策定
警鐘事例とその対策の院内周知
死亡退院事例検証会
合併症に対してM&Mカンファレンスの実施
3. 医療安全における患者参加とチーム医療の推進

● その他

第24回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会において、東京医科歯科大学医学部附属病院で取り組んでいた「血管造影・IVR、内視鏡、採卵術における安全チェックリストの導入」というプロジェクトが「第1回 Patient Safety & Quality Award 優秀賞」を受賞しました。ワーキング・グループに参加された方々と所属スタッフ皆様の、ご協力とご努力による受賞を励みにして、引き続き病院内の安全管理を推進してまいります。



血管造影・IVR、内視鏡、採卵術における安全チェックリストの導入



部長
尾林 聡 Satoshi Obayashi

専門医 ● 日本産科婦人科学会認定
産婦人科専門医
専門分野 ● 婦人科内分泌
研究領域 ● 婦人科
末梢循環
医療安全

Message

平成27年8月より医療安全管理部へと名前がかわりました。大学病院では併発症を持った患者さんへの大きな手術、重症度の高い難病、救急を扱うことが多いため、診療科や病棟などのリスクマネージャーと協力して医療の安全性向上に努めています。また全職員対象の安全研修会や、研修医や看護師を対象とした技術講習会などを定期的で開催し、さらにM&Mカンファレンスや院内の死亡退院事例検証会も行っています。



感染制御部

Division of Infection Control and Prevention

Dial-in

● 03-5803-5398

<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical/section/kansen.html>

医療関連感染の予防、
感染発生時の速やかな対応、教育活動など、
感染制御を通じた良質な医療の提供を推進します

●部の概要

感染制御部は感染対策の教育、耐性菌防止対策、抗菌薬適正使用の推進、医療関連感染症サーベイランスの実施、病棟ラウンド、新興・再興感染症対策など様々な活動を行っています。

●高度な先進技術

検査部及び保健衛生学研究科生体防御検査学のご協力を頂きながら、分子疫学解析や臨床微生物学的な検討を行っています。これらの情報をもとに診療現場に迅速なフィードバックを行い、積極的な感染制御活動を推進しています。

●その他

近隣の連携医療機関と定期的に感染対策に関するカンファレンスを開催し、アドバイスをしています。



部長

貫井 陽子 Yoko Nukui

専門医 ●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本感染症学会認定 感染症専門医
専門分野 ●感染制御学
感染症内科学
臨床微生物学
研究領域 ●耐性菌の疫学・細菌学的解析

Message

感染制御部は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員の多職種から構成されており、安全・良質な高度医療の基盤となるチーム医療を日々推進しています。各診療科と連携しながら、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整え、予後の向上につながる活動を今後も進めてまいります。



臨床研究監視室

Clinical Research Monitoring Section

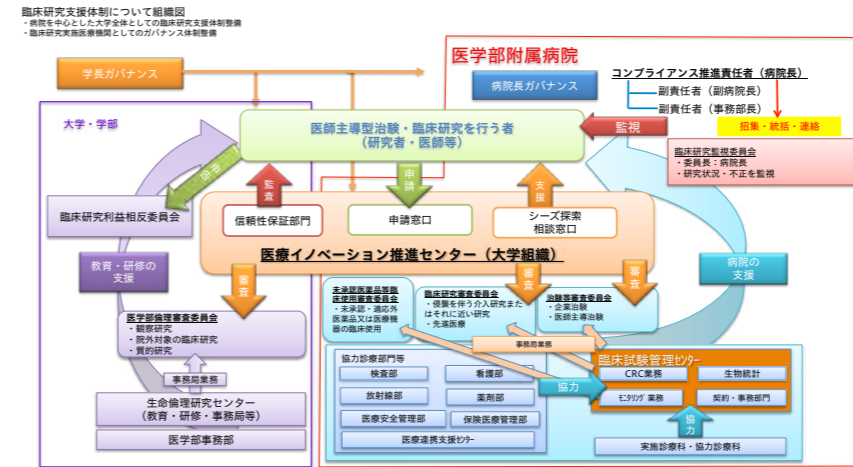
Dial-in

● 03-5803-4170

新規治療法の臨床応用を目的とする有効性、
安全性の適正評価のため、
臨床研究監視体制の機能強化を図っていきます

●室の概要

臨床研究監視室は、平成27年8月に設置され、室長、室長補佐、臨床研究監視係（係長、主任）の4名体制となっています。主な業務は、臨床研究監視委員会を開催して、臨床研究に関連する審査委員会（臨床研究審査委員会、治験等審査委員会、医学部倫理審査委員会等）における研究実施報告から、適切に管理されているかを監視しています。



室長

尾林 聡 Satoshi Obayashi

専門医 ●日本産婦人科学会認定
産婦人科専門医
専門分野 ●婦人科内分
研究領域 ●婦人科
末梢循環
医療安全

Message

本学は国家戦略特区において、臨床研究中核病院と同水準の評価を受け、保険外併用療養拡充の特例機関として平成27年3月に認定されました。本部門は特区による先進医療の実施や臨床研究中核病院（医療法）を目指し、臨床研究の進捗状況や安全管理状況、有害事象発生有無の監視などを行っています。

看護部

Department of Nursing

Dial-in

● 03-5803-5666

<http://www.tmd-kango.jp/index.html>

医療チームの一員として責任を持ち、
創造性豊かな思いやりのある看護を実践します

● 部の概要

看護部は病棟部門（17看護単位）と救命救急センター部門、中央診療部門、外来部門、看護管理部門からなっています。看護職は患者さんが早期に健康を回復し社会復帰できるように、あるいは最後までその人らしい生活が送れるように、身体的・精神的・社会的にサポートします。

● 高度な先進技術

質の高い看護の提供のために、平成21年度文部科学省の人材育成プランとして採択された「看護職IKASHIKAキャリアパスの開発」により、看護職の様々なキャリア形成を支援しています。

● その他

看護部長、副部長が自らのビジョンを描き、積極的にマネジメントに取り組むことができるように、プロジェクト学習を行っています。



● 看護部教育・キャリア支援室

各部署と連携をとり、OJTでの育成を基本とした院内教育・看護師のキャリアアップの支援をしています。また、新卒看護師のメンタルサポートを通じ生き生きとした職場環境作りを目指しています。



部長

川崎 つま子 Tsumako Kawasaki

Message

私たち看護職は、当院の理念である「安全良質な高度・先進医療を提供しつづける社会に開かれた病院」の実現に向けて、医療チームの一員として責任を持ち、創造性豊かな思いやりのある看護を実践します。

薬剤部

Pharmacy

Dial-in

● 03-5803-5601

<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medicine/framepage1.html>

安全で安心できる薬物療法のために、
お薬のある所にはいつも薬剤師が見える病院をめざしています

● 部の概要

薬剤部では、安全で確実な調剤を基本に、医薬品情報の提供、医薬品の品質・在庫管理、麻薬管理、治験薬管理、院内製剤の調製、抗がん剤のミキシング・レジメン管理、薬物血中濃度モニタリングなどの中央業務を行っています。また、チーム医療では医療安全、感染対策、緩和ケア診療等に参画、更に拡充されたスタッフにより、病棟薬剤師を中心にベッドサイドで持参薬の確認から退院時のお薬まで、安全で安心な薬物療法の提供を使命とし、薬剤部一丸となって業務を行っています。

● おもな診断・治療法

- 服薬指導・退院指導
- 薬物血中濃度測定および血中濃度に基づく体内動態解析
- 中心静脈栄養に用いられる注射剤および抗がん剤の無菌調製
- 各種院内製剤の調製
- 各種医薬品の品質管理試験

● 高度な先進技術

特定薬剤治療管理対象薬物以外の薬物について、薬物血中濃度を測定し薬物動態解析を行える体制を整えています。また、日本医療薬学会および日本臨床薬理学会の研修認定施設となっています。

● その他

当院薬剤部では、医薬品の適正使用に関わる基礎・臨床研究にも力を入れております。これまでの研究業績が評価された職員が、平成26年度日本医療薬学会奨励賞を受賞しております。



部長

高橋 弘充 Hiromitsu Takahashi

専門分野 ● 薬学

研究領域 ● 医療薬学、薬剤経済学

Message

薬剤師は医療チームの一員として、薬のプロフェッショナルの立場から、有効かつ安全な薬物療法の確立を通して、患者さんへの安全で安心な薬物療法の提供に最善を尽くしてまいります。平成25年度からは、薬剤師の拡充と共に病棟薬剤業務実施加算を開始しました。これからも医療の信頼性を高め、特定機能病院として高度な医療を開発・実践すべく、全ての薬剤師が研鑽を重ねてまいります。



検査部

Clinical Laboratory

Dial-in

● 03-5803-5624

http://www.tmd.ac.jp/med/mlah/

最先端の技術に基づいた臨床検査を迅速に行い、高度な診療に貢献します

●部の概要

検査部は3階にあり、臨床検査技師、医師、事務職員で構成され、検体検査、生理検査、採血業務を行っています。検体検査には血球・血液凝固・骨髄、生化学・免疫・細菌、尿・便検査などが、生理検査には心電図、呼吸機能、脳波、筋電図、末梢神経伝導、超音波検査などがあります。検査に関わる情報提供も行っています。



●おもな診断・治療法

検体検査の多くは、検体を受け取ってから約1時間で結果をオンライン報告しています。生理検査も速やかに結果を報告しています。これらにより、診療科での適切な診断や治療をサポートしています。

●高度な先進医療

感染症の検査では、病原体を同定するための遺伝子検査や、薬剤耐性菌の院内感染の監視のための遺伝子型解析を行っています。生理検査では、通常の方法では分かりにくい下肢の運動神経伝導を高電圧電気刺激装置を用いて調べる検査や、経頭蓋磁気刺激による中枢運動神経の検査も行っています。



部長

東田 修二 Shuji Tohda

専門医 ●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本血液学会認定 血液専門医
専門分野 ●臨床検査医学
血液学
研究領域 ●血液腫瘍の分子病態の検査や感染症の遺伝子検査

Message

患者さんが的確な診断のもとに、高度な治療を受けるためには、質の高い臨床検査が不可欠です。当検査部では、最先端の技術を駆使し、精度の高い臨床検査を迅速に行うとともに、患者さんが快適に検査を受けることができるよう努めています。また、学生、検査技師、医師に対する臨床検査の教育や、新たな検査法の開発・研究にも取り組んでいます。



ISO15189の日本語版認定証

手術部

Surgical Center

Dial-in

● 03-5803-5632

患者さんが安全に、かつ最良の手術治療を安心して受けられる場を提供しています

●部の概要

当手術部は15室(うち2室のバイオクリーンルーム)の手術室からなり、外科系19診療科、内科系3診療科の手術を実施しています。手術件数は8216件(2015年度)で、国立大学病院の中でも常に上位クラスといえます。手術終了後、患者さんは病棟に戻られるほか、手術の大きさや侵襲度などによって手術室と同フロアのHCU(ハイケアユニット)やICU(集中治療部)で治療を継続する体制が整えられています。



●おもな診断・治療法

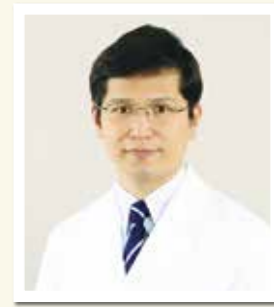
低侵襲手術、特に鏡視下手術、ミニマム創手術や、頭頸部手術に力を入れています。

●高度な先進医療

- ・オペラマスターを導入し、手術室稼働率、手術稼働率、原価計算、手術部職員の労働調査など多角的な指標から手術部を検討し、手術室の効率化を図り経営改善を行っています。
- ・トレーサビリティシステムを導入し、手術に用いる鋼製器械の履歴をすべて管理しており、滅菌リコール時の迅速な追跡調査、周知を可能にしています。また、鋼製器械の購入・修理履歴から、安全かつ計画的な更新を図っています。

●その他

泌尿器科のミニマム創3D内視鏡下手術の発展とともに、看護師さんもディスプレイで手術手順を見ることができるシステムを開発中です。職員一同、良い手術ができるよう、質の向上に取り組んでいます。



部長

内田 篤治郎 Tokujiro Uchida

専門医 ●日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医
専門分野 ●麻酔科学
研究領域 ●周術期管理医学
バイオマーカー
急性肺傷害
麻酔薬の臨床薬理

Message

当手術部では、病院の理念である「安全良質な高度・先進医療を提供しつづける。社会に開かれた病院」のもと、「患者さんが安全に、かつ最良の手術治療を安心して受けられる場を提供する」をミッションとして掲げています。日々ボトルネックを点検し、外科医が、その技量をいかんなく発揮でき、多くの患者さんに喜んでいただける環境を整えることを目指しています。



放射線部

Radiology Center

Dial-in

● 03-5803-5635

単純X線写真から最先端の画像までの画像診断、さらに放射線を使った侵襲の少ない血管内治療やがん治療を行っています

● 部の概要

単純X線写真からCT、MRI、PET/CTまで幅広い画像診断と放射線を使ったより侵襲の少ない血管内治療（IVR）やがん治療を行っています。

現在のスタッフは診療放射線技師44名（常勤30名、非常勤14名）、看護師10名、事務員3名で構成され、放射線診断科や放射線治療科の医師をはじめとするすべての診療科の医師と協力して、診療に当たっています。

● おもな診断・治療法

診断部門では64列CT、PET/CT、3テスラMRI、IVRなどを行っています。

治療部門では定位照射やIMRTを含む外部照射、腔内照射、口腔がんや前立腺がんの低線量率小線源治療を行っています。

● 高度な先進技術

診断部門ではPET/CTや救急IVRが特筆されます。

治療部門では口腔がんや前立腺がんの小線源治療や、肺がんの定位照射や前立腺がんのIMRTを行っています。

● 取り組み

診断部門では医用画像の質の向上を当面の大きな課題として取り組み、治療部門ではIMRTなどの高精度治療技術の積極的応用を図ります。歯学部附属病院と連携した治療や、診療放射線技師の交流を通して、お互いの画像撮影技術の向上に取り組んでいます。

● その他

放射線部には検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師やX線CT認定技師、MR専門技師、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、放射線治療品質管理士、医療情報技師の認定を受けた診療放射線技師や、インターベンションエキスパートナースの認定を有している看護師がいます。

放射線部内の医師、看護師、診療放射線技師のチームとしての機能を重視し、病院診療各科や各部門と連携し、患者様が安心して検査や治療を受けられる環境作りを行って参ります。



部長

吉村 亮一 Ryoichi Yoshimura

専門医 ● 日本医学放射線学会認定
放射線治療専門医

専門分野 ● 放射線治療

研究領域 ● 小線源治療

Message

放射線部は部長、副部長そして技師長、診療放射線技師で構成されており、放射線診断科や放射線治療科をはじめとする診療各科の医師、さらに看護師と協力して多岐に渡る放射線診療を行っています。患者様に安心してそれらの診療を受けていただける環境作りを放射線部員一同で行って参ります。

輸血部

Transfusion Medicine

Dial-in

● 03-5803-5646

患者さんに治療効果と安全性を重視した輸血・細胞療法を提供するよう努力しています

● 部の概要

安全な輸血と造血幹細胞移植を中心とする細胞治療に必要な検査・技術を提供しています。

① 輸血検査、自己血採血、血液製剤の保管・管理を行い、必要に応じ適切な製剤を迅速に供給しています。

② 造血幹細胞の採取・評価・処理・保存を行います。

③ 安全な輸血療法のためのシステムや情報を提供しています。

輸血部には、医師2名と臨床検査技師8名が所属し、輸血と細胞治療のスペシャリストとして研鑽を積んでいます。

● おもな診断・治療法

おもな検査：① 輸血検査（血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験）

② 造血幹細胞移植関連検査

おもな治療法：① 同種血輸血

② 自己血輸血

③ 造血幹細胞移植（骨髄、末梢血、臍帯血）、血管再生療法

● 高度な先進技術

① 輸血：救命救急センターの緊急性の高い輸血や、NICUなど特殊性の高い輸血にも対応します。

② 細胞治療：非血縁者間を含む造血幹細胞移植（血液内科・小児科）や血管再生療法（老年病内科）では診療科と密接に連携。細胞の採取・評価・処理・保存は輸血部が主体となって実施します。



部長

梶原 道子 Michiko Kajiwara

専門医 ● 日本小児科学会認定 小児科専門医
日本血液学会認定 血液専門医

専門分野 ● 輸血医学

造血幹細胞移植

小児血液・腫瘍・免疫疾患

研究領域 ● 安全で適正な輸血の実施と輸血事故防止対策

造血幹細胞移植を中心とした細胞治療の基礎研究と臨床応用

Message

輸血部では、輸血検査、自己血を含む輸血用血液製剤の管理と供給、輸血歴の管理、副作用への対応、造血幹細胞移植を中心とする細胞治療の支援業務を行っております。患者さんに、治療効果と安全性を重視した、輸血・細胞療法を提供できるよう、スタッフ一同努力しております。

リハビリテーション部

Rehabilitation Center

Dial-in

● 03-5803-5648

病態に合わせて超急性期からリハビリテーションを導入し、早期回復をはかっています

● 部の概要

急性期から積極的にリハビリテーションを開始して、障害を少しでも軽減できるようにします。また、退院後、安心して生活が送れるように心掛けています。整形外科・脳神経外科・神経内科を中心に様々な診療科の患者さんのリハビリテーションを行っています。理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3部門で患者さんの必要に応じて、急性期からリハビリテーションを開始し、短い入院期間でも安心して退院・転院していただけるよう総合的に診療を行っています。高齢社会の問題の1つでもある、誤嚥性肺炎の防止にも積極的に取り組んでいます。

● おもな診断・治療法

多くの疾患に対し手術後・発症後可能な限り早期にリハビリテーションを開始し、離床できない患者さんでも、病室から積極的に介入を行うことで、無動による二次的な障害を予防しながら患者さんの機能回復をサポートしています。

● 高度な先進技術

人工関節の手術後リハビリテーションは短期間で歩行や日常生活動作の獲得を行います。肩関節腱板断裂後再建手術等も早期からリハビリテーションを開始し、入院期間の短縮を図っています。また、嚥下の評価・治療にも積極的に取り組んで、安全な摂食と、食べる楽しみを患者さんに味わっていただいています。



部長

神野 哲也 Tetsuya Jinno

専門医 ● 日本リハビリテーション医学会認定
リハビリテーション科専門医
日本整形外科学会認定
整形外科専門医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医

専門分野 ● 運動器疾患のリハビリテーション
股関節外科

研究領域 ● 動作解析
人工股関節

Message

リハビリテーションは治療がひと段落したら開始というのではなく、外傷、手術、急性期疾患の治療開始と同時に早期から始めることが、良好な機能回復へつながります。当院は専門性の高い整形外科手術や、重篤な疾患・難治疾患に対する積極的な治療が行われていますが、それぞれの病態に合わせて、超急性期からリハビリテーションを導入し、早期回復を図っています。

集中治療部

Intensive Care Unit

Dial-in

● 03-5803-5653

www.tmd.ac.jp/med/ccm/index.html

ヒューマニズムと創造性を重視した医療と医学教育のもと、安全かつ快適な国際的にも認められる高度医療、チーム医療を提供できるように努めております

● 部の概要

当施設では8名の集中治療部専従医師が24時間常駐し、看護スタッフ38名とともに多職種のチームが協力して治療に当たっており、日本集中治療医学会認定施設となっております。様々な様式の人工呼吸療法を患者さんの呼吸状態に応じて適用し、体外循環の設備、血液浄化装置などの高度な医療設備も備え、各科専門医師ともコミュニケーションをとりながら最適な医療を提供します。



● おもな診断・治療法

早期治療が予後を左右する敗血症性ショックでは治療開始とともに直ちに血中エンドトキシンを測定し、上昇している場合にはエンドトキシン吸着療法 (PMX) を24時間いつでも実施できるようになっています。

● 高度な先進医療

患者さんの呼吸状態に合わせて最新の人工呼吸のテクニックを駆使して呼吸管理を実施します。肺や心臓の機能が著しく損なわれた患者さんに対しては大動脈バルーンポンピング (IABP)、経皮的肺補助 (v-aECMO or PCPS)、補助人工心臓 (VAS)、体外式膜型人工肺 (v-VECMO) などを行い救命に努め、予後の改善を図っています。

● 取り扱うおもな疾患

大手術後 (心臓血管外科、脳神経外科、食道外科、頭頸部外科など) の術後管理
血管内手術や心臓カテーテル治療後の術後管理
ARDS、肺炎、敗血症性ショック、心原性ショック、出血性ショック、DIC、急性腎障害、急性肝不全

● 診療科における研究テーマ

- ・ Effective Medical Creation: 集中治療領域における五感を使った患者のケアの向上
- ・ 急性腎不全
- ・ 急性呼吸不全
- ・ 術後呼吸管理
- ・ Rapid Response Team の構築と医療安全の向上
- ・ 集中治療領域における終末期医療

● 取り組み

心肺機能が著しく損なわれた患者さんに対しては、心臓血管外科医師のもとにPCPS、ECMOを施行します。急性腎障害、敗血症性ショック、間質性肺炎急性増悪、免疫疾患の急性増悪に対しては血液浄化療法部と協議しながら適切な血液浄化療法を実施します。病棟等での患者さんの急変を早期に検出して対応、予後の改善を期します。



部長

重光 秀信 Hidenobu Shigemitsu

専門分野 ● 米国集中治療医学、米国呼吸器内科学
研究領域 ● 集中治療における医療安全のシステム構成、集中治療領域における終末期医療、Effective Medical Creationとして五感 (視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚) 及び想像の集中治療における患者ケアへの役割

Message

集中治療部は集中治療部専従医、関連各科医師、看護師、専従薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、栄養士を含むエキスパートより構成されたチームで重症患者さんの治療を行う中央診療部門です。さらにはMultidisciplinary方針でしっかりとコミュニケーションを取りながら患者様のケアに従事する事により、最終的には患者様一人一人に世界標準に沿った最高の集中治療医療を提供できることを目的としております。



材料部

Materials Management

Dial-in

● 03-5803-5658

<http://www.tmd.ac.jp/med/supp/index.html>

手術器材、診療材料の適切な管理で
最善の医療・看護をサポートします

部の概要

材料部には滅菌管理部門と物品管理部門があります。滅菌管理部門では手術器材などを洗浄・消毒し、器材の機能性や形状を検査します。そして、器材に適した方法で細菌やウイルス等を死滅させる滅菌処理を行い各部署へ供給しています。

物品管理部門では診療材料を適材適所、安全かつ効率的に運用できるような供給管理しています。

高度な先進技術

トレーサビリティシステムを構築し、各材料を管理運用しています。

手術器材ではICタグや2次元シンボルを用いて準備履歴と使用履歴を厳密に管理しています。これにより患者さんに使用する個々の器材がどのように準備され使用されたかを詳細に把握することができます。また、器材のリコールの際に迅速な対応が可能であり、供給する器材の安全性の向上を図っています。

診療材料では院内独自にシールを発行し、どのロット番号の製品がどの患者さんに、いつ使用されたかを記録し、患者さんごとに安全に、適正に診療材料が使用されるように管理しています。

取り組み

滅菌管理業務では様々な評価機器を用いた手術器材の洗浄評価や滅菌評価を実施して、高水準な洗浄の質および滅菌の質を確保するとともに、拡大鏡を用いた器材単体の精密検査を重点的にを行い、供給する手術器材の質の向上に努めています。

その他

材料部業務は高度な技術と安全管理・感染対策への高い意識が必要です。当院材料部では滅菌業務ならびに管理運用方法の研究とともに教育や講演を積極的に行い、他病院も含めた医療サービスの質の向上を図っています。



部長

宗田 大 Takeshi Muneta

専門医 ● 日本整形外科学会認定
整形外科専門医
専門分野 ● 膝関節外科
スポーツ整形外科

Message

病院内では様々な手術器材や診療材料が使用されています。これら材料の適切な管理には高度な技術を要しますが、患者さんが安心して医療サービスを受けられる環境作りには必須であり、同時に医師をはじめとする医療従事者がその技量を最大限発揮するためにも欠かすことができません。材料部は医療サービスを支えるこの重要な管理業務を通じて、最良の医療・看護が提供できるように努めています。



光学医療診療部

Department of Endoscopy

Dial-in

● 03-5803-5669

http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_central/kougaku.html

重症患者さんが少しでも安全かつ快適に
国際的にも認められる高度医療を受けられるように
努めております

部の概要

消化器内視鏡は、消化器疾患の基本的な検査方法であるとともに、体への負担の少ない治療法としても重要な分野です。がんに加え、若年層を中心に炎症性腸疾患なども増えており、これらに対応すべく、食道外科、胃外科、大腸・肛門外科等の各科と密接に連携して最善の、やさしい内視鏡診断・治療を心がけています。さらに、近年進歩の著しい、画像強調観察、カプセル内視鏡、バルーン内視鏡、内視鏡的病変切除術等、内視鏡技術を駆使した診断法、治療法を開発導入し、先進的な診療を行っています。



おもな診断・治療法

年間約1万件の上部消化器内視鏡（いわゆる胃カメラ）、下部消化管内視鏡（いわゆる大腸カメラ）に加えてカプセル内視鏡、バルーン内視鏡、超音波内視鏡等を行い、全消化管を対象に検査をしています。また、出血に対する止血、EMR (Endoscopic mucosal resection)、ESD (Endoscopic submucosal dissection) といった腫瘍切除、炎症性腸疾患に伴う狭窄の拡張、ステント留置、胆膵領域では結石除去等の内視鏡治療を行っています。

高度な先進技術

早期食道がん、早期胃がんや早期大腸がん等に対し内視鏡による切除を行っています。また、バルーン内視鏡、カプセル内視鏡を用いた、これまで直接みることの困難であった小腸の病変、特にクローン病の診断や治療を行っています。

取り扱うおもな疾患

食道がん、胃がん、大腸がん等の消化管のがん、胃や大腸のポリープといった良性腫瘍、さらに潰瘍性大腸炎やクローン病等の炎症性腸疾患や小腸疾患に力を入れています。その他、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、食道静脈瘤等の治療も行っています。

診療科における研究テーマ

カプセル内視鏡やバルーン内視鏡といった小腸内視鏡の開発や、それらを用いた診断や治療法の研究を行っています。また大腸内視鏡による早期大腸がんの診断と治療も大きな研究テーマです。

取り組み

潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センターと連携して、正確な診断、そして体への負担の小さい内視鏡治療を行って、よりよい炎症性腸疾患の治療を目指しています。



部長

大塚 和朗 Kazuo Ohtsuka

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本消化器病学会認定 消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医

専門分野 ● 炎症性腸疾患

小腸内視鏡
大腸内視鏡
内視鏡治療
カプセル内視鏡

研究領域 ● 小腸内視鏡の開発

炎症性腸疾患の診断と治療

Message

内視鏡技術の進歩は、食道や胃、大腸のみならず、深部小腸など全消化管への到達を可能としました。さらに通常の光ではとらえられない変化も、特殊な照明や、画像処理、拡大観察により見えるようになってきました。光学医療診療部は、見えるものはもちろんのこと、見えないものも見えるようにして的確な診断、負担の少ない治療を行ってまいります。



医療情報部

Medical Informatics

Dial-in

● 03-5803-5132

http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_central/iryoushouhou.html

最先端の医療情報システムの開発で
質の高い安全な医療を提供します

● 部の概要

診療情報を安全に安心して電子的に扱えるようにするためには、適切なシステム導入が必須です。医療情報部では各部署と連携し、医療情報システムの計画的な開発・改善に取り組んでいます。

● おもな診断・治療法

最新の電子カルテシステムを導入しています。全端末に医用画像を理想の階調で表示する電子カルテ画像表示モニターを配備して、フィルムレス体制を構築しています。また、ペーパーレス化へ向けての取り組みを行っています。

● 高度な先進技術

本学歯学部附属病院とシステム上も相互参照が可能となるよう連携を行っています。また、疾患バイオリソースセンターとの密接な連携を行い、難病の克服を目指した研究に協力しています。

● 取り組み

地域連携システムを用いた外部連携機能が開始されました。同意の得られた患者さんに限り、個人情報等を十分に配慮した上で、当院での診療情報を外部の連携医療機関から参照できるようになりました。患者さんの診療情報を共有できるようにすることで、個々の患者さんに役立つとともに、地域医療の拡充に貢献することを目指しています。

● その他

医療情報部は患者さんと直接接する部署ではありませんが、臨床的な観点からシステム構築について考え、縁の下力持ちとなるように努めています。



部長

久保田 一徳 Kazunori Kubota

専門医 ● 日本医学放射線学会認定
放射線診断専門医
日本乳癌学会認定 乳腺専門医
日本核医学会認定 核医学専門医
専門分野 ● 画像診断
医療情報学
研究領域 ● 画像診断
医療情報学

Message

高度で先進的な医療においては、電子カルテ、オーダリング、検査結果、画像、各種文書といった多くの診療情報が扱われています。このため、情報通信技術 (ICT) を最大限に活用したシステムの運用が不可欠です。医療情報部では、システムを安定稼働・改善するよう中央管理することで、患者さんに質の高い安全な医療を提供できるよう取り組んでいます。

血液浄化療法部

Hemopurification

Dial-in

● 03-5803-5662

<http://www.tmd.ac.jp/grad/kid/index.html>

体液の異常を是正し、血中の人体に有害な毒素を除去するために、
血液透析をはじめ、血漿交換、吸着療法などの
血液浄化療法による治療を行います

● おもな診断・治療法

● 透析療法 Dialysis

- ・ 血液透析 Hemodialysis (HD)
 - ・ オンライン血液ろ過透析 On line Hemodiafiltration (On line HDF)
 - ・ 持続的腎代替療法 Continuous renal replacement therapy (CRRT)
 - ・ 腹膜透析 Peritoneal Dialysis (PD)
- #### ● アフェレシス療法 Apheresis
- ・ 血漿交換 Plasma Exchange (PE)
 - ・ 選択的血漿交換 Selective Plasma Exchange (SePE)
 - ・ 血漿吸着 Plasma adsorption (PA)
 - ・ 血液吸着 Hemoadsorption (HA)

● 高度な先進医療

本血液浄化療法部は、日本で最初に透析療法を開始した機関の一つであり、長い臨床経験を持ち、信頼される医療の提供を行っています。現在15床が稼働しており、件数も年々増加傾向にあります。さらに持続的腎代替療法、血漿交換、血漿吸着、エンドトキシン吸着などの高度で先進的な血液浄化法についても多数施行しており、豊富な経験と実績を有しております。また選択的血漿交換については日本で随一の実績を誇ります。

● その他

血液浄化療法部では、患者さんが安心して治療を受けられるよう医師、臨床工学技士、看護師が一体となって取り組んでおります。また全国42国立大学血液浄化療法部において当血液浄化療法部は、平成26年と平成27年の2年連続で血液透析新規導入件数として血漿交換件数が共に第1位と、高い診療実績を誇っております。患者さんの予後やQOLの改善に今後も努めてまいります。



部長

岡戸 丈和 Tomokazu Okado

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本腎臓学会認定 腎臓専門医
日本透析医学会認定 透析専門医
専門分野 ● 腎臓内科
血液浄化療法
研究領域 ● 慢性腎臓病
急性腎障害
血液浄化療法
アフェレシス療法

Message

血液浄化療法は、血中から人体に有害な物質(尿素・アンモニア・免疫複合体・過剰リポ蛋白、エンドトキシン等)を体外へ除去し、重篤な病態の改善を図る治療法です。最も多い治療疾患は、末期腎不全や急性腎障害に対する透析療法です。その他にも、血液浄化療法は各診療科領域の様々な治療と併用されます。このため、血液浄化療法部では血液浄化療法を受ける患者さんの所属する診療科主治医に対して血液浄化療法のスペシャリストとして、患者さんの病状改善に貢献するよう心掛けています。



総合診療部

General Medicine

Dial-in

● 03-5803-5948

臨床医学教育の企画運営、セカンドオピニオン外来の支援等を行います

● 部の概要

<医学教育>

卒業教育として、総合教育研修センターと連携し、当院および協力病院・施設にて研修するプログラムを作成し、より良い研修が行えるよう研修環境の充実を図っています。さらに医療安全管理部、大学保健管理センターとも協力し、研修医の安全確保も行っています。研修終了後も当院診療科での専門研修がスムーズにできるよう後期研修医の採用にも関わっております。

また、卒業教育として、大学院臨床医学教育開発学分野、大学医歯学融合教育支援センターとともに臨床講義、臨床実習のプログラムの作成に携わり、幅広い知識、高い人間性および国際性を持つ学生を育成しています。さらに、プライマリケア教育について、「御茶の水プライマリケア教育研究会」を組織し、診療所実習（卒前）および地域医療研修（卒後）の機会を提供しています。

<セカンドオピニオン外来>

医療連携支援センターと連携し、各診療科へのセカンドオピニオン外来受診が円滑に行えるよう支援をしています。



部長

高橋 誠 Makoto Takahashi

専門医 ● 日本整形外科学会認定 整形外科専門医

専門分野 ● 医学教育

整形外科

脊椎外科

研究領域 ● 臨床医学教育

脊椎外科

Message

当院総合診療部は2000年に「調整」と「支援」を通じて高度先進医療の推進に貢献する」を理念に揚げ創設されました。大学病院において優れた医師を養成するための活動を中心に、臨床医学教育（卒前および卒後）の企画運営、セカンドオピニオン外来の支援等を行っています。



高気圧治療部

Hyperbaric Medical Center

Dial-in

● 03-5803-4517

<http://www.tmd.ac.jp/med/hbo7/>

放射線障害・スポーツ外傷や新たな疾患に対する高気圧酸素治療の研究・実践に取り組んでいます

● 部の概要

高気圧治療部では、16名同時に治療可能な日本最大級の治療装置を保有しています。当院では、一日複数回の治療枠があり、年間6,000名前後の患者さんの治療を行っています。世界的にも広く行われている治療法で、ダイビングによる減圧症や、一酸化炭素中毒等の救急疾患と、慢性骨髄炎など慢性疾患に適応があります。昨今、創傷治癒（傷の治り）を早める効果が認められ、世界的にも難治性潰瘍、放射線性障害・潰瘍の治療に高気圧酸素治療が積極的に行われています。当院ではスポーツに関連する外傷のほか、新たな疾患に対する高気圧酸素治療の研究・治療に積極的に取り組んでいます。



● おもな診断・治療法

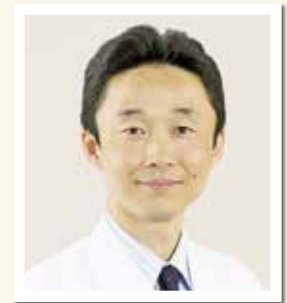
多くの疾患に対する高気圧酸素治療は、最大気圧2.0～2.8気圧、合計90分～120分です。疾患によって治療回数が異なり、数回～数十回の治療となります。減圧症に対しては、約5時間の高気圧酸素治療が基本です。高気圧酸素治療では気圧の変化があるため、加圧減圧時に耳抜きが必要です。アメやペットボトル飲料のご持参をお勧めします。予約制ですので、紹介状のご持参、もしくは事前のお問い合わせをお願い致します。

● 高度な先進技術

日本最大級の治療装置を用い、特殊なアプローチでの治療を行っています。特に、遅発性放射線障害である放射線性膀胱炎、直腸炎、咽頭潰瘍等で高い有用性があります。スポーツ外傷に対する治療も積極的に施行し、早期競技復帰を支援します。

● 取り組み

遅発性放射線障害については、がん治療を行っている他の病院との連携を強化して積極的に治療を行っています。スポーツ外傷に関しては、日本スポーツ振興センターや国立スポーツ科学センターと連携して、トップレベルの選手の外傷対応を行っています。



部長

柳下 和慶 Kazuyoshi Yagishita

専門医 ● 日本整形外科学会認定

整形外科専門医

専門分野 ● 高気圧酸素

スポーツ医学

研究領域 ● スポーツ外傷に対する高気圧酸素治療

Message

高気圧酸素治療は、2気圧以上で100%酸素を吸入することで、全身に酸素を供給する治療法で、酸素によって治療可能な病態を改善します。当院では1966年より本治療の研究を開始し、2001年には現在の大型装置を導入し、中央診療部として運用が開始されました。ユニークな治療法で多岐にわたる適応疾患があります。安全な治療を基本とし、新たな可能性を探りながら、本特殊治療の臨床と研究に従事致します。

臨床栄養部

Nutrition Services

Dial-in

● 03-5803-5133

食を通じて治療を支え、
入院生活のQOLの向上を図ります

● 部の概要

部長、副部長3名（外科医・内科医・管理栄養士）、管理栄養士11名、栄養サポートチーム（NST）

【臨床栄養管理】

入院栄養管理：献立作成から食事の形態・栄養量及び栄養剤の提案。院内の他チーム（褥瘡・緩和ケア・摂食嚥下など）との連携

栄養相談：入院・外来で月約300件

栄養教室：糖尿病教室・減塩教室・生活習慣病教室など

NST：カンファレンスや回診では、多職種（医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・言語聴覚士・臨床検査技師）の視点から、患者さんの栄養状態の評価や栄養計画を立案し、栄養療法を多角的にサポートしています。また、院内スタッフを対象とした栄養に関するセミナーの実施や、栄養サポートガイド（院内）の充実を図っています。

【患者給食管理】

患者給食委託職員58名で毎日毎食約600食の食事を提供

● 取り組み

一入院生活のQOL向上をめざしー

選べるメニュー：一般常食の方を対象に週5日「特別メニュー」を提供

お弁当給食：行楽弁当、ひな祭り弁当は大好評です！

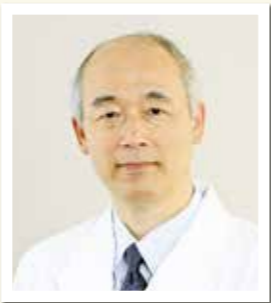
行事食：年23回 クリスマスには、ローストチキンもケーキも手作り。心を込めて焼き上げます。

● その他

【広報・啓発活動】

疾患と栄養、季節の食材などをテーマにした「食彩たより」の発行

病院食の人気メニューのレシピ紹介：作り方、治療食へのアレンジ方法を掲載



部長

河野 辰幸 *Tatsuyuki Kawano*

専門医 ● 日本外科学会認定 外科専門医
日本消化器外科学会認定 消化器外科専門医
日本気管食道科学会認定 気管食道科専門医
日本食道学会認定 食道外科専門医
専門分野 ● 消化器外科
消化器内視鏡

Message



臨床栄養部では、「食」を通じて、直接的・間接的に疾患治療を支え、入院生活でのQOL向上を目指します。さらに食事療法が継続できるよう、栄養相談や栄養教室を行っています。また、栄養サポートチーム（NST）は、栄養療法の認定資格を持った、専門職種チームが、患者さんに適した栄養管理のあり方を経口・経腸・経静脈栄養など多角的に確認、提案し、望ましい栄養管理の推進に努めています。



毎月1回「カレーランチ」を実施しています。これは、当院自慢の「手作りカレー」を患者さんと病院スタッフが一緒に食べる集いです。食後おいしいコーヒーを飲みながらの会話が弾み、「病室で独り食べるのと違って楽しかった！」とみんなの笑顔が輝き、大好評です。

事務部

Administration Division, Medical Hospital

Dial-in

● 03-5803-5097（総務課） ● 03-5803-5107（管理課）
● 03-5803-5127（医事課） ● 03-5803-5874（医療支援課）
● 03-5803-5125（参事） ● 03-5803-4099（企画室）

専門職のチーム医療をサポートし、
患者さんに喜ばれ、社会に貢献し続ける先端病院を目指します

● 部の概要

● 総務課

総務課は、病院全体における事務を扱う部署です。主な業務として病院運営に関する会議の運営から、教職員の労務管理、医師臨床研修に関するもののほか、病院職員を対象とした研修の企画等にも深く関わっています。病院職員間の潤滑油として、スムーズな病院運営を目指して日々努力しています。

● 管理課

管理課は、病院の管理運営を所掌する部署です。その主な業務は病院における会計事務、医療機器、医薬品、診療材料等の調達及び管理支援を行っています。また、病院スタッフ、病院を利用される患者さん及びご家族に安全で快適な環境を提供するために病院施設の整備及び維持管理も併せて行っています。

患者さんに安心・安全で良質な医療を提供し、社会から信頼されつづける病院となるよう日々努力しています。

● 医事課

医事課は、国で定められた法令や制度等に基づき適正な診療費請求を行っています。特に窓口において患者さんと接することが多い課であることから、いつでも良質な接客ができるよう心掛けて業務にあたっております。来院される患者さんすべてが安心して受診でき、且つ癒しをご提供できるような病院を目指し、医事課スタッフ一丸となって日々努力しています。

● 医療支援課

医療支援課は、医学部附属病院に関する医療法等に基づく諸手続きや先進医療に関すること、診療録の管理、病棟業務の補助、救命救急センター・医療安全管理部・感染制御部・腫瘍センターの事務等、幅広く業務を行っています。

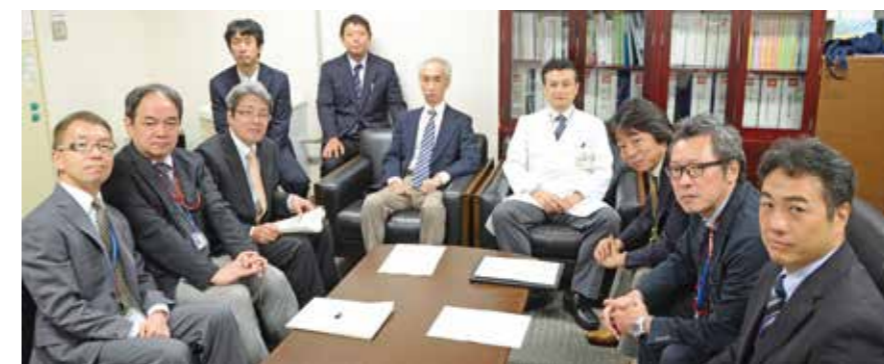
新たに参事を設置し、医療安全および感染に対する事務の強化を図っています。

● 企画室

企画室は、医学部附属病院に関する経理（収支）計画及び経営（予算）管理を行っています。予算を確保することにより、医療機器の更新及び院内環境の整備を図り、患者さんに高度な医療の提供並びによりよい患者サービスの向上が図れるよう日々努力しています。

● その他

年間の外来患者数約58万人（1日当たり約2,390人）、入院患者数25万人（1日当たり約680人）、救急車による救急患者搬送数約8,200人（1日当たり約22人）に対応している当病院は、常にひとりひとりの患者さんを大切にしております。その基盤となり、安心して医療のエキスパートたちが最先端のチーム医療と、患者さんに寄り添うまごころの医療を実現できるようサポートしているのが事務部です。情報共有や活発な意見交換の場を設定するための会議の準備、さらには国立大学病院間の連携や関係省庁などとの対外的な交渉も行っています。患者さんに信頼され喜ばれる病院であり続けるために事務部のスタッフ全員が潤滑油となり、黒衣となって今後も精進してまいります。



部長

吉原 澄吉 *Sumiyoshi Yoshihara*

総務課長 ●

横山 直樹 *Naoki Yokoyama*

管理課長 ●

庄司 義則 *Yoshinori Shouji*

医事課長 ●

高砂 健介 *Kensuke Takasago*

医療支援課長 ●

工藤 晃 *Akira Kudo*

参事 ●

篠原 和宏 *Kazuhiro Shinohara*

企画室長 ●

平野 秀紀 *Hideki Hirano*

Message

事務部は総務課、管理課、医事課、医療支援課、参事（医療安全、感染担当）、企画室の6部署で構成されています。我々事務職員は、医師、看護師をはじめとする様々な専門職のチーム医療を支える一員として、また黒衣として、人情あふれる先端病院を目指し日々努力していく所存です。皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

医学部附属病院のデータベース



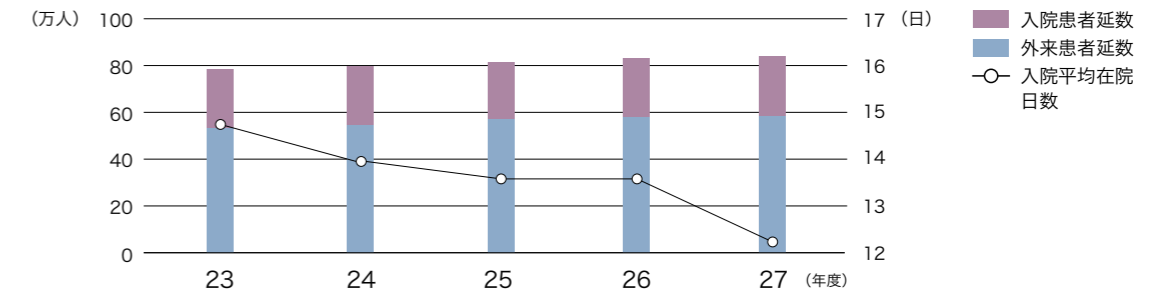
1 患者数

診療科別患者数							
	入院				外来		
	新入院患者数	退院患者数	入院患者延数	平均在院日数	新来患者数	外来患者延数	一日平均患者数
	人	人	人	日	人	人	人
内科	4,120	4,064	56,029	12.7	5,135	162,133	667.2
(血液内科)							
(膠原病・リウマチ内科)							
(糖尿病・内分泌・代謝内科)							
(腎臓内科)							
(老年病内科)							
(消化器内科)							
(循環器内科)							
神経内科	543	543	13,588	24.0	1,041	18,309	75.3
呼吸器内科	799	812	13,174	15.3	1,158	37,380	153.8
小児科	942	931	11,906	11.7	1,214	13,244	54.5
精神科	253	276	11,004	40.6	350	32,160	132.3
(心身医療科含む)							
外科	2,394	2,459	32,765	12.5	1,560	40,180	165.3
(食道外科)							
(胃外科)							
(大腸・肛門外科)							
(腫瘍化学療法外科)							
(肝胆膵外科)							
(乳腺外科)							
(末梢血管外科)							
脳神経外科	630	635	12,810	19.2	897	11,699	48.1
血管内治療科	202	203	1,472	6.3	153	1,505	6.2
心臓血管外科	192	223	8,510	39.9	121	3,686	15.2
呼吸器外科	365	369	4,837	12.2	203	3,005	12.4
整形外科	1,198	1,220	16,449	12.6	2,606	43,099	177.4
皮膚科	443	448	6,345	13.2	2,199	32,152	132.3
形成・美容外科	451	466	5,396	10.8	630	7,362	30.3
泌尿器科	1,295	1,306	15,133	10.6	1,060	26,966	111.0
眼科	1,351	1,359	5,905	3.4	1,996	41,575	171.1
耳鼻咽喉科	769	762	9,852	11.9	3,096	39,213	161.4
周産・女性診療科	1,323	1,329	10,770	7.1	1,375	30,661	126.2
放射線治療科	89	86	1,011	10.6	203	19,339	79.6
放射線診断科					1,189	1,492	6.1
麻酔・蘇生・ペインクリニック科					48	6,027	24.8
救急科【ER (ICU,HCU,一般)】	1,310	1,173	9,577	6.8	7,494	9,861	40.6
遺伝子診療科					2	208	0.9
総合がん・緩和ケア科					7	737	3.0
結核病床 (H 27.8より廃止)	1	2	76	49.3			
ICU			(3,789)				
ER (ICU)			(4,058)				
ER (HCU)			(5,621)				
外科HCU			(1,803)				
NICU			(1,834)				
新生児							
共用							
合計	18,670	18,666	246,609	12.2	33,737	581,993	2,395.0

※ ICU、ER (ICU)、ER (HCU)、外科 (HCU)、NICUの患者数は各診療科の内数。

患者数の推移

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
入院患者延数	250,604	250,680	243,892	245,549	246,609
外来患者延数	536,288	548,245	572,053	575,452	581,993
入院平均在院日数	14.72	13.98	13.57	13.57	12.21
合計	786,892	798,925	815,945	821,001	828,602



救急患者数

患者数	受診区分		搬送区分			Drカー出動件数
	外来受診	外来受診後入院	救急車	ホットライン	その他	
13,471	10,590	2,881	8,214	946	4,311	217

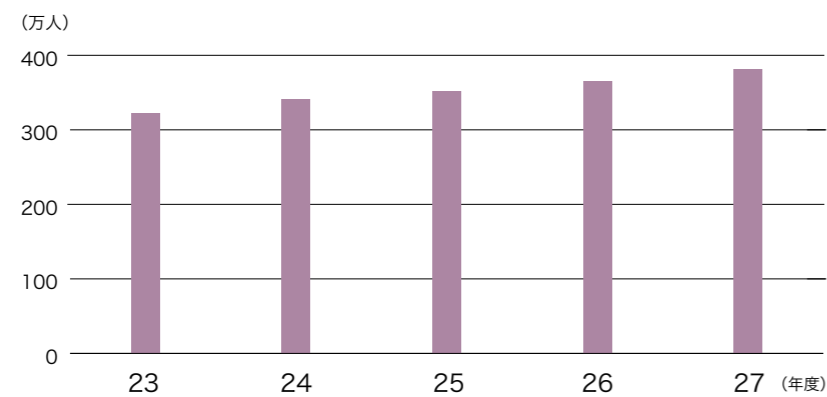
地域別患者数

入院患者数			外来患者数		
地域別	入院実人数	占有率 (%)	地域別	外来実人数	占有率 (%)
23区内	8,045	59.2%	23区内	50,133	56.3%
その他都内	977	7.2%	その他都内	7,432	8.3%
埼玉県	1,806	13.3%	埼玉県	12,069	13.6%
千葉県	1,345	9.9%	千葉県	9,316	10.5%
神奈川県	736	5.4%	神奈川県	5,622	6.3%
茨城県	277	2.0%	茨城県	1,561	1.8%
その他	411	3.0%	その他	2,887	3.2%
北海道	12		北海道	82	
東北	51		東北	413	
その他関東	71		その他関東	498	
中部・北陸	159		中部・北陸	1,186	
近畿	44		近畿	316	
中国・四国	30		中国・四国	172	
九州・沖縄	44		九州・沖縄	220	
合計	13,597	100.0	合計	89,020	100.0

2 臨床検査件数

臨床検査件数							
区分	入院			外来			合計
	院内	院外	合計	院内	院外	合計	
一般検査	23,064	331	23,395	89,332	96	89,428	112,823
血液検査	286,463	919	287,382	379,421	609	380,030	667,412
細菌検査	34,248	1,443	35,691	14,175	2,362	16,537	52,228
血清検査	152,795	33,537	186,332	392,047	106,436	498,483	684,815
臨床化学検査	1,221,160	13,390	1,234,550	2,523,655	33,843	2,557,498	3,792,048
生理機能検査	13,325	0	13,325	47,942	0	47,942	61,267
採血・採液等	129,294		129,294	265,751		265,751	395,045
合計	1,860,349	49,620	1,909,969	3,712,323	143,346	3,855,669	5,765,638

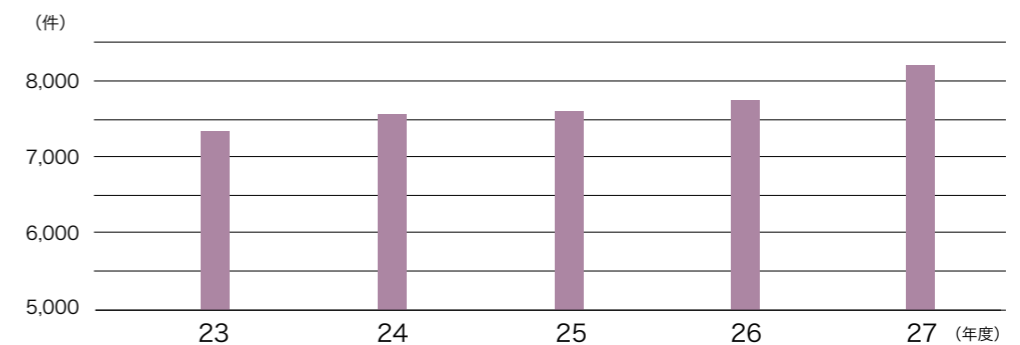
臨床検査件数の推移（外来）					
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
合計	3,230,131	3,418,589	3,524,990	3,659,820	3,855,669



3 手術件数

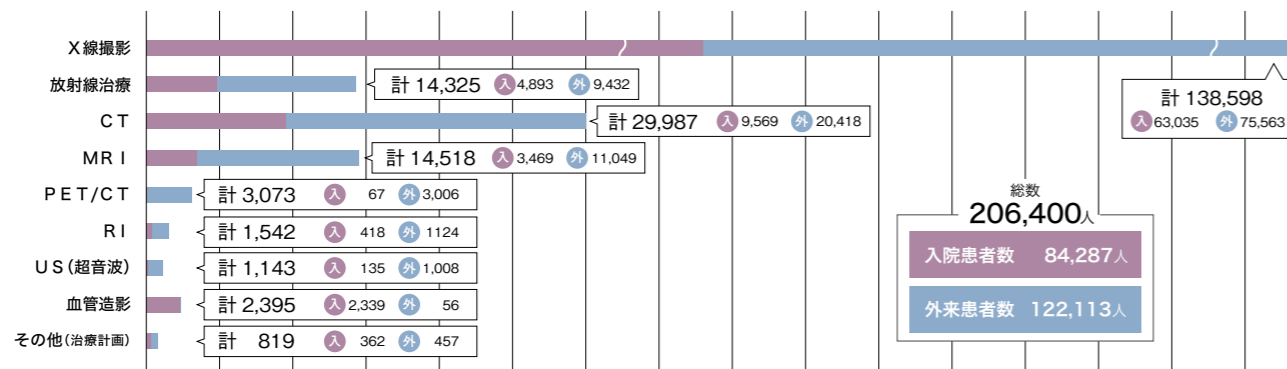
手術部実施手術件数				
	手術件数		合計	全身麻酔件数
	0-9,999点	10,000点以上		
内科	23	114	137	21
(血液内科)				
(膠原病・リウマチ内科)				
(糖尿病・内分泌・代謝内科)				
(腎臓内科)				
(循環器内科)				
(老年病内科)				
(消化器内科)				
(神経内科)				
(呼吸器内科)				
小児科	6	24	30	30
精神科	301	0	301	0
外科	159	1,102	1,261	1,068
(食道外科)				
(胃外科)				
(大腸・肛門外科)				
(腫瘍化学療法外科)				
(肝胆膵外科)				
(乳腺外科)				
(末梢血管外科)				
脳神経外科	34	348	382	326
心臓血管外科	20	230	250	244
呼吸器外科	12	314	326	317
整形外科	149	922	1,071	599
皮膚科	44	34	78	14
形成・美容外科	520	191	711	298
泌尿器科	302	516	818	303
眼	227	1,313	1,540	21
耳鼻咽喉科（頭頸部外科含む）	229	328	557	502
周産・女性診療科	142	441	583	329
麻酔・蘇生・ペインクリニック科	9	1	10	0
救急科（ER）	43	118	161	156
総計	2,220	5,996	8,216	4,228

手術件数の推移					
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
合計	7,332	7,551	7,601	7,726	8,216



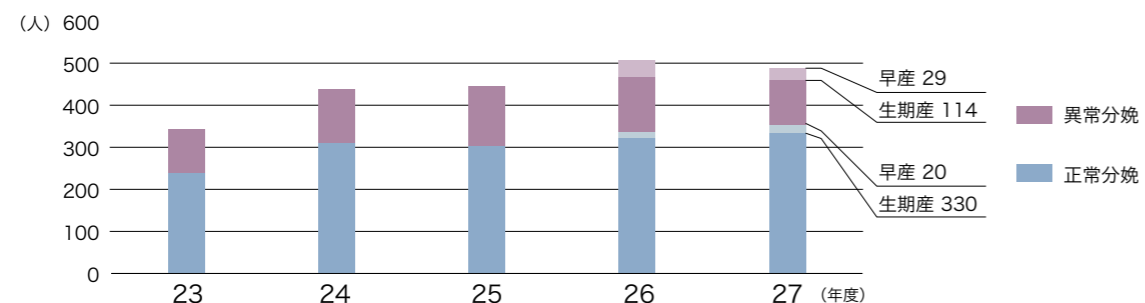
4 放射線検査治療件数

放射線検査治療	患者数 (人)		
	入院	外来	合計
X線撮影	63,035	75,563	138,598
放射線治療	4,893	9,432	14,325
CT	9,569	20,418	29,987
MRI	3,469	11,049	14,518
PET/CT	67	3,006	3,073
RI	418	1,124	1,542
US (超音波)	135	1,008	1,143
血管造影	2,339	56	2,395
その他 (治療計画)	362	457	819
合計	84,287	122,113	206,400



5 分娩件数

分娩	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
					正期産	早産	合計
正常分娩	239	310	304	336	330	20	350
異常分娩	104	128	141	171	114	29	143
合計	343	438	445	507	総数 444	総数 49	総数 493



6 処方枚数・件数・注射処方枚数

処方枚数		処方件数		注射処方枚数	
入院	外来	入院	外来	入院	外来
176,618	22,274	374,430	70,863	195,127	25,252
合計	198,892	合計	445,293	合計	220,379

(院外処方せん枚数：271,983)

7 医療機関の指定状況等

法令等の名称	指定等の年月日
医療法第7条第1項による開設許可 (承認)	昭和24年4月1日
特定機能病院の名称の使用承認	平成6年7月1日
消防法による救急医療 (救急病院・診療所)	昭和40年3月18日
労災者災害補償保険法による医療機関	昭和60年4月1日
原爆被害者援護法	(一般医療) 昭和63年8月1日
戦傷病者特別援護法による医療機関	昭和28年10月1日
健康保険法による保険医療機関	平成22年10月1日
国民健康保険法による (特定承認) 療養取扱機関	昭和34年1月1日
母子保健法	(妊娠乳児健康検診) 昭和63年4月1日
	(療育医療) 昭和39年4月1日
生活保護法による医療機関	昭和55年2月1日
障害者自立支援法	(育成医療) 平成19年1月1日
	(精神通院) 平成19年2月1日
	(更生医療) 平成19年1月1日
身体障害者福祉法による医療機関	昭和29年2月1日
精神保健法による医療機関	昭和40年11月1日
結核予防法による医療機関	平成10年10月1日
臨床修練指定病院 (外国医師・外国歯科医師)	昭和63年3月29日
公害健康被害の補償等に関する法律	(公害医療) 昭和50年8月1日
災害拠点病院	平成9年8月26日
エイズ拠点病院	平成8年7月18日
がん診療連携拠点病院	平成26年8月26日

8 建物配置図

A棟		B棟	
RF	屋上ヘリポート	RF	
17F	機械室	17F	機械室
16F	病室（共用個室）	16F	長寿・健康人生推進センター、小会議室、レストラン
15F	病室（膠原病・リウマチ内科、血液内科、共用）	15F	
14F	病室（呼吸器内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、共用）	14F	病室（消化器内科、腎臓内科、共用）
13F	病室（眼科、老年病内科、形成・美容外科、共用）	13F	病室（循環器内科、心臓血管外科）
12F	病室（外科、共用）	12F	病室（泌尿器科、腎臓内科、共用）
11F	病室（整形外科、共用）	11F	病室（神経内科、循環器内科、共用）
10F	病室（脳神経外科、血管内治療科、耳鼻咽喉科、ER、共用）	10F	病室（耳鼻咽喉科、頭頸部外科、皮膚科、共用）
9F	病室（外科）	9F	病室（放射線診断科、放射線治療科、外科、ER-HCU、呼吸器外科）
8F	屋上庭園	8F	病室（小児科、形成・美容外科、NICU、共用） 周産期母子医療センター、病室（周産・女性診療科、外科）
7F	機械室	7F	自販機コーナー、研修医室、機械室 機械室、医師休憩室
6F	手術部	6F	手術部、外科HCU 輸血部、集中治療部（ICU）、細胞治療センター、ER-ICU
5F	血液浄化療法部、腫瘍センター、医療安全管理部、感染制御部、クオリティ・マネジメント・センター	5F	材料部、手術部、MEセンター 看護部、病理部、医療情報部、症例検討室
4F	外来（小児科）、光学医療診療部	4F	外来（合同内科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科）、潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター、神経難病先端治療センター、不整脈センター、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター、栄養相談室 外来（整形外科）、リハビリテーション部、スポーツ医学診療センター
3F	外来（膠原病・リウマチ内科、呼吸器内科、皮膚科、形成・美容外科）、膠原病・リウマチ先端治療センター、快眠センター	3F	外来（泌尿器科、周産・女性診療科）、腎・膀胱・前立腺がん先端治療センター、検査部（生理検査）、外来化学療法・注射センター、腫瘍センター 検査部（生化、血液、細菌、緊急）、中央採血室
2F	外来（麻酔・蘇生・ペインクリニック科、眼科、精神科、精神科デイケア）	2F	外来（合同外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、血管内治療科） 外来（精神科、心身医療科）、病室（精神科）
1F	臨床試験管理センター、医療支援課、医療連携支援センター、保険医療管理部	1F	医事課（外来受付、入退院受付、支払）、薬剤部（外来）、売店 放射線部（一般撮影、MRI、CT、超音波）
B1F	救命救急センター、高気圧治療部、臨床栄養部	B1F	救命救急センター、薬剤部（入院、注射、夜間）、防災センター、厨房 放射線部（血管撮影、透視撮影）
B2F	物流センター、機械室	B2F	中央電算管理室、病歴管理室、寝具、リネン、医療情報部 外来（放射線治療科）、放射線部（放射線治療、RI検査）、核医学PET・CTセンター
B3F	機械室	B3F	機械室
B4F	機械室	B4F	機械室、ボイラー室

4F— 合同内科：血液、糖尿病・内分泌・代謝、腎臓、老年病、消化器、循環器、神経内科、遺伝子診療科
2F— 合同外科：食道、胃、大腸・肛門、腫瘍化学療法、乳腺、末梢血管、肝胆膵

9 所在地略図



- JR中央・総武線 御茶ノ水駅より 徒歩5分
- 東京メトロ丸の内線 御茶ノ水駅より 徒歩2分 (エレベータ使用可)
- 東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅より 徒歩7分